

2026年度  
こども学科  
シラバス

# ■目次

学修成果(到達目標)	4
カリキュラムマップ	5
カリキュラムツリー	6
1年生 年間予定表	8
1年生 シラバス	10

開講科目	頁	開講科目	頁
英語 I	10	総合表現演習 I	33
英語 II	12	教職論	34
日本語表現法	13	保育原理	36
日本国憲法	14	教育原理	38
現代の社会	16	社会福祉	40
法律入門	17	教育制度論	42
体育基礎	18	子ども家庭福祉	43
体育実技	19	社会的養護 I	44
情報処理 I	20	子ども理解の理論と方法	46
レクリエーション論	22	生涯発達心理学 I	48
数理リテラシー	23	保育内容の指導法 (総論)	50
幼児と環境	24	保育内容の指導法 (環境)	51
幼児と健康	26	保育内容の指導法 (言葉)	53
幼児と表現	27	特別支援教育演習 I	54
幼児と人間関係	29	子どもの保健	55
音楽表現 I	30	教育実習 I	56
音楽表現 II	31	教育実習指導 I	57
造形表現	32	基礎演習 I	58

2年生 年間予定表	61
2年生 シラバス	63

開講科目	頁	開講科目	頁
情報処理 II	63	家庭支援論	88
音楽表現 III	65	子どもの食と栄養	89
総合表現演習 II	67	子育て支援	91
生涯発達心理学 II	69	保育・教職実践演習 (幼稚園)	93
乳児保育 I	71	保育実習 I (保育所)	95
カリキュラム論	73	保育実習 I (施設)	96
保育内容の指導法 (健康)	75	保育実習指導 I	97
保育内容の指導法 (人間関係)	76	保育実習 II	99
保育内容の指導法 (表現)	77	保育実習指導 II	100
特別支援教育演習 II	79	保育実習 III	102
乳児保育 II	80	保育実習指導 III	103
教育相談	81	教育実習 II	105
教育方法論	83	教育実習指導 II	106
社会的養護 II	85	基礎演習 II	107
子どもの健康と安全	87		

ナンバリング	131
教員一覧	135
実務経験を有する教員一覧	136
オフィスアワー	139
成績評価	139

## こども学科

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー

## 学修成果（到達目標）

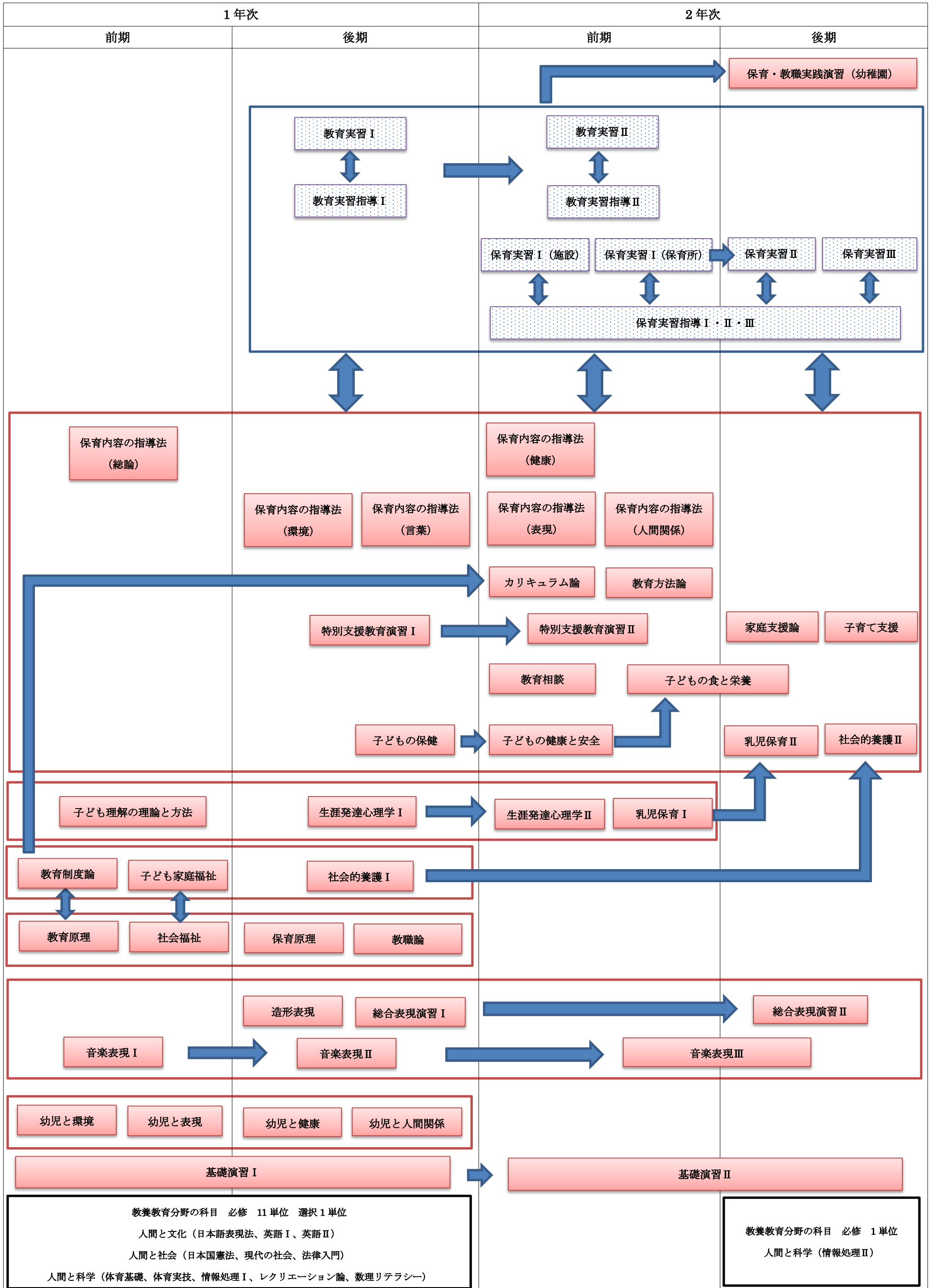
- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ① 子どもの豊かな感性と表現力を育むための基礎的知識や技術を身につけている。
  - ② 保育者としての適切な考え方や態度を身につけている。
  
- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場面に対応できる力
  - ① 子どもの発達段階を理解し、保育に活かすことができる。
  - ② 子ども一人ひとりの健全な発達を保障する保育環境づくりを行うことができる。
  
- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ① 保護者とともに子育てを行う姿勢を基本に、適切な子育て支援体制を築くことができる。
  - ② 適切に状況判断を行い、必要に応じて他者や他機関と連携できる。
  
- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
  - ① つねに、子どもをめぐる社会的歴史的課題や時事問題に関心をもつ。
  - ② 保育に関する自らの課題について、真摯に反省し、自己の向上に努める。
  
- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ① 地域の状況を理解し、子育てを通して地域社会に貢献できる。
  - ② 地域の特徴（自然や文化）を活かした子育て環境を構築できる。

こども学科カリキュラムマップ

学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力  
 学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。  
 ●は、各授業科目が学修成果の1~5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果															単位数		資格取得該当科目				
			1年					2年					必修	選択	幼稚園	保育士	社会福祉 主事任用 資格							
			前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果												
				1	2	3	4	5			1	2	3	4	5									
教養教育分野	人間と文化 ※3単位必修	英語Ⅰ	15	○		●													1		○	○		
		英語Ⅱ	15		○	●														1		○	○	
		日本語表現法	15	○		●		●	●											1			○	
	人間と社会 ※4単位必修	日本国憲法	15	○		●			●											2		○	○	
		現代の社会	8	○		●			●	●										1			○	
		法律入門	8		○	●			●											1			○	
	人間と科学 ※5単位必修	体育基礎	8	○		●			●											1		○	○	
		体育実技	15		○		●		●											1		○	○	
		情報処理Ⅰ	15	○		●	●		●											1		○	○	
		情報処理Ⅱ	15									○		●		●				1		○	○	
レクリエーション論		8	○		●			●											1			○		
数理リテラシー	8	○		●	●													1			○			
幼児教育の基礎 ※4単位以上選択	幼児と環境	15	○		●														2		○	○		
	幼児と健康	8		○	●	●													1		○	○		
	幼児と表現	15	○		●	●													2		○	○		
	幼児と人間関係	8		○	●		●												1		○	○		
基礎技能 ※2単位以上選択	音楽表現Ⅰ	15	○		●	●													1			○		
	音楽表現Ⅱ	15		○		●													1			○		
	音楽表現Ⅲ	15								○		●							1			○		
	造形表現	15		○	●	●													1			○		
	総合表現演習Ⅰ	15		○		●	●	●	●										1			○		
総合表現演習Ⅱ	15									○		●	●	●				1			○			
教育及び保育の本質 ※6単位必修	教職論	15		○	●			●											2		○	○		
	保育原理	15		○	●		●												2		○	○	○	
	教育原理	15	○		●			●											2		○	○	○	
	社会福祉	15	○					●	●										2		○	○	○	
教育及び保育の制度 ※2単位以上選択	教育制度論	8	○		●			●											1		○	○		
	子ども家庭福祉	15	○		●			●											2		○	○	○	
	社会的養護Ⅰ	15		○	●	●													2			○		
教育及び保育の 対象理解 ※3単位必修	子ども理解の理論と方法	15	○		●	●	●	●	●										1		○	○		
	生涯発達心理学Ⅰ	15		○	●			●											2		○	○		
	生涯発達心理学Ⅱ	15								○	●	●							2			○		
	乳児保育Ⅰ	15								○	●	●							2			○		
教育及び保育の 計画と方法 ※12単位必修	カリキュラム論	15								○		●	●						2		○	○		
	保育内容の指導法（総論）	15	○		●	●	●												1		○	○		
	保育内容の指導法（健康）	15								○	●	●							1		○	○		
	保育内容の指導法（人間関係）	15								○		●	●						1		○	○		
	保育内容の指導法（環境）	15		○	●	●													1		○	○		
	保育内容の指導法（言葉）	15		○		●	●												1		○	○		
	保育内容の指導法（表現）	15								○		●	●						1		○	○		
	特別支援教育演習Ⅰ	15		○	●		●												1		○	○		
	特別支援教育演習Ⅱ	15								○		●	●	●					1			○		
	乳児保育Ⅱ	15								○	●	●	●						1			○		
	教育相談	15								○			●		●				1		○	○		
	教育方法論	15								○		●	●		●				2		○	○		
	社会的養護Ⅱ	15								○		●	●		●				1			○		
	子どもの保健	15		○	●		●												2			○		
	子どもの健康と安全	15								○	●	●							1			○		
	家庭支援論	15								○	○		●		●				2			○		
子どもの食と栄養	30								○	●	●							2			○			
子育て支援	15								○	○		●		●				1			○			
総括科目	保育・教職実践演習（幼稚園）	15								○	●	●	●	●	●				2		○	○		
実習	保育実習Ⅰ（保育所）	集中								○	●	●	●	●	●				2			○		
	保育実習Ⅰ（施設）	集中								○	●	●	●	●	●				2			○		
	保育実習指導Ⅰ	15								○	●	●	●	●	●				2			○		
	保育実習Ⅱ	集中								○	●	●	●	●	●				2			※		
	保育実習指導Ⅱ	15								○	●	●	●	●	●				1			※		
	保育実習Ⅲ	集中								○	●	●	●	●	●				2			※		
	保育実習指導Ⅲ	15								○	●	●	●	●	●				1			※		
	教育実習Ⅰ	集中		○	●	●	●	●	●										1		○			
	教育実習指導Ⅰ	10		○	●	●	●	●	●										1		○			
	教育実習Ⅱ	集中								○	●	●	●	●	●				3		○			
教育実習指導Ⅱ	15								○	●	●	●	●	●				1		○				
ゼミナール ※4単位必修	基礎演習Ⅰ	30		○			●	●											2					
	基礎演習Ⅱ	30								○			●	●					2					
総計(卒業要件62単位以上)																	37	55						

※ 本学では「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」を履修することができる。



# こども学科 1年生

- 年間予定表
- シラバス

## 2026年度 こども学科1年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3 入学式	4
	5	6	オリエンテーション	7	オリエンテーション	8 1	9 健康診断	10 1
	12	13	1	14	1	15 2	16 1	17 2
	19	20	2	21	スポーツ大会	22 3	23 2	24 3
	26	27	3	28	2	29	30 3	1 4
5月	3	4		5		6	7 4	8 5
	10	11	4	12	3	13 4	14 5	15 6
	17	18	5	19	4	20 5	21 6	22 7
	24	25	6	26	5	27 6	28 7	29 8
	31	1	7	2	6	3 7	4 8	5 9
6月	7	8	8	9	7	10 8	11 9	12 10
	14	15	9	16	8	17 9	18 10	19 11
	21	22	10	23	9	24 10	25 11	26 12
	28	29	11	30	10	1 11	2 12	3 13
7月	5	6	12	7	11	8 12	9 13	10 14
	12	13	13	14	12	15 13	16 14	17 15
	19	20		21	13	22 14	23 15	24 保育体験活動
	26	27	14	28	14	29 15	30 授業予備日	31 授業予備日
8月	2	3	15	4	15	5 定期試験	6 定期試験	7 定期試験
	9	10		11		12	13	14
	16	17		18		19	20	21 成績発表
	23	24		25		26	27 再試験	28 再試験
	30	31		1		2	3	4
9月	6	7		8		9	10	11
	13	14		15		16	17	18
	20	21		22		23	24 オリエンテーション	25 1
	27	28	1	29	1	30	1	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 こども学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	1	2	3	4	5	
12月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
	1月	3	4	5	6	7	8	9
10		11	12	13	14	15	16	
17		18	19	20	21	22	23	
24		25	26	27	28	29	30	
31		1	2	3	4	5	6	
2月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	1	2	3	4	5	6	
3月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※2月1日(月)は入試のため、土日祝日と同様に五橋キャンパス構内への立入りは一切できません。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02					
	●										
科目名	英語 I				単位認定者	尾形 まゆみ		プレゼンテーション	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40	%
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
	授業回数	15 回									
授業の概要	日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な英文法を身につけ、それを使って読んだり聞いたりしたものを理解することができる。</li> <li>2. 平易な英語を使って身近なことについて書いたり話したりすることができる。</li> <li>3. 英語に対する抵抗感をなくし、自然に英語を使える姿勢を会得する。</li> </ol>										
学修者への期待等	必ず予習をして授業に臨むこと。受講生の積極的かつ意欲的な参加が求められる。授業中いつでも手を上げて質問したり、意見を述べたりして構わない。課題を課された場合、遅れて提出することは認めない。また、欠席が多いと発言の機会、小テスト等の提出が減り、評価が低くなるので、極力欠席はしないこと。テキストは必ず購入すること。テキストを持っていない場合、オンライン課題ができないので単位取得は不可能となる。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス、CheckLinkの設定。 テキスト Pre-Unit 品詞と語順				事前学修：予めテキストに目を通し、おおよその流れを把握しておく。 事後学修：CheckLinkの設定を確実に済ませておく。				30	30	
2	Unit 1 be動詞について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	
3	Unit 2 一般動詞の現在形について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	
4	Unit 3 可算名詞/不可算名詞について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	
5	Unit 4 代名詞について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	
6	Unit 5 一般動詞の過去形について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	
7	Unit 6 進行形について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー				事前学修：テキストをよく読み、全ての問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一度確認しておく。				30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	Unit 7 時と場所を表す前置詞について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー	事前学修：テキストをよく読み、全ての 問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一 度確認しておく。	30	30
9	Unit 8 未来形について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー	事前学修：テキストをよく読み、全ての 問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一 度確認しておく。	30	30
10	Unit 9 現在完了形について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー	事前学修：テキストをよく読み、全ての 問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一 度確認しておく。	30	30
11	Unit 10 比較級/最上級について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー	事前学修：テキストをよく読み、全ての 問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一 度確認しておく。	30	30
12	Unit 11 接続詞について学ぶ。 ペアワークでのコミュニケーション+ライティング アクティビティー	事前学修：テキストをよく読み、全ての 問題に解答しておく。 事後学修：授業で間違えた箇所をもう一 度確認しておく。	30	30
13	プレゼンテーション①：与えられたテーマについて 短いプレゼンテーションを英語で行う。(第1グ ループ)	事前学修：プレゼンテーションのパワー ポイントを作成し、発表の準備を行う。 事後学修：発表者のプレゼン内容につい てのレポートをまとめる。	90	90
14	プレゼンテーション②：与えられたテーマについて 短いプレゼンテーションを英語で行う。(第2グ ループ)	事前学修：プレゼンテーションのパワー ポイントを作成し、発表の準備を行う。 事後学修：発表者のプレゼン内容につい てのレポートをまとめる。	90	90
15	プレゼンテーション③：与えられたテーマについて 短いプレゼンテーションを英語で行う。(第3グ ループ)	事前学修：プレゼンテーションのパワー ポイントを作成し、発表の準備を行う。 事後学修：発表者のプレゼン内容につい てのレポートをまとめる。	90	90
<b>アクティブ・ ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（プレゼンテーション、ペアワーク）			
<b>教科書</b>	『English Aid』Robert Hickling、白倉美里著、金星堂			
<b>参考文献</b>	随時指示する。			
<b>備考</b>	授業内課題については、次回の授業でフィードバックを行う。 詳しくは第1回授業で説明する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

<b>科目ナンバリング</b>
CS-0-HCU-01

科目名	英語Ⅱ			単位認定者	Heap Jonathan		評価の方法	試験（筆記）	30	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数		1 単位	授業内課題	40	%
					授業形態	演習		授業時間数	30 時間	受講態度	30
								授業回数	15 回		
授業の概要	この講義の目的は、幼児教育の現場で使える英語能力の向上である。子どもたちが楽しめる英語の歌やゲーム、紙芝居を授業の中で実体験する。それらの経験を通して、実践的な英語能力の向上を図るとともに、子ども用の英語を用いたゲームについて学習する。										
到達目標	1. ネイティブスピーカーとの会話に慣れる。 2. 今後英語を学び練習する方法について知識を深める。 3. 自然な英語を話す。										
学修者への期待等	Complete the homework, be creative and proactive in the class by asking questions when something is difficult to understand. Making grammatical errors in my class is a positive, so take risks. ①宿題を完成させること。 ②(先生が話す英語の) 理解が難しい時には、遠慮なく質問をしてください。授業中はクリエイティブで前向きな姿勢でいてください。 ③授業中の文法的な誤りを恐れないこと、むしろポジティブな姿勢だとみなします。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	Introductions - Getting to know each other, Question forms, forms of be, present simple				事前学修: Write an introduction 事後学修:				60	0	
2	Likes and Dislikes				事前学修: Write about your hobby 事後学修:				60	0	
3	Abilities (can/be able to)				事前学修: Jobs and skills worksheet 事後学修:				60	0	
4	There is/are - Around town.				事前学修: Write about where you live 事後学修:				60	0	
5	Skills lesson (Reading/Writing)				事前学修: Review 事後学修:				60	0	
6	Last week I... (past tense)				事前学修: Write a diary about your weekend 事後学修:				60	0	
7	Life in the past (used to)				事前学修: Compare your life in highschool to now 事後学修:				60	0	
8	Future plans (will/going to)				事前学修: Write about your next week 事後学修:				60	0	
9	Experiences (have)				事前学修: Write about some of your first time experiences 事後学修:				60	0	
10	Skills lesson (Listening/Speaking)				事前学修: Review 事後学修:				60	0	
11	Reported speech (He said/told me)				事前学修: Read and report 事後学修:				60	0	
12	Communication focus (Planning a party)				事前学修: Report 事後学修:				60	0	
13	Communication focus (Deserted island)				事前学修: Report 事後学修:				60	0	
14	Communication focus (Choosing a hotel)				事前学修: Report 事後学修:				60	0	
15	Skills lesson (Interviews)				事前学修: Review for test 事後学修:				60	0	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ( Interviews )										
教科書	Self-produced worksheets										
参考文献	特になし										
備考	Feedback will be on going.										

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位 認定者	徳田 幸雄		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを旨とする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。</li> <li>日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。</li> <li>目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることででもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴				事前学修：語族について調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
2	日本語の歴史				事前学修：古事記について調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
3	ことばと表現①（熟語、語句）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
4	ことばと表現②（ことわざ、故事成語）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
5	敬語表現①（敬語の基本）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
6	敬語表現②（尊敬語と謙譲語）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
7	話してみよう①（インタビューとショートスピーチ）				事前学修：結婚式スピーチを調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
8	話してみよう②（グループディスカッション）				事前学修：少子化対策を考える 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
9	修飾語と被修飾語との関係①（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
10	修飾語と被修飾語との関係②（練習問題）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
11	句読点の打ち方（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
12	句読点を打つ練習と文章要約①（境界の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
13	句読点を打つ練習と文章要約②（逆転の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
14	意見文の書き方（4 STEPS）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
15	意見文の作成と句読点を打つ練習				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループディスカッション インタビュー ショートスピーチ）									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著 朝日新聞出版 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著 風間書房									
備考	授業内課題については、次の授業内にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-0-HS0-02					
	●			●							
科目名	日本国憲法				単位認定者	淡路 智典		試験(筆記)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	30	%
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度	10
				授業回数		15 回					
授業の概要	近代憲法発展の歴史の変遷について理解し、また日本国憲法と国民生活との関連について考察する。日本国憲法の三原則である、「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」を中心に学習し、私たちの身近に憲法があることを感じ、憲法をより深く理解する。										
到達目標	憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解する。 法的なものの考え方を理解する。 基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようになる。										
学修者への期待等	スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。授業後に関連判例などを調べて学修内容の復習。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ガイダンス、憲法とは				事前学修：シラバスの内容確認 事後学修：教科書(判例集)の読み方を理解する				30	60	
2	憲法概説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む 事後学修：授業内で出てきた法律用語を調べる				30	60	
3	幸福追求権と法の下での平等の解説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法13条、14条について調べる 事後学修：判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する				30	60	
4	精神的自由権(内心の自由)の解説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法19条等について調べる 事後学修：判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する				30	60	
5	精神的自由権(表現の自由)の解説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法21条について調べる 事後学修：判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する				30	60	
6	経済的自由権の解説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法22条等について調べる 事後学修：判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する				30	60	
7	人身の自由の解説				事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法18条等について調べる 事後学修：判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する				30	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	国務請求権と参政権の解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法15条等について調べる 事後学修：判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	30	60
9	社会権の解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法25条等について調べる 事後学修：判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	30	60
10	権力分立の原理と国会の解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法41条等について調べる 事後学修：政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	30	60
11	内閣についての解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法66条等について調べる 事後学修：法制度を参考にして、公務員制度を理解する	30	60
12	裁判所についての解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法76条について調べる 事後学修：法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	30	60
13	天皇制、平和主義についての解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法1条や9条について調べる 事後学修：憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	30	60
14	憲法の保障についての解説	事前学修：スライドを授業前に確認し、憲法81条について調べる 事後学修：憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	30	60
15	まとめ	事前学修：これまで学んだ内容をまとめる 事後学修：授業内容の総まとめをする	30	60
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『判例キーワード憲法』岡田順太/淡路智典/今井健太郎 編 成文堂			
<b>参考文献</b>	『憲法（第8版）』芦部信喜 岩波書店			
<b>備考</b>	各回で小テストを行い、次回の授業の冒頭で解説を行う。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位認定者	丸藤 准二		試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	現代の世界とりわけ日本の社会における様々な問題について、正しい認識と知識を身に付けること。また、社会生活において知識をもとに適切な判断や選択ができるようになること。さらに、各人がこれからの社会生活をより良くする態度を身につけることを目標とします。									
学修者への期待等	毎回の授業に意欲的に取り組んでください。思考の前提となる知識を身に付け、自分で物事を考える習慣をつけましょう。また、実社会の様々な事象に関心をもち、情報に触れるようにしてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	現代の日本社会(日本人・日本社会の特質)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
2	日本の政治(政治参加と選挙, 政党政治)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
3	日本経済の現状(経済発展と停滞)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
4	現代の労働問題(賃金と格差)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
5	日本の人口問題(人口減少と少子高齢化)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
6	資源エネルギー問題(資源の現状と課題)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
7	環境問題と自然災害(地球温暖化と日本の自然災害)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
8	世界の中の日本(現代の国際関係と日本)				事前学修：教科書等で授業の予備知識を得る 事後学修：課題により復習を行う				30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( )									
教科書	『小論文頻出テーマ解説集2026 現代を知るplus』第一学習社									
参考文献	『図解でわかる時事重要テーマ100 2026-2027』日経HR編集部編著 日経HR 授業において参考文献を適宜紹介します。									
備考	毎回資料を配布します。課題のフィードバックは次回の講義で行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
該当しない。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

<b>科目ナンバリング</b>
CO-0-HS0-04

科目名	法律入門				単位認定者	武居 沙弥佳		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	35 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	法律の基本的知識を習得し、社会問題に関連する法を一定程度予想できるようになる。また、問題解決等のために、学生が、司法および行政に自らアクセスできるようになる。さらに、グループワークを通じて、課題解決およびコミュニケーションの能力を養うことを目標とする。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いため、事前に教科書等を熟読し、復習を中心に学習を進めてください。各法制度の内容や事例の結論を暗記するのではなく、制度導入の背景や問題の本質を自分なりに考え、説明できるように心がけてください。グループワークでは、対話を通じて問題解決のために協力する経験を得て欲しい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	学習ガイダンス、法律入門、司法制度、条文検索、判例検索、法の解釈				事前学修：教科書1章を読み、予習することを求める。 事後学修：資料等を参照して復習を行うこと。				15	30
2	民法(1) (契約法、消費者法)				事前学修：教科書2・3章を読み、基本的内容を予習することを求める。 事後学修：資料・教科書を参照して復習する。				15	30
3	民法(2) (不法行為、家族法)				事前学修：教科書4・5章を読み、基本的内容を予習することを求める。 事後学修：資料・教科書を参照して復習する。				15	30
4	刑法(犯罪と刑罰)				事前学修：教科書6・7章を読み、基本的内容を予習することを求める。 事後学修：資料・教科書を参照して復習する。				15	30
5	労働法 (グループワーク)				事前学修：教科書11章を読み、基本的内容を予習することを求める。 事後学修：資料・教科書を参照し、グループ発表の準備をする。				15	30
6	行政法(行政と租税法)				事前学修：配布資料を読み、基本的内容を予習すること。 事後学修：資料を参照して復習をする。				15	30
7	社会保障法				事前学修：配布資料を読み、基本的内容を予習すること。 事後学修：資料を参照して復習をする。				15	30
8	国際法 (グループ発表)				事前学修：グループ発表の準備をする。 事後学修：資料を参照して確認する。				30	15
アクティブ・ラーニング	□該当なし ✓該当あり：キーワード(グループワーク・グループ発表)									
教科書	『プレステップ法学』池田真朗、弘文堂									
参考文献	『ケースで学ぶ実践への法学入門』富永晃一他著、中央経済社 他、講義内で適宜紹介する。また、講義では、毎回レジュメや資料の配布をする。									
備考	パソコン等の検索できる環境を各自整えること。質問等については、授業内および授業後も対応する。授業内課題(グループ発表)は、PowerPointによる報告を課す予定である。この授業内課題のフィードバックは、授業内で行なう。試験(レポート)課題は、最終授業で説明する。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	CS-0-HSC-01				
	●			●						
科目名	体育基礎				単位認定者	中曽根 裕		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
				授業回数			8 回			
授業の概要	<p>身体活動・スポーツの意義や重要性を理解することを目的とする。これによって、生涯を通じて身体の自己管理及び生涯スポーツの奨励等は、より健康な生活を送るために欠かせないものであることが認識できる。</p> <p>自身の健康管理に関心を持たせ、計画的に運動を実践する習慣付けを行い、自らの健康寿命延伸へのセルフコントロールが出来るような方法を学ぶ。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたり健康で有意義な人生を送るために必要なライフスタイルを説明できる。</li> <li>・運動・スポーツが果たす意義や役割について、基礎的内容を理解し説明することができる。</li> <li>・運動・スポーツに関する基礎知識を活用し、自らの生活に適用できるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	積極的な姿勢で授業に臨むこと。講義で得た知見を今後の生活の中で実践していくことを期待しています。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	生涯スポーツの基本的な考え方について				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
2	運動と健康との関係について :ペアワーク				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
3	体力とは何か(体力の構造について)				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
4	運動習慣と筋力の加齢変化について				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
5	座位時間と健康との関連性				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
6	スポーツ基本計画とは :ペアワーク				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
7	個々人に応じた運動プログラムとは(運動処方) 運動プログラムの立案・作成 :グループワーク				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
8	運動プログラム(運動処方)作成・提出				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ペアワーク、グループワーク、立案)									
教科書	必要に応じて文献・資料を配布する。									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
CS-0-HSC-02

科目名	体育実技				単位認定者	中曽根 裕		評価の方法	試験(レポート)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	15	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	15	%
				授業形態	実習	授業回数	15 回				
授業の概要	<p>学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、今後の社会生活の基盤となる体力及び生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身に付けることを目的とする。</p> <p>具体的には、ストレッチング、ニュースポーツ、バスケットボール、バレーボール、フットサル等を行い、基礎技能やルールを理解した上でミニゲームやグループ試合等を行う。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動を通して体力の向上を図る活動を実施できる。</li> <li>生涯にわたり健康で有意義な生活を送るために必要な生涯スポーツの技能を身に付け活用できる。</li> <li>生涯スポーツに主体的に取り組む態度を身に付ける。</li> </ul>										
学修者への期待等	運動のできる服装を用意すること。積極的な姿勢で授業に臨むこと。また、グループによる活動も多いので、協力して活動に取り組むこと。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス(授業の進め方、準備物について)信頼関係とホスピタリティ・トレーニング(グループワーク)				事前学修:ホスピタリティについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
2	動的ストレッチングとアイスブレイキング(実技)				事前学修:ストレッチの効果を調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
3	ニュースポーツ①(フライングディスク・ドッチビー)(実技)				事前学修:ドッチビーについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
4	ニュースポーツ②(ユニバーサル・ホッケー)基礎技能・ミニゲーム(実技)				事前学修:ユニバーサルホッケーについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
5	ニュースポーツ③(ユニバーサル・ホッケー)試合(実技)				事前学修:ユニバーサルホッケーについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
6	ポートボール①基礎技能・グループ練習・ミニゲーム(実技)				事前学修:ポートボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
7	ポートボール② 試合(前半)(実技)				事前学修:ポートボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
8	ポートボール③ 試合(後半)(実技)				事前学修:ポートボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
9	ソフトバレーボール①基礎技能・グループ練習・ミニゲーム(実技)				事前学修:ソフトバレーボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
10	ソフトバレーボール② 試合(前半)(実技)				事前学修:ソフトバレーボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
11	ソフトバレーボール③ 試合(後半)(実技)				事前学修:ソフトバレーボールについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
12	フットサル①基礎技能・グループ練習・ミニゲーム(実技)				事前学修:フットサルについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
13	フットサル② 試合(前半)(実技)				事前学修:フットサルについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
14	フットサル③ 試合(後半)(実技)				事前学修:フットサルについて調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
15	体力測定(実技)				事前学修:体力測定について調べる。事後学修:授業内容を整理しまとめる。				30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(グループワーク、実技、練習、試合)										
教科書	必要に応じて文献・資料を用意する。										
参考文献	特になし										
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)  
該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●	●		●						
科目名	情報処理 I				単位認定者	氏家 留美子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。さまざまなICTツールで情報を収集・整理・評価し、ICTを活用した情報分析ができるようになる。</p> <p>◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。</p> <p>◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。計算式や関数を使う。データにふさわしいグラフの種類を選び作成できる。</p> <p>◆PowerPoint：プレゼンテーションの目的や構成について理解し、視認性のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。操作に不慣れた学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備すること。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Word(実技)：ビジネス文書の基礎知識(ビジネス文書の構成と作成方法)				事前学修：教科書10～17ページを読んでおく 事後学修：教科書95ページ(文書の基本形)を覚える				30	30
2	Word(実技)：Wordの基本操作(書式設定・印刷設定) 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策				事前学修：教科書27～31ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するセキュリティ関連の問題を解く				30	30
3	Word(実技)：情報の整理(表を用いた文書作成)				事前学修：教科書39～45ページを読んでおく 事後学修：教科書46ページ(実習03)を操作する				30	30
4	Word(実技)：いろいろな書式設定の活用方法(段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター)				事前学修：教科書50～57ページを読んでおく 事後学修：教科書59ページ(実習08)を操作する				30	30
5	Word(実技)：文書の表現力アップ(イラスト・写真・ワードアート・図形描画)				事前学修：教科書60～68ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するWord課題を完成させる				30	60
6	Word(実技)：レポートなどの長文作成をサポートする操作(見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換) 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール				事前学修：教科書6～7ページを読んでおく 事後学修：授業で指示する著作権関連の問題を解く				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	PowerPoint (実技) : プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定	事前学修: 教科書194~222ページを読んでおく 事後学修: 授業で指示するプレゼン課題のテーマを考え、構成を下書きする	30	30
8	PowerPoint (実技) : アニメーションの設定・図解表現の手法・生成AIを活用した情報収集と内容整理・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成	事前学修: 教科書233~237ページを読んでおく 事後学修: 授業で指示するプレゼン課題を完成させる	30	90
9	Excel (実技) : Excelの基本操作 (四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定)	事前学修: 教科書96・110~123ページを読んでおく 事後学修: 教科書108ページ(実習15)を操作する	30	30
10	Excel (実技) : 数式を効率的かつ正確に作る (相対参照と絶対参照の使い分け)	事前学修: 教科書139ページを読んでおく 事後学修: 教科書140ページ(例題11)を操作する	30	30
11	Excel (実技) : 数値を評価するための基本的関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTA)	事前学修: 教科書141ページを読んでおく 事後学修: 教科書153ページ(実習21)を操作する	30	30
12	Excel (実技) : データを視覚的に分析・評価(グラフ作成)	事前学修: 教科書156~161ページを読んでおく 事後学修: 教科書164・165ページ(実習24・25)を操作する	30	30
13	Excel (実技) : 基準に基づくデータの整理や抽出 (データベースのしくみ・並べ替え・フィルター)	事前学修: 教科書168~173ページを読んでおく 事後学修: 教科書175ページ(実習29)を操作する	30	30
14	Excel (実技) : データを条件付きで処理・集計 (IF・COUNTIF・SUMIF関数など) 関数のまとめ①(データの評価・集計するための関数の活用)	事前学修: 教科書143~145ページを読んでおく 事後学修: 教科書144~145ページ(例題14)を操作する	30	30
15	Excel (実技) : 特定の値を基に検索とデータ取得 (VLOOKUP関数など) 関数のまとめ②(データの整理・分析するための関数の活用)	事前学修: 教科書146ページを読んでおく 事後学修: 教科書146ページ(例題15)を操作する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ( 実技 )			
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子/大澤栄子 著 実教出版			
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。			
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-0-HSC-04				
	●			●						
科目名	レクリエーション論				単位認定者	中曽根 裕		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
					授業形態		講義		授業時間数	16 時間
				授業回数			8 回			
授業の概要	これからの時代余暇生活の充実が、ひとりひとりの豊かな人生の実現に大きな関わりをもってくる。そこでホイジングやカイヨワの遊戯研究から「遊戯」についての本質・定義について論理的に学び、現代のレクリエーションの社会的意義やレクリエーション支援の諸理論について理解を深める。また、子どもを対象としたレクリエーションプログラムの展開に必要な知識・技術を学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションの社会的意義およびレクリエーション支援に関する諸理論を理解し、説明することができる。</li> <li>子どもを対象としたレクリエーションプログラムの展開に必要な基礎知識を習得し、活用することができる。</li> <li>理論と基礎知識を踏まえ、子どもに適したレクリエーション活動を計画・実践することができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	学修したレクリエーション支援の諸理論を活かし保育現場で実践していくことを期待しています。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	レクリエーションの概念と目的とは (支援の目的と方法)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
2	楽しさと心の健康作り理論①：ペアワーク (楽しさを感じる心の仕組みと支援方法とは)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
3	楽しさと心の健康作り理論② (地域のきずなづくりとレクリエーションとは)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
4	レクリエーション支援理論①：ペアワーク (コミュニケーションと信頼関係づくり)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
5	レクリエーション支援理論②：グループワーク (良好な集団づくり)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
6	レクリエーション支援理論③：グループワーク (自主的・主体的に楽しむ力を育む)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
7	レクリエーション支援のプログラム① (リスクマネジメントの視点と方法)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
8	レクリエーション支援のプログラム② (プログラムの立案の視点と方法)				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ペアワーク、グループワーク、立案)									
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-02				
	●	●								
科目名	数理リテラシー				単位認定者	前田 幸仁 中島 拓		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。									
到達目標	本科目では、学生として必要な知識を習得するとともに、論理的な思考能力を身につけることが目標である。筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。学生として必要な知識を習得するとともに、論理的な思考能力を身につけることが目標である。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方やデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	分数や小数の計算・四則計算				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
2	割合と百分率(損益算・仕事算・濃度算)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
3	速さ(速さ・時間・距離、旅人算)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
4	数的推理①(図形)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
5	数的推理②(確率)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
6	統計の基礎①(実数、指数)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
7	統計の基礎②(総量と構成比、増加率)				事前学修：授業前に指定範囲のポイントを読み基礎的内容を理解する。 事後学修：授業で解いた問題の復習		30	60	前田 幸仁	
8	生成AIの利用と倫理(個人演習、体験)				事前学修：参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験 事後学修：		30	0	中島 拓	
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(個人演習・体験)									
教科書	『数的推理[問題編]』、『数的推理[解答編]』 大原出版株式会社									
参考文献	第8回講義の事前学習資料： <a href="https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/IQCS4g_71HSKSqf17iK_19KFAQYW18XgTvNvCtK68A00vuI?e=17Vg2k">https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/IQCS4g_71HSKSqf17iK_19KFAQYW18XgTvNvCtK68A00vuI?e=17Vg2k</a>									
備考	フィードバックは授業内に行います。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(中島)業務経験：システム開発業務での生成AIツールを利用経験3年、社内ISMS委員長としてセキュリティ管理経験7年、自社および顧客サーバー管理経験20年、システム開発業務経験25年  
資格：ソフトウェア開発技術者(IPA)  
関連性：情報セキュリティ知識と管理・運用経験、生成AIの基本的な仕組みの理解と利用経験、ITシステムとサービスに対する知識と開発・運用経験からの内部理解

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●				●

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-BSN-01

科目名	幼児と環境				単位 認定者	小野瀬 剛志 田中 公一		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>幼児の発達における環境の重要性について学ぶ。幼児の発達にとって、自然環境、社会環境、人的環境、物的環境がもつ意味を理解し、よりよい環境とは何かについて体験や知識の獲得を通して理解を深める。また、現代的課題としての幼児教育と環境の関係性について理解を深める。</p>									
到達目標	<p>1 幼児の発達における環境の重要性を理解する。 2 自らの体験を通して、幼児の発達にとって適切な環境とは何かを理解する。 3 自らの考えた環境の重要性を反映した保育計画を立てられる。</p>									
学修者への期待等	<p>この授業は講義形式で行う授業だけでなく、実際の体験をもとに、自らの考えをまとめ、発表する内容が含まれているので、積極的な授業参加をお願いします。</p>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	ガイダンス (授業概要の説明、人間発達における4つの環境)				事前学修：シラバスを読んで授業内容を理解しておく 事後学修：4つの環境について、それぞれ重要性を理解する		30	30	小野瀬 剛志	
2	人的環境と「心」の発達【遠隔 (オンデマンド)】				事前学修：「自立」とはどういうことか考えてくる 事後学修：幼児期とそれ以降の「心」の成長の関係を整理する		30	30	小野瀬 剛志	
3	環境と子どもの発達 (人間の成長は、素質か、環境か?) 【遠隔 (オンデマンド)】				事前学修：人間の発達に影響があるのは、素質か環境か、自分の考えをまとめる 事後学修：「才能」について保育の観点から整理する		30	30	小野瀬 剛志	
4	現代の生活環境と保育① (日本の家族の変化) 【遠隔 (オンデマンド)】				事前学修：少子化の要因について、家族の視点から考えてくる 事後学修：授業で学んだことを踏まえて、今後の「家族」と「保育」について考えをまとめる		30	30	小野瀬 剛志	
5	現代の生活環境と保育② (自然、社会環境の変化) 【遠隔 (オンデマンド)】				事前学修：幼児期における自然体験の意味について調べておく 事後学修：自然を利用した保育の方法についてまとめる		30	30	小野瀬 剛志	
6	現代の生活環境と保育③ (「持続可能な社会」と幼児教育) 【遠隔 (オンデマンド)】				事前学修：ESD, SDGsについて調べておく 事後学修：保育とSDGsの関係を整理する		30	30	小野瀬 剛志	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	身近な環境を利用した保育計画の考え方	事前学修：保育計画の立て方について調べておく 事後学修：実施してみたい保育計画を具体化する	30	30	小野瀬 剛志
8	保育計画の準備	事前学修：実施してみたい保育計画案をいくつか考えておく 事後学修：他の学生の計画から参考になる点をまとめる	30	30	小野瀬 剛志 田中 公一
9	身近な施設と保育①（植物園見学）	事前学修：植物園で実施してみたい「遊び」について考えておく 事後学修：植物園での保育活動について自分の考えをまとめる	30	30	小野瀬 剛志 田中 公一
10	植物（園）と保育（植物園振り返り：グループワーク）	事前学修：植物園での保育計画を考えておく 事後学修：他のグループの保育計画から参考になる点をまとめる	30	30	小野瀬 剛志 田中 公一
11	身近な施設と保育②（動物園見学）	事前学修：動物園の環境について調べておく 事後学修：動物園での保育活動について自分の考えをまとめる	30	30	小野瀬 剛志 田中 公一
12	動物（園）と保育（動物園振り返り：グループワーク）	事前学修：動物園での保育計画を考えておく 事後学修：他のグループの保育計画から参考になる点をまとめる	30	30	小野瀬 剛志 田中 公一
13	身近な施設と保育③（公園）	事前学修：公園で保育を行う際に想定できることをまとめておく 事後学修：事前の想定について自己評価する	30	30	Aクラス：小野瀬剛志 Bクラス：田中公一
14	身近な環境と子どもの発達（公園体験の振り返り：グループワーク）【遠隔（オンライン）】	事前学修：体験した内容を整理しておく 事後学修：他のグループの参考になる点を整理する	30	30	小野瀬 剛志
15	総括（人的環境としての保育者）	事前学修：これまでの学修内容を整理しておく 事後学修：提示された課題について検討する	30	30	小野瀬 剛志
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
<b>教科書</b>	『持続可能な社会をつくる幼児期のESD 論—子どもと環境—』降旗信一・菊池稔編著、人言洞				
<b>参考文献</b>	適宜紹介する				
<b>備考</b>	9・10回目は2クラスに分けて実施し、各教員が2クラス担当するが、13回目は各教員が1クラスずつ担当する。ただし、状況によっては4クラスに分けて実施する場合もあり、その際は各教員が2クラスずつ担当する。 授業内で課した課題については、後日コメント等を付して返却する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-BSN-02				
	●	●								
科目名	幼児と健康				単位認定者	中曽根 裕		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
							授業時間数		16 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			8 回	
授業の概要	<p>本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について、理解を深める。また、健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領に示される「健康」領域のねらいや内容を理解し、説明することができる。</li> <li>・「健康」領域を通して育成すべき内容を把握し、そのために必要な援助の方法について説明することができる。</li> <li>・心身の健康課題を理解し、安全な生活や怪我の予防に関する具体的な方法を習得し、実施できるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	日頃から子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	子どもにとっての「健康」とは :ペアワーク				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
2	人間の心とからだの発育発達について				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
3	幼児期の心とからだの発育発達について				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
4	生活スタイルの現状と課題 :ペアワーク				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
5	基本的な生活習慣の形成について				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
6	幼児の体力と運動				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
7	幼児の安全教育(事故と予防):グループワーク				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
8	これからの「健康」分野の課題について				事前学修:教科書に目を通し理解を深める。 事後学修:授業内容を整理しまとめる。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(ペアワーク、グループワーク)									
教科書	『保育内容 健康—保育の内容・方法を知る』第3版 花井忠征・野中壽子 編著、北大路書房									
参考文献	適宜、授業にて指示する。									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
 該当しない。

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-BSN-03

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	幼児と表現				単位認定者	鈴木 純子 芳賀 哲		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内 課題等	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	

**授業の概要**  
本科目では、領域「表現」の指導力の基礎となる知識・技能・表現力を身につけることをめざす。音楽表現と造形表現の基礎知識と平易な理論、技能を学ぶことを通して、幼児の表現の育ちを支える立場にふさわしい感性を豊かにする。

**到達目標**  
1) 幼児の表現に関する知識・技能・表現力への理解を深める。  
2) 幼児の年齢に応じた表現活動に展開させることができる。  
3) 表現についての体験を通し、幼児の表現を促す環境や適切な教材について工夫することができる。

**学修者への期待等**  
「幼児の表現」について主体的な考察及び実践を重ね、学びを深めることを期待します。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	領域「表現」について	事前学修：教科書P.8～14を読んでおく 事後学修：授業のまとめを確認する	30	30	鈴木 純子
2	各領域と表現	事前学修：領域について幼稚園教育要領で確認する 事後学修：授業のまとめをする	30	30	鈴木 純子
3	子どもの表現と保育者の役割	事前学修：保育者の役割について考える 事後学修：授業を振り返る	30	30	鈴木 純子
4	表現を育む保育環境      保育現場の表現      発表	事前学修：音感受について教科書を確認する 事後学修：発表を振り返る	30	30	鈴木 純子
5	表現と評価（ディスカッション）	事前学修：教科書P.60～66を読む 事後学修：授業を振り返る	30	30	鈴木 純子
6	環境を通した保育について	事前学修：教科書p.68～81を確認する 事後学修：授業を振り返る	30	30	鈴木 純子
7	保育現場の表現      環境構成を考える （グループワーク）	事前学修：教材の準備を行う 事後学修：発表を振り返る	30	30	鈴木 純子
8	保育現場の表現      グループ発表	事前学修：発表の確認する 事後学修：発表を振り返る	60	30	鈴木 純子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	幼児の表現と造形について学ぶ	事前学修：教科書の1章「造形表現の意義」を読んでおく 事後学修：振り返る	30	30	芳賀 哲
10	三歳までの遊びと造形表現能力の発達を学ぶ	事前学修：教科書の4章「子どもの造形表現の発達」を読んでおく 事後学修：振り返る	30	30	芳賀 哲
11	三歳～五歳位までの遊びと造形表現能力の発達を学ぶ	事前学修：3歳までの造形に関わる発達について復習する 事後学修：振り返る	30	30	芳賀 哲
12	イメージを広げる(同じ形から作品を作る)活動を通じ、造形活動の重要性を学ぶ。	事前学修：子どもの造形表現の発達について復習する 事後学修：計画する	30	30	芳賀 哲
13	モダンテクニックについて学ぶⅠ(技法について、グループごとに作成する))	事前学修：モダンテクニック一般について調べておく 事後学修：振り返る	30	60	芳賀 哲
14	モダンテクニックについて学ぶⅡ(技法を使って表現する。グループワーク)	事前学修：モダンテクニックを使った表現の準備をする 事後学修：振り返る	30	30	芳賀 哲
15	幼児に対する造形指導の在り方を学ぶ。	事前学修：モダンテクニックを使った作品を完成させる 事後学修：振り返る	60	30	芳賀 哲
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 発表    グループワーク    ディスカッション    ）				
<b>教科書</b>	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい 『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林				
<b>参考文献</b>	『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『伝承あそび事典』芸術教育研究所編、黎明書房				
<b>備考</b>	課題のうち提出されたものに関しては、内容確認の上次回以降返却する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(芳賀)造形表現に関する書籍を11冊出版。幼稚園教諭・保育士等研修会において、幼児の表現に関する講演活動を年間7～8回程度行っている。また、児童館・こども園等において、ペープサート・ハンドパペット・手作り工作を使ったパフォーマンスを毎月10回程度行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-BSN-04				
	●		●							
科目名	幼児と人間関係				単位認定者	平田 修三		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人間が本来的に持っている“他者とつながる”本性、そして、幼児が他者や集団との関係のなかで発達していく側面について学びながら、幼児教育で保障すべき教育内容について検討する。さらに、具体的な事例をもとにしながら、実際の幼児教育現場でみられる人間関係のありようや現代の子どもを取り巻く人間関係をめぐる諸課題についても理解を深めつつ、領域「人間関係」の指導の基盤となる専門知識を身に付ける。									
到達目標	1. 子どもの発達における「人間関係」の意味について理解できる。 2. 関係発達論的な視点から、具体的な幼児教育場面や人間関係について考察できる。 3. 領域「人間関係」の視点に基づき、具体的な幼児教育場面について討議できる。									
学修者への期待等	グループワークに積極的に参加し、自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。また、日ごろから乳幼児や保育、子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけること。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	領域「人間関係」とは何か？				事前学修：「幼稚園教育要領」の第1章「総則」に目を通して予習する。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
2	ヒトの子育ての本来の特徴と現代の子育て				事前学修：「育児の悩み」についてインターネット等で事前に調べる。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
3	領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い				事前学修：「幼稚園教育要領」の第2章「人間関係」に関わるページ (PP. 16-17) に目を通して予習する。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
4	社会性の発達と保育者の援助 (1) 3歳未満児 (練習 [日誌記入])				事前学修：3歳未満児の発達的特徴について調べる。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
5	社会性の発達と保育者の援助 (2) 3歳以上児 (練習 [日誌記入])				事前学修：3歳以上児の発達的特徴について調べる。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
6	1日の保育の流れと「人間関係」 (グループ討議 [事例検討])				事前学修：園の1日の流れについてインターネット等で調べる。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
7	園行事と「人間関係」 (グループ討議 [事例検討])				事前学修：自分の記憶に残っている園行事についてノートに書き出す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
8	領域「人間関係」と指導計画				事前学修：保育指導計画案の書き方について復習しておく。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( 練習 [日誌記入]、グループ討議 [事例検討] )									
教科書	なし (適宜、講義資料を配布する)									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	事後学修やアクティブラーニング (練習、グループ討議) の提出物については、Teams上に保存し、受講者が相互参照できるようにする。さらにそこで教員によるフィードバックも行う。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-01					
	●	●									
科目名	音楽表現 I				単位認定者	田宮 希砂		試験 (レポート)	40	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30	%
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度	30
				授業回数		15 回					
授業の概要	本科目では、『保育所保育指針』及び『幼稚園教育要領』を踏まえ、音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する。ピアノ実技指導は、保育の現場で活用できる教材を使用し、少人数のグループ及び個人指導の形で行う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に求められる音楽表現の役割について理解し、音楽表現に関する基礎的な知識を身につける。</li> <li>・乳幼児期における音楽表現の特徴を理解し、簡単な音楽表現を自ら体験する。</li> <li>・ピアノ実技や表現活動を通して、保育の現場で用いられる音楽教材に親しむ。</li> </ul>										
学修者への期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。グループ担当教員と考えた毎回の課題に十分に取り組んでから授業に参加しましょう。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ガイダンス 保育の音楽表現の導入				事前学修：入学前課題に取り組む 事後学修：配布された資料に目を通す				30	60	
2	鍵盤楽器① 楽譜と音名（実技）				事前学修：第1回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料3・4・5を復習する				60	60	
3	保育と音① 子どもと音（グループワーク）				事前学修：第2回授業の課題に取り組む 教科書p.2-7 を読んでくる 事後学修：グループワークの内容をまとめる				60	60	
4	鍵盤楽器② 図形楽譜で遊ぶ（実技）				事前学修：第3回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料6・7を復習する				60	60	
5	保育と音② 身の回りにある音に気づく・音探し（グループワーク・実技）				事前学修：第4回授業の課題に取り組む 教科書p.8-29を読んでくる 事後学修：グループワークの内容をまとめる				60	60	
6	鍵盤楽器③ 音符と休符（実技）				事前学修：第5回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料8・9・10・11・12を復習する				60	60	
7	保育と音③ 保育者としての音楽観（グループワーク）				事前学修：第6回授業の課題に取り組む 教科書p.52-59を読んでくる 事後学修：グループワークの内容をまとめる				60	60	
8	鍵盤楽器④ 拍子とリズム（実技）				事前学修：第7回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料13・14・15・16・17を復習する				60	60	
9	保育と音④ 音の探究と保育の様々な楽器（グループワーク・実技）				事前学修：第8回授業の課題に取り組む 事後学修：グループワークの内容をまとめる				60	60	
10	鍵盤楽器⑤ 音階① 世界の音階・音楽（グループワーク・実技）				事前学修：第9回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料18・19・20・21を復習する				60	60	
11	保育と音⑤ 保育現場の音環境（実技）				事前学修：第10回授業の課題に取り組む 教科書p.29-37を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
12	鍵盤楽器⑥ 音階② 長音階と短音階（実技）				事前学修：第11回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料22・23・24・25を復習する				60	60	
13	鍵盤楽器⑦ 子どもの歌の伴奏について（実技）				事前学修：第12回授業の課題に取り組む 事後学修：発表の内容を決め準備を進める				60	60	
14	保育と音⑥ 歌と楽器による表現（実技）				事前学修：第13回授業の課題に取り組む 事後学修：発表にむけて練習を行う				60	60	
15	保育と音⑦ 歌と楽器演奏の実践（実技・グループワーク・発表）				事前学修：第14回授業の課題に取り組む 事後学修：発表を振り返りまとめる				60	60	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク 実技 発表）										
教科書	『こどものうた100』小林美実編、チャイルド本社 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい										
参考文献	初回授業において「楽譜をよむための基礎知識」に関する資料を配布する。その他随時配布										
備考	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授業を行う。UNIPAで行った課題に関しては、内容確認の上次回以降教員よりフィードバックする。										

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、保育現場における音楽表現について、具体的な実践を通して指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-02					
		●									
科目名	音楽表現Ⅱ				単位認定者	田宮 希砂		試験(レポート)	40	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30	%
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	30	%
						授業回数	15 回				
授業の概要	本科目では、音楽表現Ⅰで学んだ基礎知識と技能を基に、季節や行事にあわせて「弾き歌い」のレパートリーを増やし、保育現場での表現力を高めてゆくことを目標とする。ピアノ実技指導は、一人ひとりの進度に配慮し、少人数のグループ及び個人指導の形で行う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発達を踏まえ、音楽表現のねらいや方法を理解する。</li> <li>・保育の場面を想定し、ピアノ実技や歌唱を用いた音楽表現を実践することができる。</li> <li>・保育の場面や子どもの姿を意識した音楽表現活動を工夫することができる。</li> </ul>										
学修者への期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。グループ担当教員と考えた毎回の課題に十分に取り組んでから授業に参加しましょう。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ガイダンス 保育現場の音楽あそび(実技)				事前学修：音楽表現Ⅰの課題を復習する 教科書p.82-95を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
2	子どもの歌の弾き歌い① 和音とコードネーム(実技)				事前学修：第1回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料29・30を復習する				60	60	
3	保育実践における音楽① 発達と音楽表現(グループワーク)				事前学修：第2回授業の課題に取り組む 教科書p.95-103を読んでくる 事後学修：発達について考えをまとめる				60	60	
4	子どもの歌の弾き歌い② メロディを弾きながら歌う(実技)				事前学修：第3回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容を復習する				60	60	
5	保育実践における音楽② 保育と音楽教育法(実技)				事前学修：第4回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
6	子どもの歌の弾き歌い③ 単音伴奏による弾き歌い(実技)				事前学修：第5回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料31・32を復習する				60	60	
7	保育実践における音楽③ 声を使った遊びと歌いかけ(実技)				事前学修：第6回授業の課題に取り組む 教科書p.104-107を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
8	子どもの歌の弾き歌い④ 和音伴奏による弾き歌い(実技)				事前学修：第7回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料33・34・35を復習する				60	60	
9	保育実践における音楽④ 弾き歌いについて(グループワーク)				事前学修：第8回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
10	子どもの歌の弾き歌い⑤ 様々な伴奏パターンによる弾き歌い(実技)				事前学修：第9回授業の課題に取り組む 事後学修：コード伴奏について復習する				60	60	
11	保育実践における音楽⑤ 保育現場の表現活動と環境構成(実技)				事前学修：第10回授業の課題に取り組む 教科書p.60-82を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
12	子どもの歌の弾き歌い⑥ 世界の歌やリズムに親しむ(実技)				事前学修：第11回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60	
13	子どもの歌の弾き歌い⑦ 世界のリズムを表現する(グループワーク・実技)				事前学修：第12回授業の課題に取り組む 事後学修：発表準備をする				60	60	
14	保育実践における音楽⑥ 歌唱活動実践(グループワーク・実技・発表)				事前学修：第13回授業の課題に取り組む 事後学修：発表を振り返りまとめる				60	60	
15	保育実践における音楽⑦ 歌唱活動実践の振り返り(グループワーク・実技)				事前学修：第14回授業の課題に取り組む 事後学修：15回の授業を振り返り、今後の課題設定をする				60	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク 実技 発表 実践)										
教科書	『こどものうた100』小林美実編、チャイルド本社 『続こどものうた200』小林美実編、チャイルド本社 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい										
参考文献	音楽表現Ⅰで配布した「楽譜をよむための基礎知識」に関する資料を引き続き使用する。その他随時配布										
備考	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授業を行う。UNIPAで行った課題に関しては、内容確認の次回以降教員よりフィードバックする。										

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、子どもと音楽との関りについて、具体的な実践を通して指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-04			
	●	●							
科目名	造形表現				単位認定者	芳賀 哲		試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数	30 時間	授業態度
							授業回数	15 回	
授業の概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と「保育所保育指針」を踏まえて、子どもが意欲的に造形活動を楽しみ、取り組めるように、援助者としての理解を深め、技能を高める。								
到達目標	①指導者として自らが造形表現を楽しむ。 ②幼児が参加したくなる造形活動を考え、具体的にどのように導くのかを実践する。 ③活動を指導案上にまとめられるようになる。								
学修者への期待等	造形表現活動を楽しみ、その体験をどのように子どもたちに伝えるかを深く追求してほしい。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	幼児にとっての造形活動の意義、及び計画について学ぶ				事前学修：テキストの5章の「造形表現指導の実際」①～⑤を読んでおくこと 事後学修：復習すること			60	30
2	自己紹介グッズの計画書を仕上げる				事前学修：造形プログラム計画について復習しておくこと 事後学修：計画に従って準備する			60	30
3	自己紹介グッズを作る(実技)				事前学修：自己紹介グッズ作りの準備をしておくこと 事後学修：作品を作り上げる			60	60
4	自己紹介グッズの添削を受け、修正を加える				事前学修：作品を添削してもらえる状態にしてくる 事後学修：作品を完成する			30	30
5	自己紹介グッズを発表する				事前学修：自己紹介グッズを完成してくる 事後学修：発表を振り返る			90	30
6	造形指導の指導案について学ぶ				事前学修：テキストの5章の「造形表現指導の実際模擬」⑥～⑧を読んでおくこと 事後学修：復習すること			60	30
7	クルクル回るおもちゃを作り、それに対する指導案を考える				事前学修：指導案の書き方のプリントを読んでくる 事後学修：指導案を書けるところまで書いてみる			30	30
8	クルクル回るおもちゃの指導案を作成する				事前学修：途中まで仕上げた指導案を書き方のプリントと照らし合わせてみる 事後学修：指導案を完成させる			30	60
9	作成した指導案の添削を受ける。また折り紙で幼児に喜ばれる作品を作り、プレゼント交換する				事前学修：添削してもらえる状態まで仕上げる 事後学修：指導案について、まとめておく			30	30
10	紙皿でリースを作る				事前学修：紙皿のリースについてイメージし、準備物を揃える 事後学修：他者の作品から学ぶ			60	30
11	紙の袋の作り方から指人形作りの展開を学ぶ				事前学修：指人形について調べておく 事後学修：復習すること			30	30
12	クレヨンの指人形を作り、演じ方を学ぶ				事前学修：準備物を用意してくる 事後学修：演じ方を復習する			30	30
13	ネズミの指人形を作り、演じ方を学ぶ				事前学修：準備物を用意してくる 事後学修：演じ方を復習する			30	30
14	はばたく仕掛けとその応用作品を作る(実技)				事前学修：何を羽ばたかせたら面白いのか、考えてくる 事後学修：他の学生の良い点を振り返る			30	30
15	新聞紙のスリッパなど造形遊びを体験する				事前学修：新聞紙を遊びを考えてくる 事後学修：振り返り、作ってみる			30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 実技・発表 ）								
教科書	『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林								
参考文献	なし								
備考	授業内課題については、その都度、コメントする。								

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

造形表現に関する書籍を11冊出版している。幼稚園、保育士等の造形表現の研修を年5～6回担当。児童館、こども園、幼稚園等で工作の指導を毎月行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-07				
		●	●	●						
科目名	総合表現演習 I				単位認定者	鈴木 純子		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
				授業回数		15 回				
授業の概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、「保育所保育指針」の内容の理解を踏まえ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。また、身近な自然やものの音や音色、声や音楽等に親しみを持ち、身体的な表現が出来るように実践力を養う。									
到達目標	1. 子どもを取り巻く環境に応じた遊びを考えることができるようになる。 2. 保育教材を作成することができるようになる。 3. 保育教材を的確に使用し、遊びに繋げることができるようになる。									
学修者への期待等	実践力を高められるように、限られた時間の中で計画的に準備を行ない、授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	子どもを取り巻く環境と心身の発達				事前学修：保育所保育指針:5領域を確認する 事後学修：保育教材について考える			30	30	
2	子どもの遊び①：保育教材の作成(グループワーク)				事前学修：保育教材の作成をする 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
3	子どもの遊び②：保育教材の活用(グループワーク)				事前学修：保育教材の修正等を行う 事後学修：保育教材を試行する			30	30	
4	保育教材の発表①：保育教材の実演				事前学修：色を塗ることを考える 事後学修：修正をする			30	30	
5	保育教材の発表②：構成を考える				事前学修：話(台本)を覚える 事後学修：足りないところを補足する			60	30	
6	保育教材の発表③：パネルシアターの実演				事前学修：パネルを使用し練習する 事後学修：実演の振り返りを記入する			30	60	
7	保育教材の発表④：パネルシアターの工夫				事前学修：気づいたことをまとめる 事後学修：次へ向けてまとめる			30	30	
8	絵本の読み聞かせ				事前学修：絵本を一冊読んでおく 事後学修：プリントを確認する			30	30	
9	子どもの表現について(グループワーク)				事前学修：「幼稚園教育要領」を確認する 事後学修：発表についてまとめる			30	30	
10	グループ発表①：子どもの身体表現と感性				事前学修：テーマを考える 事後学修：グループ発表についてまとめる			60	30	
11	グループ発表②：子どもの言葉表現について				事前学修：言葉について考える 事後学修：良かった点をまとめる			60	30	
12	グループ発表③：子どもの言葉表現と感性				事前学修：大事にしたいことをまとめる 事後学修：他のグループについてまとめる			30	30	
13	作品鑑賞：オペレッタ(グループワーク)				事前学修：オペレッタについて調べる 事後学修：良かったことをまとめる			30	30	
14	遊びのロールプレイ：保育教材の活用(グループワーク)				事前学修：教材について考える 事後学修：教材についてまとめる			30	30	
15	表現活動の振り返りを通じた自己課題の分析				事前学修：これまでのことを振り返る 事後学修：今後に向けてまとめる			30	60	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワーク、発表)									
教科書	『わらべうたによる音楽教育』本間雅夫・鈴木敏朗著、自由現代社 その他適宜、参考資料を提示・配布する									
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館									
備考	「絵本の読み聞かせ」に関しては図書館司書の方に講義をしていただきます。発表は積極的に行うように心がけ、意欲的に授業に参加してください。授業内の課題は、確認後に授業の中でコメントします。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として21年間幼稚園に勤務し、クラス担任及び主任教諭として保育教材を活用し子どもたちと表現を楽しんで過ごした経験を基に、実践的な授業を行います。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-PEN-01

科目名	教職論				単位 認定者	堀之内 敏恵		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義は、保育者（幼稚園教諭）の本質について考察することを目的とする。この目的を達成するため、保育者に求められる資質・能力とその形成過程、役割と倫理、制度的な位置付けについて集中的に講じていく。さらには、保護者や地域社会との連携、幼・小の連携、保育者と保護者の協働についても考察し、最終的には保育者の専門性とは何かを追究していく。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義、職業的特徴について理解できる。</li> <li>・現代社会において教師（保育者）に求められる役割や基礎的な資質・能力について把握できる。</li> <li>・教員の職務内容や服務、責任について説明できる。</li> <li>・教師が内外の専門家と連携・分担し、諸課題に対応する重要性について認識できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク、意見交換も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	授業ガイダンスと教職論への導入 <良い>先生とはどのような先生か？（グループワーク）				事前学修：これまでに会った「先生」について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
2	教職の意義 教師と教員は何が違うのか？				事前学修：先生、教師、教員、教諭、保育者等、類似語の相違について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
3	教員養成の歴史 教員養成はいつから始まったのか？				事前学修：日本において教員養成はいつから始まったのか調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
4	教師像 教師像の変遷				事前学修：第3回の講義を踏まえて、目指そうとする教師像について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
5	教師の役割と仕事① 教師の仕事の特質とは？				事前学修：他の職業と比較して、教師の職業的特徴は何か考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
6	教師の役割と仕事② 教師の仕事の具体的内容とは？				事前学修：幼稚園教諭の1日の仕事内容について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30
7	法令からみた教員 教員の身分、服務とは？				事前学修：学校教育法第22条～第27条、教育職員免許法第1条～第14条の2の内容を確認しておく 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	教師の職場環境 就業実態、満足度	事前学修：新聞等を活用し、日本の教師の現状について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
9	教師の抱える諸問題 保護者対応、メンタルヘルス（ディスカッション）	事前学修：新聞等を活用し、日本の教師の現状について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
10	チームとしての学校① 教員以外の専門スタッフとの連携・協働	事前学修：学校には「先生」以外にどのような大人（職員など）がいたか思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
11	チームとしての学校② 地域社会、保護者との連携・協働	事前学修：学校と地域社会との連携・交流として、どのような機会があったか思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
12	教師に求められる専門性 教師に求められる資質能力、専門性とは？	事前学修：教師に求められる資質能力、専門性とは何かを考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
13	教師のキャリア形成と研修 学び続けることはなぜ必要か？	事前学修：教師が学び続けることの必要性について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
14	進路選択と教員採用選考 公立の場合／私立の場合（グループワーク）	事前学修：進路選択について自分の考えを再確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
15	まとめ 教職についての自己の課題と教師像	事前学修：自分なりの教師像とそれに向けた自己の課題について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
<b>教科書</b>	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。			
<b>参考文献</b>	『2026年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-02				
	●		●							
科目名	保育原理				単位認定者	小野瀬 剛志 鈴木 享之		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	保育とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る養護と、子どもの心身の成長・発達を促す教育とが一体となった営みである。このことを基盤に本科目では、『保育所保育指針』における保育の基本や、保育の思想と制度の歴史の変遷を理解し、保育の現状と課題について考察する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育とは何か、その基本である意味や意義を理解する。</li> <li>2. 保育の場である保育所・幼稚園・認定こども園の保育や役割を理解する。</li> <li>3. 保育の歴史を学んだり、保育の今日的課題を考察して自ら望ましい保育観、保育者観を構築する。</li> </ol>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は他の科目の本源になるのでしっかりノートを取って聞くようにする。</li> <li>・「保育所保育指針解説書」と「幼稚園教育要領解説」は毎回持参しできるだけ目を通すようにする。</li> </ul>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	ガイダンス（授業概要の説明、受講に当たっての留意点）、子ども観と保育 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：シラバスを読んで学修内容を把握する 事後学修：学んだ内容について復習する		30	30	小野瀬剛志	
2	子どもと子どもの権利 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：教科書第1章から「子どもの権利」についてまとめる 事後学修：日本の現状からみて不足している「子どもの権利」についてまとめる。		30	30	小野瀬剛志	
3	子ども観・保育観の重要性（子どもを「観る」とは？） 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：「子ども」について自分の考えをまとめる 事後学修：子どもを「観る」ことの重要性和困難をまとめる		30	30	小野瀬剛志	
4	保育の歴史と思想①（古代ギリシャ、ローマの教育） 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：教科書第11章第1節を読んで該当の時代の雰囲気をつかむ 事後学修：現代や自分の「子ども観」との共通点、相違点をまとめる		30	30	小野瀬剛志	
5	保育の歴史と思想②（中世ヨーロッパからルネサンス期の「子ども」） 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：教科書第11章第2節を読んで該当の時代の雰囲気をつかむ 事後学修：現代や自分の「子ども観」との共通点、相違点をまとめる		30	30	小野瀬剛志	
6	保育の歴史と思想③（近代社会と「子ども」） 【遠隔（オンデマンド）】				事前学修：教科書第11章第3節を読んで該当の時代の雰囲気をつかむ 事後学修：現代や自分の「子ども観」との共通点、相違点をまとめる		30	30	小野瀬剛志	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	保育の歴史と思想④（「児童中心主義」と保育） 【遠隔（オンデマンド）】	事前学修：教科書第11章第4節を読んで該当の時代の雰囲気をつかむ 事後学修：現代や自分の「子ども観」との共通点、相違点をまとめる	30	30	小野瀬剛志
8	保育思想と現代の保育観 【遠隔（オンデマンド）】	事前学修：教科書第11章を読んでこれまでの学修内容を復習する 事後学修：学修内容から現代の保育に応用可能なところをまとめる	30	30	小野瀬剛志
9	日本の保育の歴史（明治以前と昭和以降）	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
10	現代の保育を支える制度と子ども中心主義（保育所、幼稚園、こども園）	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
11	保育の二つの目標と両義性	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
12	保育のねらいと内容①（未満児）-子どもを見る目を中心に-	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
13	保育のねらいと内容②（以上児、小学校との接続） -保育を見る保育者の目を中心に-	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
14	保育のねらいと内容③（地域、家庭との連携）-保育者の対応を中心に-	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
15	総括（保育者になるために必要なことは何かをグループワークを通して考える）	事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる	30	30	鈴木享之
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
<b>教科書</b>	『つながる保育原理』小原敏郎他編、みらい				
<b>参考文献</b>	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館				
<b>備考</b>	講義は1～8回目までは遠隔（オンデマンド）で、9～15回目は対面で実施する。授業内課題は、後日、コメント、評価などをつけて返却する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-PEN-07

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

<b>科目名</b>	教育原理				<b>単位 認定者</b>	堀之内 敏恵		<b>評価の 方法</b>	試験(筆記)	60 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	こども学科	必修	1年	<b>開講時期</b>	前期	<b>単位数</b>	2 単位		授業内課題	40 %
					<b>授業形態</b>	講義	<b>授業時間数</b>		30 時間	
						<b>授業回数</b>	15 回			

<b>授業の概要</b>	<p>本講義は、保育所・幼稚園の指導者を目指す者に必要な教育学全般の知識を教授し、あわせて幼児教育者に求められる資質を育成することを目的とする。具体的には次のアウトラインに沿った形で講義を進める。教育とは何か、教育思想史にみる「教育」の概念の多様性、幼稚園（保育所）・家庭・地域社会の相互性、学校制度論（主として明治期から現在までの幼児教育制度と教育課程）、日本国憲法及び教育基本法にみるわが国の教育目的等の内容である。</p>
--------------	--

<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の意義、目的、概念に関する基礎的な知識を理解できる。</li> <li>・教育の思想および歴史の基礎を把握できる。</li> <li>・現代社会における教育の課題や役割について説明できる。</li> </ul>
-------------	---

<b>学修者への期待等</b>	<p>講義形式を基本とするが、グループワークや意見交換等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。</p>
-----------------	---

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	授業ガイダンスと教育原理への導入 教育経験を振り返る（グループワーク）	事前学修：「教育」という言葉から連想するイメージや言葉をこれまでの教育経験を踏まえて考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
2	「教育」という営み① 目的	事前学修：第1回の授業内容を踏まえ、「教育」に対する考えを深めておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
3	「教育」という営み② 内容	事前学修：「教育」の意味について、複数の辞書を使い調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
4	子ども期の普及 子どもとはどのような存在か	事前学修：「子ども」という言葉から連想するイメージについて考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
5	日本における子ども観	事前学修：子どもに関わる、子どもの時に聞いた「言い伝え」「迷信」について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
6	教育の思想と歴史① 近代学校の誕生 - なぜ学校は作られたのか	事前学修：「学校」とはどのような場所か、これまでの教育経験を踏まえて考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
7	教育の思想と歴史② 学校という制度 - 「国民」教育の成立	事前学修：寺子屋について調べ、近代学校との違いについて考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	教育の思想と歴史③ 戦時下の教育	事前学修：授業資料「教育勅語」の現代語訳を読んで、内容を確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
9	教育の思想と歴史④ 戦後教育改革 - 教育に期待された役割	事前学修：授業資料「教育基本法」を読んで、内容を確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
10	人間と教育① 遺伝と環境	事前学修：「蛙の子は蛙」とはどのような意味のことわざか、類似のことわざについても調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
11	人間と教育② 成長発達の適時性	事前学修：人間にはなぜ教育が必要なのか考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
12	人間と教育③ 社会化	事前学修：「社会化」という言葉について、複数の辞書を使い調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
13	今日の教育問題 ①コロナ禍における学校（ディスカッション）	事前学修：新聞等を活用し、コロナ禍における学校のあり方について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
14	今日の教育問題 ②教育格差（ディスカッション）	事前学修：新聞等を活用し、教育格差について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
15	まとめ 「教育原理」を通しての学びを振り返る	事前学修：講義を通して考えてきた「教育」という営みについて、見解をまとめておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
<b>教科書</b>	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。			
<b>参考文献</b>	『2026年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-03				
			●		●					
科目名	社会福祉				単位認定者	田中 公一		試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷等を学び、子ども家庭福祉との関係性と社会福祉の制度と法体系等を理解する。さらに社会福祉における相談援助や利用者保護にかかわる仕組み等について理解する。これらのことを踏まえ、社会福祉の動向と課題について考察する。									
到達目標	1. 子どもの家庭環境や社会的背景を理解し、適切な支援や配慮ができるようになる。 2. 地域の社会資源を理解し、連携が図れるようになる。 3. 福祉的な視点をもって保育を実践し、すべての子どもを包摂する保育ができるようになる。									
学修者への期待等	社会福祉は、日々刻々と変化しているので、新聞記事やニュースの記事に興味・関心を持ち、講義に臨んで欲しい。そして、社会福祉の実践が生活と密着し、身近なものであることに理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	社会福祉とは何か				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
2	社会福祉の拡大と現代の生活				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
3	社会福祉の歴史的形成				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
4	社会福祉に関係する制度や法律				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
5	子ども家庭福祉				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
6	社会保障				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
7	障がい児福祉：反転授業				事前学修：近所にある障がい児・者に関する施設の概要を調べておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	障がい者福祉：反転授業	事前学修：身近にあるバリアフリーやユニバーサルデザインを調べておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	30
9	地域福祉	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
10	ソーシャルワーク①（ソーシャルワークとは何か）	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	ソーシャルワーク②（援助過程）	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	ソーシャルワーク③（保育相談支援）	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	低所得者の福祉	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	高齢者福祉	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	社会福祉の発展と課題	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）			
<b>教科書</b>	『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹 原田旬哉（編集），萌文書林 『福祉・保育小六法 2026年版』福祉・保育小六法編集委員会編，みらい			
<b>参考文献</b>	適宜、講義内で提示する。			
<b>備考</b>	適宜、Teams・Formsを通してレポート課題の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。なお、提出されたレポート課題は、全体をまとめつつ修正意見を付してTeams上に投稿するので、内容確認の上、準備学修や試験対策に役立てること。			

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SEN-01				
	●			●						
科目名	教育制度論				単位認定者	堀之内 敏恵		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	現代日本の教育は、幼児教育を含め、制度（システム）として作られ、具体的には教育行政として動かされている。そして、教育行政は、すべて日本国憲法や教育関係法規にもとづいて実施されている。また、幼児教育制度については、少子化社会等を背景として、幼児教育そのものが注目を集めており、こうしたなかで教育・保育の質と量を確保していくための制度改革が進められている。このようなことを踏まえ、「教育制度論」では、現行の幼児教育制度への理解を深めるとともに、その課題について考察していく。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の幼児教育制度について、基礎的な知識（理念、関係法規、仕組みなど）を把握できる。</li> <li>幼稚園と家庭、地域、小学校との連携について説明できる。</li> <li>保育に携わる者として学校安全への対応の重要性を理解できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク、意見交換も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンスと教育制度論への導入 教育制度とは				事前学修：教育に関する制度や法律を学ぶ意義について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
2	教育制度を支える教育行政、構成する関係法規				事前学修：文部科学省の主な仕事（所掌事務）にはどのようなものがあるか調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
3	戦前・戦後の日本の幼児教育制度				事前学修：日本における幼児教育の始まりについて調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
4	現代日本の幼児教育制度				事前学修：学校教育法第22条～第27条の内容を確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
5	幼稚園と家庭、地域との連携（ディスカッション）				事前学修：幼稚園と家庭、地域との連携が求められる理由について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
6	幼稚園と小学校との連携				事前学修：幼稚園と小学校との連携が求められる理由について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
7	学校安全への対応① 教育活動にひそむ危険（グループワーク）				事前学修：幼稚園内での保育活動にひそむ危険について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
8	学校安全への対応② 災害時の安全対策				事前学修：災害時の安全対策について考えておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）									
教科書	『2026年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。									
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SEN-02				
	●				●					
科目名	子ども家庭福祉				単位認定者	鈴木 享之		試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷等を学び、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉に関係する制度や実施体系等について理解する。これらの理解を踏まえ、子ども家庭福祉の動向と展望について考察する。									
到達目標	①保育士が子ども家庭福祉の担い手であることを踏まえ、児童・家庭を取り巻く制度（児童福祉の理念、法制度、支援体制）の基礎を説明できる。 ②子どもの生活課題や家庭状況を事例から読み取り、関係機関との連携を含めた支援の視点（アセスメントの観点）を整理し、基本的な対応を考えられる。 ③子ども家庭福祉における保育士の役割と専門性を理解し、他職種・関係機関と協働する意義を説明できる。									
学修者への期待等	保育士資格取得のための科目でもあり、日頃から新聞記事やニュースなどにも接し、「子ども家庭福祉」の分野への興味や関心を持てるようにすること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	子ども家庭福祉と情緒の交流				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
2	子ども家庭福祉と保育の本質				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
3	現代社会と子ども家庭福祉				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
4	子ども家庭福祉の概念およびその理念				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
5	子ども家庭福祉の歴史的展開①欧米における展開				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
6	子ども家庭福祉の歴史的展開②わが国における展開				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
7	子ども家庭福祉の法体系①児童福祉法と問題点				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
8	子ども家庭福祉の法体系②その他の関連する法律				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
9	子ども家庭福祉の実施体制①行政機関およびその関連機関				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
10	子ども家庭福祉の実施体制②児童福祉施設				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
11	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ①子ども・子育て支援施策				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
12	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ②母子保健、障害児、健全育成				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
13	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ③社会的養護、ひとり親、DV				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
14	子ども家庭福祉と権利擁護				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる			60	30	
15	総括 - これからの子ども家庭福祉について考える (グループワーク)				事前学修：これまでのノートを見返し、質問点を整理する 事後学修：討議内容を踏まえ、「今後の子ども家庭福祉」の要点をまとめる			60	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『事例で楽しく学ぶ子ども家庭福祉』編集代表 芝野松次郎 中央法規出版									
参考文献	随時、講義の中で紹介する									
備考	授業内課題については、提出内容を整理・集約したうえで、次回以降の授業時にスライドを用いて講評（全体フィードバック）を行う。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-SEN-03

科目名	社会的養護 I				単位 認定者	田中 公一		評価の 方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷等を学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本を理解する。さらに社会的養護の制度と法体系等の理解や関係する専門職等の理解を通し、今後の動向と課題について考察する。									
到達目標	1. 家庭で生活できない子どもの背景やニーズを理解し、適切な関わり方ができるようになる。 2. 児童養護施設や里親制度など、社会的養護の仕組みを理解し、専門機関と連携できるようになる。 3. 子どもの権利を尊重し、安全・安心を保障するための養護の実践ができるようになる。									
学修者への期待等	本科目は社会福祉関係、心理学関係、教育学関係等、子どもに関する分野と連携していることを理解して学修に臨むこと。本科目を通して、養護を必要とする子どもたちへの具体的な支援・援助方法の知識を得、保育現場で活用できるようになることを期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	現代社会と社会的養護・社会的養護の仕組み				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
2	社会的養護の歴史				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
3	社会的養護の基本原則 I (養育・保護)				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
4	社会的養護の基本原則 II (治療的支援・自立支援)				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
5	社会的養護の基本原則 III (倫理観・正義感)				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
6	施設養護の専門性 I (児童相談所) : グループワーク				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	施設養護の専門性Ⅱ（乳児院）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
8	施設養護の専門性Ⅲ（児童養護施設）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
9	施設養護の専門性Ⅳ（児童自立支援施設）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
10	施設養護の専門性Ⅴ（母子生活支援施設）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	施設養護の専門性Ⅵ（障害児入所施設・児童発達支援センター）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	施設養護の専門性Ⅶ（児童心理治療施設）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	ソーシャルワークと家庭支援	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	里親制度と里親支援	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	児童福祉施設の運営管理	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
<b>教科書</b>	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田旬哉 杉山宗尚（編集），萌文書林			
<b>参考文献</b>	適宜、講義内で提示する。			
<b>備考</b>	適宜、Teams・Formsを通してレポート課題の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。なお、提出されたレポート課題は、全体をまとめつつ修正意見を付してTeams上に投稿するので、内容確認の上、準備学修や試験対策に役立てること。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-SSE-01

<b>科目名</b>	子ども理解の理論と方法				<b>単位認定者</b>	菅原 弘 早坂 正年		<b>評価の方法</b>	試験(筆記)	70 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	こども学科	必修	1年	<b>開講時期</b>	前期	<b>単位数</b>	1 単位		授業内課題等	30 %
						<b>授業時間数</b>	30 時間			
				<b>授業形態</b>	演習	<b>授業回数</b>	15 回			
<b>授業の概要</b>	子どもの望ましい発達を支える教育活動を提供するためには、子どもを多角的な視点から理解する知識と技術が要求される。この科目では、はじめに、発達の諸相を概観したうえで子どもを取り巻く様々な諸問題について学ぶ。次に、幼児や児童の個人々が様々な課題を抱えており、このような悩みや問題等の課題に対して指導者である教師が適切に対処することの重要性を学ぶ。家庭との円滑な連携の図り方や幼小連携の重要性についても理解を深め、今日の幼児教育者に求められる資質とは何かを具体的に学ぶ。									
<b>到達目標</b>	1 幼児や児童を理解するために必要な知識を獲得できる。 2 幼児や児童の当面する諸課題について理解できる。 3 学級や学校(幼稚園)の生活への適応を図る重要性を理解できる。 4 幼児や児童の適応を支援する方途について理解できる。									
<b>学修者への期待等</b>	自ら積極的に予習し、グループワークなどを通して多くの考えに触れ子どもについて考え続けてください。									
<b>回</b>	<b>授業計画・学修の主題</b>				<b>準備学修</b>		<b>事前学修 時間(分)</b>	<b>事後学修 時間(分)</b>	<b>担当教員</b>	
1	子ども理解の理論と方法への導入 (保育者における子ども理解の重要性)				事前学修：メディア等を活用し、子どもの諸問題について理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。		30	30	早坂正年	
2	子ども理解の基本① (子どもを取り巻く現代社会の理解)				事前学修：メディア等を活用し、現代社会の諸問題について理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。		30	30	早坂正年	
3	子ども理解の基本② (子どもの発達の概要)				事前学修：他の関連科目を復習し、子どもの発達について整理する。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。		30	30	早坂正年	
4	発達にともなう諸問題の理解 (不登校・いじめ等の現状について)				事前学修：メディア等を活用し、不登校・いじめについて理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。		30	30	早坂正年	
5	子ども理解の技法(観察法を中心に)				事前学修：専門書等を活用し、心理アセスメントの用語を理解する。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。		30	30	早坂正年	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	現代社会で必要とされる教師の姿勢 (ディスカッション)	事前学修：メディア等を活用し、教師の責務について理解を深める。 事後学修：授業で使 用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30	早坂正年
7	幼稚園等での諸問題（発達理解、保護者への対応、 専門家との連携等）について	事前学修：メディア等を活用し、幼稚園等が抱える諸問題について理解する。 事後学修：授業で使 用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30	早坂正年
8	子ども理解①様々な子どもの姿の理解 （“気になる子ども”とは）	事前学修：配布資料 通読 事後学修：発達障害 について整理する	30	30	菅原弘
9	子ども理解②子どもと障害、家族と障害 （グループワーク）	事前学修：配布資料 通読 事後学修：障害受容 過程について整理す る	30	30	菅原弘
10	子ども理解③子どもと貧困	事前学修：配布資料 通読 事後学修：子どもの 貧困について整理す る	30	30	菅原弘
11	子ども理解④子どもと虐待・DV	事前学修：配布資料 通読 事後学修：虐待・DV と対策について整理 する	30	30	菅原弘
12	家族の姿と子どもの姿 （グループワーク）	事前学修：配布資料 通読 事後学修：様々な家 族への対応を整理す る	30	30	菅原弘
13	家庭との連携	事前学修：配布資料 通読 事後学修：保育者と しての保護者連携に ついて整理する	30	30	菅原弘
14	幼小連携の意義と課題について （グループワーク）	事前学修：配布資料 通読 事後学修：教育要領 等の目的を整理する	30	30	菅原弘
15	まとめ 「子ども理解の理論と方法」を通しての学 びを振り返る	事前学修：これま での学修内容を振り返 り、理論等を整理す る。 事後学修：授業で使 用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30	菅原弘 早坂正年
<b>アクティブ・ ラーニング</b>	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク・ディスカッション）				
<b>教科書</b>	適宜資料を配布する。				
<b>参考文献</b>	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館				
<b>備考</b>	授業で提示した課題については、回収後に内容を確認し、以後の授業時に返却する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(菅原) 教諭として30年以上、特別支援学校と小学校で学級経営、特別支援教育、ICT活用教育等に従事してきました。現場経験に基づき、教育実践で求められる基本的姿勢と児童理解を授業に活かします。  
[資格等] 小学校教諭1種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SSE-02				
	●			●						
科目名	生涯発達心理学 I				単位認定者	平田 修三 早坂 正年		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	特に乳幼児期の発達を概観しながら、発達に関する主要な理論を修得し、教育活動における発達理解の重要性について学ぶ。さらに、発達に応じた学習支援の展開などについて理解を深める。									
到達目標	1. 発達に関する代表的な理論を理解し、発達の概念と教育における発達理解の意義を説明できる。 2. 乳幼児期における運動・言語・認知・社会性の発達について、具体的な内容を説明できる。 3. 幼児、児童、生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習支援の基本的な考え方を理解できる。									
学修者への期待等	日ごろから乳幼児と関わる機会を積極的に作り、授業で身につけた知識と実際の子どもの姿を結びつけるような学修を心がけてほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	生涯発達心理学を学ぶ意義				事前学修：「心理学」へのイメージについてノートにまとめる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
2	生涯発達とは何か？				事前学修：「発達とは何か」をノートにまとめる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
3	妊娠・出産				事前学修：保護者または知人に妊娠・出産経験について聞いておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
4	新生児の発達				事前学修：「新生児反射」について調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
5	アタッチメント				事前学修：「アタッチメント」についてインターネット等で調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
6	ソーシャル・ネットワーク				事前学修：「これまでの人生で関わった重要な人物」を思い出してノートに書き出す。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	
7	コミュニケーションの初期発達				事前学修：「赤ちゃんの指さし」についてインターネット等で調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。		30	30	平田修三	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	遊びの発達	事前学修：「子ども時代に好きだった遊び」をノートに書き出す。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	平田修三
9	人の心の理解の発達	事前学修：教員が事前に指定する記事に目を通しておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	平田修三
10	道徳性の発達	事前学修：教員が事前に指定する記事に目を通しておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	平田修三
11	学習心理学の基礎・乳幼児への適用	事前学修：「パブロフの犬」について事前に調べておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	早坂正年
12	乳幼児の学習行動を促すには①：正統的周辺参加論，発達の最近接領域	事前学修：これまでに学修した発達理論を復習しておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	早坂正年
13	乳幼児の学習行動を促すには②：動機づけ理論	事前学修：教員が事前に指定するキーワードに目を通しておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	早坂正年
14	パーソナリティの発達	事前学修：自分が知っている「心理テスト」について調べておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	早坂正年
15	乳幼児の発達についての総括	事前学修：これまでの学修内容を振り返り、理論等を整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30	早坂正年
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
<b>教科書</b>	なし（適宜、UNIPA等にて講義資料を提示する）				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	・講義は全て遠隔（オンデマンド）で行う。 ・毎回、UNIPAで授業内課題（事後学修）を課し、教員がフィードバックを行う。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-03				
	●	●	●							
科目名	保育内容の指導法（総論）				単位認定者	鈴木 純子		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』における保育の原理と保育の内容とを関連付けて、保育の全体的な構造を捉えると同時に総合的に指導する考え方を学ぶ。また、子どもの発達の特長や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、指導計画作成を理解する。さらに、保育は養護と教育が一体的に展開されているので、実践と結び付けて、具体的に遊びを通して育つことを理解する。									
到達目標	1 保育内容の指導法について、子どもの生活・遊びの中で総合的に捉える視点を持つことができるようになる。 2 発達を見通した指導計画について理解できるようになる。 3 保育者の役割と専門性について理解することができるようになる。									
学修者への期待等	準備学修をして授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	保育の基本と保育内容				事前学修：保育内容は何か確認する 事後学修：5領域を振り返る			30	30	
2	保育内容における指導についての見方・考え方 生活や遊びを通じた総合的な保育				事前学修：5領域を確認する 事後学修：総合的な指導について振り返る			30	30	
3	乳幼児期の発達の特長と発達過程 保育内容の展開				事前学修：乳児と幼児を確認する 事後学修：基本的な生活習慣を考える			30	30	
4	乳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク				事前学修：0～1歳児の発達を確認する 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
5	2歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク				事前学修：2歳児の発達を確認する 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
6	3歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク				事前学修：3歳児の発達を確認する 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
7	4歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク				事前学修：4歳児の発達を確認する 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
8	5歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク				事前学修：5歳児の発達を確認する 事後学修：グループワークを振り返る			30	30	
9	環境を通して行う保育 支援を要する子ども理解とクラス運営				事前学修：支援を要する子どもを考える 事後学修：クラス運営について振り返る			30	30	
10	育みたい資質・能力、および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり				事前学修：育みたい資質・能力を考える 事後学修：10の姿について振り返る			30	30	
11	子どもの発達過程に応じた保育、生活や遊びの発展 遊びを実践する				事前学修：子どもの遊びを考える 事後学修：実践した遊びをまとめる			30	30	
12	遊びをテーマとした指導計画の作成・情報機器の活用・教材研究(グループワーク)				事前学修：教材を考える 事後学修：教材研究をまとめる			60	30	
13	模擬保育(グループワーク):保育者の配慮、役割				事前学修：模擬授業の準備を行う 事後学修：実践の振り返りを行う			30	60	
14	入学前の子ども理解と子どもの生活 小学校教育との関わり				事前学修：幼稚園と小学校の違いを考える 事後学修：子どもの成長について考える			30	30	
15	保育者の専門性・保育の質				事前学修：保育者について考える 事後学修：保育者の専門性を考える			30	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育 協働研究への誘い』秋田喜代美 松本理寿輝 監修 中央法規 『保育内容総論～生活・遊び・活動を通して育ちあう保育を創る～』太田光洋編者 同文書林									
備考	授業内課題については確認後授業の中でコメントします。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として21年間幼稚園に勤務し、クラス担任及び主任教諭としてのクラス運営を基に、保育内容の指導法について理論と実践を繋いで授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-06				
	●	●								
科目名	保育内容の指導法（環境）				単位認定者	小野瀬 剛志		試験（レポート）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
							授業形態		演習	授業回数
									15 回	
授業の概要	本科目では、まず領域「環境」の意義を捉える。そして、幼児期が様々な環境にかかわりながら遊びを展開し、次第に周囲の様々な事象に好奇心を抱き、その意味や用法に疑問を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考える課程を大事にしているということ等を願っていることを理解する。これらを踏まえて、身近な自然とのかかわりに関する指導法を体得する。									
到達目標	1 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の「ねらい」と「内容」を理解する。 2 身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成も含む）を体得する。 3 自身及び他者の模擬保育について評価する力を身に付ける。									
学修者への期待等	指導案作成や模擬保育は、実際に教師や子どもになったつもりで取り組み、事後のグループワークでは積極的に意見交換をしてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ガイダンス（授業概要の説明、人間の発達における環境の影響）				事前学修：シラバスを読んで学修内容を把握する 事後学修：授業の流れを復習する				30	30
2	5領域としての「環境」の理解（他の領域と環境の関係）				事前学修：「指針」「教育要領」の5領域の内容について読んでおく 事後学修：「環境」と他の領域の関係について復習する				30	30
3	子どもの成長を促す保育環境①（未満児）				事前学修：未満児における「環境」について「指針」の内容を確認する 事後学修：未満児における「環境」の重要性を復習する				30	30
4	子どもの成長を促す保育環境②（3歳児）				事前学修：以上児における「環境」について「指針」の内容を確認する 事後学修：授業内容をもとにワークシートを完成させる				30	30
5	子どもの成長を促す保育環境③（5歳児）				事前学修：以上児における「環境」について「指針」の内容を確認する 事後学修：授業内容をもとにワークシートを完成させる				30	30
6	自然環境を活かした保育				事前学修：自然と保育の関係について「指針」等の内容を確認する 事後学修：自然を活かした保育の実際についてまとめる				30	30
7	指導案作成の基礎①（領域「環境」のねらい）				事前学修：実施したい保育についてアイデアを出す 事後学修：「ねらい」から自身の保育のアイデアを再検討する				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	指導案作成の基礎②（環境構成の方法）	事前学修：環境構成について、書き方の事例を調べる 事後学修：自身の保育計画に即した「環境構成」を考える	30	30
9	指導案の作成（グループワーク）	事前学修：各自、指導案を考える 事後学修：グループの指導案について各自、検討する	30	30
10	模擬保育準備（教材作成）（グループワーク）	事前学修：準備すべき教材を検討する 事後学修：準備すべき教材に過不足がないか検討する	30	30
11	模擬保育①（保育者の観点）（グループワーク）	事前学修：各グループの指導案を確認する 事後学修：各グループの模擬保育について評価を指定された箇所に入力する（まとめる）	30	30
12	模擬保育②（子どもの観点）（グループワーク）	事前学修：各グループの指導案を確認する 事後学修：各グループの模擬保育について評価を指定された箇所に入力する（まとめる）	30	30
13	保育の評価①（保育の目的と計画）（ディスカッション）	事前学修：各グループの指導案を確認する 事後学修：各グループの模擬保育について出た意見をまとめる	30	30
14	保育の評価②（保育の実践）（ディスカッション）	事前学修：各グループの指導案を確認する 事後学修：各グループの模擬保育について出た意見をまとめる	30	30
15	総括（環境を通した保育）	事前学修：グループで実施した模擬保育について反省点・評価点をまとめる 事後学修：反省点・評価点をふまえた指導案を作成する	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）			
<b>教科書</b>	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>参考文献</b>	『持続可能な社会をつくる幼児期のESD 論—子どもと環境—』降旗信一・菊池稔編著、人言洞			
<b>備考</b>	授業内課題は、後日、授業内で総評とともに返却する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-07					
		●	●								
科目名	保育内容の指導法（言葉）				単位認定者	飯島 典子		試験（筆記）	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30	%
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度	20
							授業回数		15 回		
授業の概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、こどもの発達に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「言葉」の発達の意義・ねらい・内容を踏まえて子どもの発達に応じた保育を創造できる。</li> <li>2. 領域「言葉」に示される内容を達成するための具体的な指導法を考察することができる。</li> <li>3. 子どもの主体的な学びを援助する方法を考察することができる。</li> </ol>										
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を事前に熟読し授業を通して理解を深め、自分なりにノート等にまとめて整理するようにしてください。</li> <li>・保育の創造にあたっては積極的に教材開発に取り組み、指導の在り方を深く考えるようにしましょう。</li> </ul>										
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	ガイダンス 5領域と「言葉」との関連				事前学修：保育所保育指針等の5領域を確認する 事後学修：授業で確認した箇所を整理する			30	30		
2	3歳未満児の言葉の「ねらい」と指導法				事前学修：3歳未満児の解説を整理する 事後学修：授業内容と関連する事項を確認する			30	30		
3	3歳未満児の絵本				事前学修：絵本の活用方法を検討する 事後学修：授業の考えをまとめる			30	30		
4	3歳未満児の絵本と読み聞かせ				事前学修：略案を完成させる 事後学修：略案をブラッシュアップする			30	30		
5	3歳以上児の言葉の「ねらい」と指導法				事前学修：3歳以上児の解説を整理する 事後学修：授業内容と関連する事項を確認する			30	30		
6	保育内容「言葉」と全体的な計画				事前学修：保育課程・教育課程を整理する 事後学修：授業内容と関連する事項を確認する			30	30		
7	3歳以上児に対する指導案の考案				事前学修：絵本の活用方法を検討する 事後学修：授業の考えをまとめる			30	30		
8	読み聞かせの模擬保育				事前学修：指導案を完成させる 事後学修：指導案をブラッシュアップ			30	30		
9	子ども主体の保育とは				事前学修：主体的な記載を確認する 事後学修：主体的な保育を促す手法を考える			30	30		
10	子どもの言葉を引き出す保育実践（遊びマップ）				事前学修：遊びの発展を考える 事後学修：自分の考えをまとめる			30	30		
11	子どもの言葉を引き出す保育実践（ストラテジー）				事前学修：遊びの発展を考える 事後学修：自分の考えをまとめる			30	30		
12	子どもの言葉を引き出す保育実践（発表） 保育実践振り返りレポート				事前学修：発表準備をする 事後学修：他のグループの内容を整理する			30	30		
13	保育内容「言葉」と幼小接続教育				事前学修：テキスト全体を熟読する 事後学修：授業内容を整理する			30	30		
14	振り返りの小テスト				事前学修：小テストの準備 事後学修：小テストの誤りを再確認			30	30		
15	まとめと振り返り				事前学修：分からないとことを確認 事後学修：15回の学びを整理する			30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 模擬保育・保育実践・発表 ）										
教科書	『根付く・伸びる・発展するこどもの遊び』飯島典子・佐藤哲也編著、建帛社 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館										
参考文献	随時、紹介します。										
備考	授業内課題のフィードバックは授業内に行います。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)											
該当しない。											

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-16				
	●		●							
科目名	特別支援教育演習 I				単位 認定者	菅原 弘		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価 の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	障害特性を学び、一人一人にあわせた教育的支援について考える。教育課程や個別の指導計画および教育計画について理解する。専門機関や職員の連携により、障害児を支える仕組みについて学ぶ。また、障害にかかわらず、特別なニーズを必要としている子どもたちの困難さを理解し、支援について考える。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする子どもの特性を挙げることができる。</li> <li>・専門機関等を含めた連携の在り方について説明できる。</li> <li>・教育課程や支援方法を具体的に説明できる。</li> </ul>									
学修者への 期待等	事前にテキストや資料に目を通し質問等を準備して授業に参加し、情報交換(アンケート、ディスカッション、グループワーク)に積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	障害をもつ子どもたちについて理解を深める				事前学修：教科書目次(プロローグ)通読 事後学修：学びを深めたいことを整理する			30	30	
2	特別支援教育とは-理念、制度、法令について学ぶ				事前学修：教科書第8章通読 事後学修：特別支援教育の理念を整理する			30	30	
3	障害の理解と支援-発達障害について学ぶ (グループワーク)				事前学修：発達障害関連資料の熟読 事後学修：発達障害の特性と対応を整理する			30	30	
4	障害の理解と支援-知的障害について学ぶ (グループワーク)				事前学修：知的障害関連資料の熟読 事後学修：知的障害の特性と対応を整理する			30	30	
5	障害の理解と支援-言語障害について学ぶ (グループワーク)				事前学修：言語障害関連資料の熟読 事後学修：言語障害の特性と対応を整理する			30	30	
6	障害の理解と支援-肢体不自由について学ぶ (グループワーク)				事前学修：肢体不自由関連資料の熟読 事後学修：脳性まひの特性と対応を整理する			30	30	
7	障害の理解と支援-聴覚障害について学ぶ (グループワーク)				事前学修：聴覚障害関連資料の熟読 事後学修：聴覚障害の特性と対応を整理する			30	30	
8	障害の理解と支援-視覚障害について学ぶ (グループワーク)				事前学修：視覚障害関連資料の熟読 事後学修：視覚障害の特性と対応を整理する			30	30	
9	障害の理解と支援-病弱について学ぶ (グループワーク)				事前学修：病弱関連資料の熟読 事後学修：病虚弱児の特性と対応を整理する			30	30	
10	障害の理解と支援-重度重複(強度行動障害)につ いて学ぶ(グループワーク)				事前学修：重度重複関連資料の熟読 事後学修：強度行動障害への対応を整理する			30	30	
11	特別支援教育の教育課程を学ぶ-「通級による指 導」及び「自立活動」について(グループワーク)				事前学修：教育課程に関する資料の熟読 事後学修：自立活動について整理する			30	30	
12	個別の指導計画、教育支援計画について学ぶ (グループワーク)				事前学修：個別の支援計画関連資料の熟 読 事後学修：個別の支援計画の作成(目標 等)			30	30	
13	特別支援コーディネーターや関係機関など、様々な 連携について学ぶ				事前学修：関係機関との連携について調 べる 事後学修：連携における重要事項を整理 する			30	30	
14	家庭との連携について学ぶ(グループワーク)				事前学修：保護者との情報共有方法を調 べる 事後学修：事例を定めて連絡帳を書く			30	30	
15	障害によらない特別な教育的ニーズの必要性につ いて学ぶ-困り感と支援方法について				事前学修：様々なニーズについて調べる 事後学修：外国籍の子等への対応を整理 する			30	30	
アクティ ブ・ ラー ニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク)									
教科書	『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』小林徹・栗山宣夫、みらい									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	グループワーク等による意見交換のほかTeams等での学生間の情報共有を用いる。 授業内課題等は授業内で知らせる。UNIPAでの提出物についてはコメントを記載してフィードバックする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

・特別支援学校と小学校教諭で合わせて30年以上勤務し、主に特別支援教育に従事してきました。  
現場経験に基づき、教育実践で求められる授業デザインや児童理解を授業に活かします。  
[資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-19					
	●		●								
科目名	子どもの保健				単位認定者	田中 希代子		試験（筆記）	70	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	15	%
					講義	授業時間数	30 時間		受講態度	15	%
				授業形態		授業回数	15 回				
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、そして、子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。さらに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの身体発育、精神発達、疾患等の特徴を知る。</li> <li>健康の保持増進に資する能力を獲得できるようになる。</li> <li>危険防止の重要性を知り、潜在的リスクを予想し自ら回避する想像力を身につける。</li> </ul>										
学修者への期待等	授業への積極的な参加、提出物の期限の厳守。 子どもの発育発達を学ぶと同時に、自分自身の健康についても関心を持って学ぶこと。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	子どもの保健とは 身体発育 生理機能				事前学修：第2章 子どもの成長と発達 (P. 27～30)と第3章 生理機能の発達 (P. 38～40)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
2	子どもの成長と発達① 運動機能				事前学修：第2章 (P. 32～33)と巻末資料に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
3	子どもの成長と発達② 精神機能				事前学修：第2章 (P. 34～35)と巻末資料に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
4	子どもの生活① 離乳食と幼児の食事、乳歯の生え方 排泄その1				事前学修：第3章 生理機能の発達 (P. 40～41)と第4章 子どもの生活と保健 (P. 50～51)と巻末資料に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
5	子どもの生活② 排泄その2と睡眠 乳幼児の健康 診査				事前学修：第3章 (P. 41～42)と第4章 (P. 50～54)と巻末資料に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
6	予防接種の意義				事前学修：第7章 感染症を予防する (P. 86～87)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
7	子どもの病気① アレルギー				事前学修：第9章 子どもの主な病気 (P. 107～109)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
8	子どもの病気② 感染症(1) ～感染症とは？一般的にかかりやすい感染症<ウイルス①>～				事前学修：第7章 (P. 82～85)と第8章 感染症 (P. 92～102)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
9	子どもの病気③ 感染症(2) ～子どもがかかりやすい感染症<ウイルス②, 細菌>～				事前学修：第8章 (P. 92～102)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
10	子どもの病気④ 感染症(3) ～子どもがかかった時の登園目安～				事前学修：第8章 (P. 90～91)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
11	子どもの病気⑤ 循環器と呼吸器、消化器				事前学修：第9章 (P. 105～110)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
12	子どもの病気⑥ 泌尿器と目・耳・皮膚の病気、けいれん				事前学修：第6章 子どもによくみられる症状 (P. 77)と第9章 (P. 111～112)に目を通す				30	30	
13	事故防止について①、体温測定の実際				事前学修：第12章 事故から子どもたちを守る (P. 140～147)と第15章 子どもの体調不良に気づき対応する (P. 167～168)に目を通す				30	30	
14	事故防止について②、誤飲した時の対応と虐待の早期発見				事前学修：第17章 (P. 182～183)と第1章 (P. 16～17)に目を通す 事後学修：板書の復習				30	30	
15	まとめ				事前学修：第14回までの板書を復習しておくこと 事後学修：テスト範囲の復習				60	60	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( )										
教科書	『イラスト 子どもの保健・健康と安全』山下 雅佳実著、東京教学社										
参考文献	なし										
備考	授業内課題については、授業内でコメントする。										

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

助産師、東北大学病院INCU、仙台市新生児訪問指導員、養育支援指導員で20年以上の実務経験より、現場で必要な知識の習得や適切な対応を深める授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-08			
	●	●	●	●	●				
科目名	教育実習 I				単位認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三	堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	40 時間		
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	将来実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を志し、教育実習を行う。大学で学んだ内容論や方法論を基盤として、幼稚園での幼児への理解を深め、総合的に教育する基礎を養うために観察実習を行う。								
到達目標	①幼稚園における幼児の発達特性や生活実態を観察し、適切に理解・記述できる。 ②学校で学んだ指導法や保育内容の知識を基盤に、保育活動の意図を理解し、実践に生かす方法を考察できる。 ③実際の保育場面において、子どもの状況に応じて柔軟に援助を行うための基礎的な指導力を身につける。								
学修者への期待等	理論と実践の具体的相互関係を学び、教育者・保育者としてのあり方を学ぶ。日々、実習を振り返りながら、実習の内容を実習日誌に記し、それを基に次の日の準備を行う。								
授業計画						準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
①実習期間：2月 ②実習の目標： ・幼児の生活実態及び教育や保育の実際を理解する。 ・大学で学んだ知識や技能を基盤に、教育や保育の場で総合的に実践する基礎を学ぶ。 ③実習内容： ・配属クラスにおいて観察実習を行う。 ・観察実習において、教師（幼稚園教諭）の幼児への援助の様相を環境の構成等との関係を踏まえながら、客観的に観察し、記録する。						事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認 事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究等		60	60
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
<p>(菅原) 教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる研究的視点や児童理解を授業に活かします。          [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許</p>

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-09					
	●	●	●	●	●						
科目名	教育実習指導 I				単位 認定者	菅原弘 田宮希砂	田中公一 平山淑希	実習報告書	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題等	50	%
					授業形態	演習	授業時間数		20 時間		
				授業回数		10 回					
授業の概要	教育実習 I の事前・事後指導を行う。事前指導では、実習に臨むにあたり必要とされる基本的な心構えや態度、幼稚園の概要、幼児の観察の仕方、実習日誌の書き方について理解を深める。事後指導では、実習の反省を踏まえて、今後の課題を明確にする。										
到達目標	1. 教育実習の意義や目的についてよく理解する。 2. 実習日誌等、実習で必要となる記録や文書の意義や役割を把握する。 3. 実習に参加するために必要な知識や技能を身に付ける。										
学修者への 期待等	事前準備については、実習先での自分の姿を想像して、積極的に課題に取り組むこと。実習後の振り返りでは、自分の課題と正面から向き合い、よりよい保育実践について理解を深めること。										
回	授業計画				準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)		
1	実習についての基本的・総合的事項の理解				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
2	実習の意義や目的について				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
3	実習において必要となる事柄の理解・整理				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
4	実習に関する書類等の理解・整理				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
5	実習に対する心構えについて				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
6	実習準備：観察実習の意義				事前学修：実習先の概要を調べる。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
7	【グループワーク】 実習準備：観察実習の課題				事前学修：観察すべき課題を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
8	【グループワーク】 実習準備：個別的課題の探究				事前学修：実習に向けた個別的課題の設定。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
9	実習に関する事後指導				事前学修：実習を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
10	【グループワーク】 今後の実習に関する課題等の検討				事前学修：各自の今後の課題を見出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30		
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）										
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房										
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、随時配布する。										
備考	5回目の講義に関しては、ゲストスピーカー（神戸典子先生）に講話をして頂きます。 実習に関わる重要な授業です。授業には、毎回真剣に取り組む必要があります。 提出された課題は確認後授業内で返却します。実習時の参考資料として活用してください。										

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

（田宮）幼稚園教諭として15年以上勤務する中で、実習生の受け入れおよび実習指導を行ってきた実務経験を基に、幼稚園教育実習に臨む学生に対し、事前・事後指導を通して実践的な学びを支援する。  
〔資格等〕幼稚園教諭専修免許、保育士資格

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-01				
			●	●						
科目名	基礎演習 I				単位 認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 平田修三 中曽根裕 田中公一 田宮希砂		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	初学者が幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成を行う。大学生活への導入、大学教育の意義と目的に始まり、資料検索等の情報収集の方法、文章の読み方・書き方（文章表現力）、キャリア形成について、学外実習の心得等の内容を取り扱う。学習目的遂行のために設定した課題について、探究的に学習し、課題の解決を目指す。									
到達目標	1 課題を発見し、それについて論理的に考え、解決を図るための基礎的能力を身につける。 2 資料収集、文章構成力、発表力など自主学修を行う上で必要な能力を獲得する。 3 次年度のゼミ学修（基礎演習Ⅱ）に向けて、基礎的な知識や方法を学ぶ。									
学修者への期待等	自主的な学びを中心にした科目ですので、自ら行動することを心がけてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	【ロールプレイ】 人間関係力向上に向けてⅠ（コミュニケーション方法の理解）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
2	【講義】 大学教育の意義（講義の目的と内容・授業の進行方法・レポートの作成方法 など）				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
3	【講義】 福祉施設の理解（福祉施設と利用者の理解）				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
4	【グループワーク】 人間関係力向上に向けてⅡ（コミュニケーションの実践）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
5	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅰ（コーナー保育について）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
6	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅱ（実践内容の考察）				事前学修：実践内容の考察と準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
7	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅲ（中心となる活動とねらい）				事前学修：実践内容の考察と準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
8	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅳ（環境構成の理解）				事前学修：実践内容の考察と準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
9	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅴ（予想される幼児の活動の理解）				事前学修：実践内容の考察と準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
10	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅵ（保育者の援助と留意点の理解）				事前学修：実践内容の考察と準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
11	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅶ（ドキュメンテーションの方法と内容）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
12	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅷ（ドキュメンテーションの応用）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
13	【ロールプレイ】 環境に応じた保育の実践Ⅸ（コーナー保育実施①保育者の知識と技術の理解）				事前学修：実践内容の準備と発表。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
14	【ロールプレイ】 環境に応じた保育の実践X（コーナー保育実施②乳幼児の気持ちと発達の理解）	事前学修：実践内容の準備と発表。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
15	【グループワーク・ディスカッション】 環境に応じた保育の実践XI（反省と課題）	事前学修：実践内容の反省と課題をまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
16	【面談】 後期に向けた個別の課題設定	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
17	【講義】 後期授業の目的と内容・購読演習の概要	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
18	【講義】 図書館の活用について（文献検索の方法）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
19	【グループワーク】 購読演習に向けての課題の設定	事前学修：事前に文献を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
20	【グループワーク】 購読演習文献検索	事前学修：事前にレジュメに目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
21	【グループワーク・ディスカッション】 購読演習Ⅰ（指名學生1～2名からの文献報告）	事前学修：事前にレジュメに目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
22	【グループワーク・ディスカッション】 購読演習Ⅱ（指名學生1～2名からの文献報告）	事前学修：事前にレジュメに目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
23	【グループワーク・ディスカッション】 購読演習Ⅲ（指名學生1～2名からの文献報告）	事前学修：事前にレジュメに目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
24	【グループワーク・ディスカッション】 購読演習Ⅳ（指名學生1～2名からの文献報告）	事前学修：事前にレジュメに目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
25	【グループワーク・ディスカッション】 全体を通しての論点の整理	事前学修：レジュメ発表の成果をまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
26	【グループワーク・ディスカッション】 報告書の作成	事前学修：レジュメ発表の成果をまとめる 事後学修：報告書を作成しまとめる。	30	30
27	【グループワーク】 今後の学修の方向性とまとめ	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
28	次年度の学修準備Ⅰ（研究領域について）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
29	次年度の学修準備Ⅱ（調べ学修）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
30	次年度の学修準備Ⅲ（学修成果について）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション）			
教科書	『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』都築学 著、有斐閣 『福祉施設実習テキストブックー子ども・利用者理解からはじめる実践ー』栗山宜夫・小林徹 編著、建帛社			
参考文献	各ゼミで適宜選定。			
備考	購読演習の報告書などは、内容確認後にフィードバックしますので、自己学修に活用してください。			

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

（菅原）教諭として特別支援学校、小学校に30年以上勤務し、特別支援学級及び通常の学級での担任経験を有する。その間、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任として、児童理解及び保護者や校内の連携を担ってきた。現場経験に基づいた児童理解を授業に活かします。

[資格等] 小学校教諭1種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

# こども学科 2年生

- 年間予定表
- シラバス

## 2026年度 こども学科2年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土					
4月					1		2 オリエンテーション	3 (入学式)	4				
	5	6	木1	7	木2	8	1	9	健康診断	10	1	11	
	12	13	1	14	1	15	2	16	3	17	2	18	
	19	20	2	21	スポーツ大会	22	3	23	4	24	3	25	
	26	27	3	28	2	29		30	実習オリエンテーション	1	実習オリエンテーション	2	
5月	3	4		5		6		7	5	8	4	9	
	10	11	4	12	3	13	4	14	6	15	5	16	
	17	18	5	19	4	20	5	21	7	22	<sup>6</sup> PM実習出発式	23	
	24	25	保育実習 I (施設)	26	保育実習 I (施設)	27	保育実習 I (施設)	28	保育実習 I (施設)	29	保育実習 I (施設)	30	
	31	1	保育実習 I (施設)	2	保育実習 I (施設)	3	保育実習 I (施設)	4	保育実習 I (施設)	5	保育実習 I (施設)	6	
6月	7	8	実習予備日	9	5	10	6	11	8	12	7	13	
	14	15	6	16	6	17	7	18	9	19	<sup>8</sup> PM実習出発式	20	
	21	22	教育実習 II	23	教育実習 II	24	教育実習 II	25	教育実習 II	26	教育実習 II	27	
	28	29	教育実習 II	30	教育実習 II	1	教育実習 II	2	教育実習 II	3	教育実習 II	4	
7月	5	6	教育実習 II	7	教育実習 II	8	教育実習 II	9	教育実習 II	10	教育実習 II	11	
	12	13	実習予備日	14	実習予備日	15	8	16	10	17	9	18	
	19	20		21	7	22	9	23	11	24	10	25	
	26	27	7	28	8	29	10	30	12	31	11	1	
8月	2	3	8	4	9	5	11	6	13	7	12	8	
	9	10		11		12		13		14		15	
	16	17	実習オリエンテーション	18	実習オリエンテーション	19		20		21		22	
	23	24	定期試験	25	定期試験	26		27		28		29	
	30	31		1		2		3		4	成績発表	5	
9月	6	7		8		9		10	再試験	11	<sup>再試験</sup> PM実習出発式	12	
	13	14	保育実習 I (保育所)	15	保育実習 I (保育所)	16	保育実習 I (保育所)	17	保育実習 I (保育所)	18	保育実習 I (保育所)	19	保育実習 I (保育所)
	20	21		22		23		24	保育実習 I (保育所)	25	保育実習 I (保育所)	26	保育実習 I (保育所)
	27	28	保育実習 I (保育所)	29	実習予備日	30	実習指導						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 こども学科2年生 年間予定表

### 後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1 実習指導	2 実習指導	3
	4	5 保育実習Ⅱ	6 保育実習Ⅱ	7 保育実習Ⅱ	8 保育実習Ⅱ	9 保育実習Ⅱ	10 保育実習Ⅱ	11 保育実習Ⅱ
	11	12	13 保育実習Ⅱ	14 保育実習Ⅱ	15 保育実習Ⅱ	16 保育実習Ⅱ	17 保育実習Ⅱ	18 保育実習Ⅱ
	18	19 実習予備日	20 実習予備日	21 オリエンテーション	22 1	23 交流会	24	25
	25	26 1	27 1	28 1	29 2	30 PMせいよう祭準備	31 せいよう祭	
11月	1	2 2	3	4 2	5 3	6 2	7	8
	8	9 3	10 2	11 3	12 4	13 3	14	15
	15	16 4	17 3	18 4	19 5	20 4	21	22
	22	23	24 4	25 5	26 6	27 5	28	29
	29	30 5	1 5	2 6	3 7	4 6	5	6
12月	6	7 6	8 6	9 7	10 8	11 7	12	13
	13	14 7	15 7	16 8	17 9	18 8	19	20
	20	21 8	22 8	23 9	24 10	25 AMせいよう演劇会	26	27
	27	28	29	30	31	1	2	3
1月	3	4 9	5 9	6 10	7 11	8 9	9	10
	10	11	12 10	13 11	14 12	15 10	16	17
	17	18 10	19 11	20 12	21 定期試験	22 定期試験	23	24
	24	25	26	27	28	29 成績発表	30	31
	31	1	2	3 教材発表会準備	4 AM教材発表会 PM実習報告会	5 再試験	6	7
2月	7	8	9	10	11	12	13	14
	14	15	16	17	18	19	20	21
	21	22	23	24	25	26	27	28
	28	1	2	3	4	5	6	7
3月	7	8	9	10	11	12	13	14
	14	15	16	17 卒業式	18	19	20	21
	21	22	23	24	25	26	27	28
	28	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※2月1日(月)は入試のため、土日祝日と同様に五橋キャンパス構内への立入りは一切できません。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-0-HSC-03				
		●		●						
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	菅原 弘 早坂 正年		試験 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	保育・教育現場では「書く・伝える」ことが日常的に行われ、大切な業務の一つとなっている。それは同僚間のみならず、保護者に対しても連絡帳やお便り等を通して実践していかねばならず、保育者にとってみれば必要不可欠な能力である。本授業では情報共有の重要性やリテラシーについて学び、様々な媒体を通じた情報提供の方法を実践的に学修し、活用できるようにする。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報共有の重要性を学び、的確な情報交換を実践することができる。</li> <li>2. 多種多様な連絡・報告手段を学び、それらを適切に活用できるようになる。</li> <li>3. 保護者への情報提供を、わかりやすく且つスムーズに行うことができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	授業から得られた知識をしっかりとアウトプットできるよう、主体的に学修に臨むこと。また、授業での学びが滞ることがないように教科書や配布資料、UNIPAへ掲載の資料等を熟読して授業へ参加すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	保育現場で扱う情報の種類と目的 ICTを活用した双方向型授業				事前学修：既習科目を振り返り、保育における情報活用を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。			30	30	
2	情報モラル メール、SNSマナー				事前学修：メディア等を活用し、ICT活用における諸問題を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。			30	30	
3	WEB情報等の活用上の留意点				事前学修：メディア等を活用し、ICT活用における諸問題を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。			30	30	
4	保育・教育機関における情報発信の実際と留意点				事前学修：指導計画等に文書形式等を検索し概要を把握しておく。 事後学修：保育所等での情報発信における留意点を整理する。			30	30	
5	情報共有の具体的方法				事前学修：連絡帳等の具体的な記載方法を確認しておく。 事後学修：情報発信及び保護者との情報共有の具体的方法の種類と留意点を整理する。			30	30	
6	指導計画を基にした教材作成実技とその共有				事前学修：指導計画及び指導案の概要を確認し具体例を準備する。 事後学修：指導内容を展開する上での具体的な工夫と共同吟味の方法を整理する。			30	30	
7	保護者へのおたよりやドキュメンテーションの理解と取材				事前学修：園だよりとドキュメンテーションの具体例を検索し概要を把握しておく。 事後学修：園だよりの作成上の留意点を整理する。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	保護者との情報共有①（ドキュメンテーション）説明	事前学修：レッジョ・エミリアの実践について調べておく。 事後学修：ドキュメンテーションの作成上の留意点を整理する。	30	30
9	保護者との情報共有②（ドキュメンテーション）作成実技	事前学修：作成するドキュメンテーションの題材を準備しておく。 事後学修：自作ドキュメンテーションの改善点を整理する。	30	30
10	保護者との情報共有③（保護者へのおたより）説明	事前学修：園だよりに掲載する教材や実習の振り返り等の記事候補を準備しておく。 事後学修：作成する園だよりの概要をイメージし掲載資料を検索し準備する。	30	30
11	保護者との情報共有④（保護者へのおたより）作成実技	事前学修：作成する園だよりの具体的イメージを固めておく。 事後学修：自作園だよりの改善点を整理する。	30	30
12	AIを活用した保育業務の効率化 Webアンケートによるデータ収集と分析	事前学修：メディア等を活用し、AI活用におけるモラルを理解しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
13	地域（社会）への情報発信と情報共有① ホームページの説明	事前学修：保育園等のホームページを複数閲覧し、基本構造を把握する。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
14	地域（社会）への情報発信と情報共有② ホームページのデザイン	事前学修：保育園等のホームページデザイン案を検討しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
15	地域（社会）への情報発信と情報共有③ ホームページの作成実技 保育・教育の情報化の今後と課題	事前学修：これまでの授業回を振り返り、既習内容を整理しておく。 事後学修：学修目標の到達度を自己評価し、今後の課題を明らかにする。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技）			
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する。			
<b>参考文献</b>	適宜、参考資料を提示・配布する			
<b>備考</b>	製作や発表の時間もあるので、授業外でも計画的に準備を進めておくこと。また、演習・発表等にふさわしい姿勢や態度を心がけ、意欲的に授業に参加すること。授業で提示した課題については、回収後に内容を確認し、以後の授業時に返却する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-03				
		●								
科目名	音楽表現Ⅲ				単位認定者	田宮 希砂		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	1年次に培った基礎力を土台として、保育者に求められる基礎技能を高め、表現力を身につける。教育実習・保育実習の場で季節や園の生活に即した数多くの音楽教材を扱うために「弾き歌い」のレパートリーを拡充する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味・関心や発達に応じた音楽表現のあり方を考察する。</li> <li>音楽表現の実践を振り返り、保育における音楽表現の課題や可能性を言語化する。</li> <li>子ども理解を基盤とした様々な音楽表現を実践することができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。グループ担当教員と考えた毎回の課題に十分に取り組んでから授業に参加しましょう。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	ガイダンス 保育における音楽活動の実際（グループワーク）				事前学修：音楽表現Ⅱの課題を復習する 事後学修：グループワークの内容をまとめる				60	60
2	保育における伴奏法① 様々なリズムパターンの伴奏（実技）				事前学修：第1回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60
3	園生活と音楽① 五領域とのかかわり（実技）				事前学修：第2回授業の課題に取り組む 教科書p. 38-49を読んでくる 事後学修：領域と音楽表現についてまとめる				60	60
4	保育における伴奏法② こどもの歌や遊びに使われる楽曲の伴奏（実技）				事前学修：第3回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容を復習する				60	60
5	園生活と音楽② 身体表現と音楽（実技・グループワーク）				事前学修：第4回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60
6	保育における伴奏法③ 弾き歌いにおける声の使い方（実技）				事前学修：第5回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料31・32を復習する				60	60
7	園生活と音楽③ 未満児の音あそび（実技・グループワーク）				事前学修：第6回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる				60	60
8	保育における伴奏法④ 伴奏の工夫や楽曲のアレンジ（実技）				事前学修：第7回授業の課題に取り組む 事後学修：配布資料33・34・35を復習する				60	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	園生活と音楽④ 保幼小接続を視点にした音楽表現（実技）	事前学修：第8回授業の課題に取り組む 教科書p. 108-119を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる	60	60
10	保育における伴奏法⑤ BGM・効果音（実技・グループワーク）	事前学修：第9回授業の課題に取り組む 事後学修：グループワークの内容をまとめる	60	60
11	保育における伴奏法⑥ レクリエーション活動における伴奏	事前学修：第10回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる	60	60
12	保育における伴奏法⑦ 活動内容に合わせた伴奏（実技）	事前学修：第11回授業の課題に取り組む 事後学修：実技の内容をまとめる	60	60
13	園生活と音楽⑤ 行事と音楽（実技・グループワーク）	事前学修：第12回授業の課題に取り組む 教科書p. 120-127を読んでくる 事後学修：実技の内容をまとめる	60	60
14	園生活と音楽⑥ 音楽あそびの企画（実技）	事前学修：第13回授業の課題に取り組む 事後学修：発表の準備をする	60	60
15	園生活と音楽⑦ 音楽あそびの実践と振り返り（実技・グループワーク・発表）	事前学修：第14回授業の課題に取り組む 事後学修：15回の授業を振り返り、保育者としての今後の課題設定をする	60	60
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク 実技 発表）			
<b>教科書</b>	『続こどものうた200』小林美実編、チャイルド本社 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい			
<b>参考文献</b>	音楽表現Ⅰで配布した「楽譜をよむための基礎知識」に関する資料を引き続き使用する。その他随時配布。			
<b>備考</b>	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授業を行う。UNIPAで行った課題に関しては、内容確認の上次回以降教員よりフィードバックする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、保育現場に即した音楽表現の在り方について、具体的な実践を通して指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-08				
		●	●	●						
科目名	総合表現演習Ⅱ				単位認定者	鈴木享之 田中公一 田宮希砂		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と『保育所保育指針』を踏まえて、子ども自らが様々な児童文化財に親しめるよう、テーマを持ってストーリーを考え、それに沿ったレクリエーションを展開するために必要な知識・技術を学ぶ。									
到達目標	子どもの発達や環境を捉えながら、保育の表現に関する具体的な内容の理解を深める。保育の表現に関する知識・技術を向上させる。協力して活動する力を身に付ける。									
学修者への期待等	実践的な活動の展開ができるよう、主体的・積極的に授業に取り組むこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	ガイダンス 総合表現演習Ⅰの振り返り				事前学修：実習園の表現活動を振り返ってくる 事後学修：保育におけるオペレッタの方法をまとめる		30	30	鈴木 享之	
2	実践発表の立案（グループワーク）				事前学修：発表する表現の原作を調べてくる 事後学修：発表する表現の案を考える		60	60	田中 公一	
3	実践発表準備①プログラムの構成（グループワーク）				事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる		60	60	田中 公一	
4	実践発表準備②台本の作成（グループワーク）				事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる		60	60	田中 公一	
5	実践発表準備③道具の作成（グループワーク）				事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる		60	60	田中 公一	
6	実践発表準備④衣装の作成（グループワーク）				事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる		60	60	田中 公一	
7	実践発表予行演習（グループワーク）				事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：予行演習を振り返る		60	60	田宮 希砂	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	学内実践発表①準備 (グループワーク)	事前学修：担当係ごとに発表に必要な準備を進める 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる	60	60	田宮 希砂
9	学内実践発表②実演 (グループワーク 発表)	事前学修：実践発表にむけて十分に練習する 事後学修：実践演習を振り返る	60	60	田宮 希砂
10	学内実践発表の振り返り (グループワーク)	事前学修：実践発表の反省点を考えてくる 事後学修：修正案を考える	60	60	鈴木 享之
11	実践発表の修正 (グループワーク)	事前学修：発表内容の再構成案を考えてくる 事後学修：担当係ごとに修正案をまとめる	60	60	鈴木 享之
12	学外実践発表①準備 (グループワーク)	事前学修：修正した表現を十分に練習する 事後学修：担当係ごとに授業内容をまとめる	60	60	鈴木 享之
13	学外実践発表②実演 (グループワーク 発表)	事前学修：実践発表にむけて十分に練習する 事後学修：実践演習を振り返る	60	60	鈴木 享之
14	学外実践発表の振り返り (グループワーク)	事前学修：実践発表の反省点を考えてくる 事後学修：実践発表の振り返りをまとめる	60	60	鈴木 享之
15	表現についての総合的考察	事前学修：保育における表現とは何か考えてくる 事後学修：保育における総合表現についてまとめる	30	30	鈴木 享之
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (グループワーク 発表)				
<b>教科書</b>	適宜、プリント等を配布します。				
<b>参考文献</b>	随時、紹介します。				
<b>備考</b>	課題を出した場合は、確認後、講義中に返却・解説します。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(田宮) 幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許/保育士資格を有しており、保育者に求められる総合的な表現力や指導力を実践的に指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SSE-03				
			●	●	●					
科目名	生涯発達心理学Ⅱ				単位 認定者	平田 修三		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	50 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	生涯発達に関する知識を習得したうえで、主として子どもの発達に影響を与える家族・家庭の意義や機能などについて学ぶ。それらの基本的知識をもとに、現代における子育て家庭の課題や子どもの心の健康に関する課題について理解を深める。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の年齢ごとの発達の特徴について説明できる。</li> <li>2. 現代における家族のあり方や諸課題について具体例を挙げながら説明できる。</li> <li>3. 生涯発達という視点から現在の自分や家族をふりかえり、今後の展望を描けるようになる。</li> </ol>									
学修者への期待等	「生涯発達」は私たち自身のテーマでもあることを意識しながら、自らの人生展望やキャリア形成に活かせるような学修を心がけてほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	生涯発達をとらえるモデル				事前学修：「人の一生」のイメージをノートに曲線で描いておく。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				30	30
2	乳児の発達と保育①：0～5か月頃				事前学修：教科書の「乳児①」(pp. 5～14)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				60	30
3	乳児の発達と保育②：6～11か月頃				事前学修：教科書の「乳児②」(pp. 15～24)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				60	30
4	1歳頃の発達と保育				事前学修：教科書の「1歳ころ」(pp. 25～34)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				60	30
5	2歳頃の発達と保育				事前学修：教科書の「2歳ころ」(pp. 35～44)に目を通し、要点をノートに整理しておく。 事後学修：UNIPAの小テストやクリッカーにより復習を行い、他の受講生の意見に目を通す。				60	30
6	3歳頃の発達と保育				事前学修：教科書の「3歳ころ」(pp. 45～56)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				60	30
7	4歳頃の発達と保育				事前学修：教科書の「4歳ころ」(pp. 57～66)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	5歳頃の発達と保育	事前学修：教科書の「5歳ころ」(pp. 67～76)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	60	30
9	6歳頃の発達と保育	事前学修：教科書の「6歳ころ」(pp. 77～86)に目を通し、要点をノートに整理する。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	60	30
10	児童期～青年期	事前学修：「第二次性徴」について調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
11	成人期～老年期	事前学修：「認知症」について調べる。 事後学修：UNIPAの小テストやクリッカーにより復習を行い、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
12	家族の介護・死	事前学修：「介護」に関わるニュースを調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
13	家族ライフサイクル・家族システム論	事前学修：「発達課題」について調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
14	現代家族の特徴と諸課題	事前学修：教員が指定する記事に目を通す。 事後学修：UNIPAの小テストやクリッカーにより復習を行い、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
15	人生展望とライフストーリー	事前学修：「ライフストーリー」について調べる。 事後学修：UNIPAの小テスト等で復習し、他の受講生の意見に目を通す。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )			
<b>教科書</b>	『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』河原紀子監修・執筆, Gakken			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は全て遠隔(オンデマンド)で行う。</li> <li>・毎回、UNIPAで授業内課題(事後学修)を課し、教員がフィードバックを行う。</li> </ul>			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-SSE-04

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	乳児保育 I				単位 認定者	奥山 栄子		評価の方法	試験(レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数			15 回			

授業の概要	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。さらに、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について、職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
-------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の子育て社会の問題を通して、保育の場における乳児保育の意義や役割について理解できるようになる。</li> <li>現代の子育て社会の問題を通して、保育の場における乳児保育の意義や役割について説明できるようになる。</li> <li>乳児期の子どもの発育・発達と保育内容を理解し保育現場で実践できるようになる。</li> </ul>
------	--

学修者への期待等	前回の授業の「保育者として必要な知識・重要ポイント」を授業開始時に復習するため、教科書・ノートなどを再読して授業に臨んでください。
----------	---

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業ガイダンス・乳児保育の目的と役割	事前学修：事後学修：授業後には内容の復習、課題への取り組みを行うこと	0	30
2	乳児保育の基本	事前学習：教科書の該当ページを読んで予習すること 事後学習：授業後には、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
3	0・1・2歳児の発達	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
4	乳児（0歳児）の保育内容	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
5	1歳以上3歳未満児の保育内容	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
6	乳児の生活と遊びの基本的事項	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
7	乳児の生活の基本①（食事と睡眠）	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	乳児の生活の基本②（排泄・着脱・清潔）	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
9	乳児の遊び（実技）	事前学修：実技の準備をしてきてください 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への考察を行うこと	30	30
10	乳児保育の環境構成	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
11	乳児保育における全体的な計画	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
12	乳児保育における子育て支援	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
13	乳児保育における連携	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
14	一人一人を健やかに育てていくために	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
15	乳児保育に携わる保育者の専門性・まとめ	事前学修：教科書の該当ページを読んで、予習すること 事後学修：授業後は、内容の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 実技 ）			
<b>教科書</b>	『講義で学ぶ乳児保育』小山朝子、亀崎美沙子、善本眞弓著 わかば社			
<b>参考文献</b>	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	授業内課題については次の授業内にてフィードバックを行う。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

保育分野で10年以上の実務経験と幼稚園教諭・保育士資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	CS-1-CRE-01				
	●	●								
科目名	カリキュラム論				単位認定者	小野瀬 剛志		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	「カリキュラム」とは、「それに沿って学びが進行すべき計画」という意味と、「学習者の学びの経験の総体」という意味をもつ。本講義では、まずカリキュラムの意義や内容について理解を深める。その上で、幼稚園、保育と関連する教育・保育課程について詳しく学ぶ。									
到達目標	1 教育課程の意義について理解する。 2 教育課程編成の基本方針や方法を理解する。 3 教育課程の史の変遷を理解する。 4 幼稚園・保育所の教育課程の編成について理解する。									
学修者への期待等	講義の前半は保育に限らないカリキュラム一般について理解を深めます。それを踏まえた上で、保育のカリキュラムについて理解を深めていくので、つねに保育への応用やこれまで受けてきたカリキュラムとの関連性を念頭において講義に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ガイダンス (授業概要の説明、保育におけるカリキュラムとは何か)				事前学修：シラバスを読んで、授業内容を確認する 事後学修：「保育」とカリキュラムの関係について自身の考えをまとめる				30	30
2	カリキュラムの考え方 (生活と科学、経験主義と系統主義)				事前学修：「経験主義と系統主義」の違いについて教科書pp. 150～160の内容を整理する 事後学修：「経験主義と系統主義」について自身の考えをまとめる				30	30
3	カリキュラムの編成方法				事前学修：「カリキュラムの編成方法」について、教科書第5章pp. 180～211を読む 事後学修：カリキュラムの編成について自身の考えをまとめる				30	30
4	社会におけるカリキュラム (学校型教育への批判的視点)				事前学修：社会と学校教育の関係について、教科書第7章pp. 246～270の内容を整理する 事後学修：学校教育に対する批判理論を自身の学校生活をふりかえって理解する				30	30
5	カリキュラムと人格形成 (顕在的カリキュラムとかくれたカリキュラム) (ディスカッション)				事前学修：男性と女性の違いについて考える 事後学修：かくれたカリキュラムとジェンダーについて自身の経験をふまえて考えをまとめる				30	30
6	近代日本における学校とカリキュラム① (明治期～大正期)				事前学修：明治期～大正期の教育について教科書pp. 20～40を読む 事後学修：提示した課題に取り組む				30	30
7	近代日本における学校とカリキュラム② (昭和初期～終戦)				事前学修：昭和初期～太平洋戦争終戦の教育について教科書pp. 40～46を読む 事後学修：提示した課題に取り組む				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	現代日本における学校とカリキュラム①（戦後復興期～高度経済成長）	事前学修：戦後復興期～高度経済成長の教育について教科書pp. 48～72を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
9	現代日本における学校とカリキュラム②（高度経済成長～現在）	事前学修：高度経済成長～現在の教育について教科書pp. 72～120を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
10	さまざまなカリキュラム①（食といのちの教育）	事前学修：食といのちの教育に関して、事前に配布した課題に取り組む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
11	さまざまなカリキュラム②（心の成長をうながすカリキュラム）	事前学修：人間関係の構築における教育の重要性について、教科書第8章pp. 277～285を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
12	幼児教育におけるカリキュラムの編成①（指導計画の基礎と作成）	事前学修：幼児教育における指導計画の考え方について、事前に配布した資料を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
13	幼児教育におけるカリキュラムの編成②（日案の作成方法）	事前学修：日案の考え方について、事前に配布した資料を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
14	幼児教育におけるカリキュラムの編成③（カリキュラム・マネジメントとPDCA）（ディスカッション）	事前学修：PDCAの考え方について、事前に配布資料を読む 事後学修：提示した課題に取り組む	30	30
15	総括（幼児教育とカリキュラム）	事前学修：これまでの授業内容を復習する 事後学修：授業内容から保育現場での実践を検討する	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ディスカッション）			
<b>教科書</b>	『新しい時代の教育課程』田中耕治他、有斐閣			
<b>参考文献</b>	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	講義は全て遠隔(オンデマンド、オンライン)で実施する。第5回、第14回は、ICTを利用した双方向型授業で実施する。授業内で課した課題については、後日コメント等を付して返却する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-04				
	●	●								
科目名	保育内容の指導法（健康）				単位認定者	中曽根 裕		試験（レポート）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、領域「健康」に関する指導法の理解と実践能力の養成を目指します。3法令（「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」）の共通理解を基本とした上で、学生同士の教材研究や意見交換を通して、指導案の作成、模擬保育の実践を行います。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の健康に関する領域「健康」の「ねらい」および「内容」を理解する。</li> <li>生活習慣形成に繋がる指導案を作成することができる。</li> <li>作成した指導案に基づき、保育実践することができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	この科目はアクティブラーニングの手法を中心に取り入れ、学生自身が「保育研究（指導案作成、教材研究・作成）」、「模擬保育」、「課題発見（討論）」を通して学びを深めていく講義です。自ら行動することが基本となりますので、積極的な姿勢で臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	領域「健康」が目指すものとは				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
2	心身の健康に関する領域「健康」の「ねらい」について				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
3	心身の健康に関する領域「健康」の「内容」について				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
4	保育・幼児教育における領域「健康」の位置づけ				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
5	遊びの発達と健康（遊びの発達過程）：グループワーク				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
6	幼児期の運動発達に沿った運動指導とは：グループワーク				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
7	災害時等の安全に関する指導について：グループワーク				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
8	外的環境と「こどもの健康」				事前学修：教科書に目を通し理解を深める。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
9	生活習慣の自立と指導：グループワーク				事前学修：幼児の生活習慣について調べる。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
10	生活習慣の形成に向けた保育の指導計画と指導法①：指導案の立案				事前学修：模擬保育で使用する保育教材準備 事後学修：指導案に沿った模擬保育の準備			30	30	
11	生活習慣の形成に向けた保育の指導計画と指導法②：指導案の作成・提出				事前学修：模擬保育で使用する保育教材準備 事後学修：指導案に沿った模擬保育の準備			60	30	
12	生活習慣づくりの模擬保育①（保育者の視点から）：グループワーク				事前学修：模擬保育で使用する保育教材準備 事後学修：実践から得た課題をまとめる			60	30	
13	生活習慣づくりの模擬保育②（幼児の視点から）：グループワーク				事前学修：模擬保育で使用する保育教材準備 事後学修：実践から得た課題をまとめる			60	30	
14	生活習慣づくりの反省と課題：グループワーク				事前学修：模擬保育の振り返りをまとめる 事後学修：実践から得た課題をまとめる			30	30	
15	領域「健康」と小学校の教科等への接続の可能性について				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、指導案の立案、模擬保育）									
教科書	『保育内容 健康—保育の内容・方法を知る』第3版 花井忠征・野中壽子 編著、北大路書房									
参考文献	適宜、授業にて指示する。									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-05				
		●	●							
科目名	保育内容の指導法（人間関係）				単位認定者	平田 修三		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	保育現場の様々な事例を通して、子ども同士の関係、子どもと大人の関係、保育者同士、保護者との関係等、多様な人間関係の特徴を学ぶ。また、理論的に説明されている発達の姿を、実際の子どもの姿と意図的に結びつけるグループディスカッションやロールプレイを通して考える。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」について理解する。 2. 乳幼児の人間関係について理解する。 3. 保育現場における「人間関係」の指導、援助のあり方を体得する。									
学修者への期待等	グループワークが中心となるため、積極的に授業参加すること。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ガイダンス：領域「人間関係」とは				事前学修：「幼稚園教育要領」のPP. 16-17に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
2	「人間関係」のねらいと目的：①子どもに身に付けさせるべきもの				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
3	「人間関係」のねらいと目的：②保育者に求められるもの				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
4	子どもと大人の関係性：①愛着形成を中心に（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
5	子どもと大人の関係性：②成長を促す大人の援助（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
6	子ども同士の関係性：①共感性を育てる保育（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
7	子ども同士の関係性：②社会性を身に付ける保育（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考える（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
9	子どもをめぐる今日の問題①子どもと情報機器（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
10	子どもをめぐる今日の問題②気になる子への対策（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
11	子どもをめぐる今日の問題③幼保小連携（事例検討グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
12	子ども同士の「人間関係」を育む①（指導案の作成）3歳児				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をTeamsに書き残す。				30	30
13	子ども同士の「人間関係」を育む②（指導案の作成）5歳児				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
14	子ども同士の「人間関係」を育む③（模擬保育）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
15	総括（模擬保育を振り返る）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学習内容をTeamsに書き残す。				30	30
アクティブラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	なし（適宜、講義資料を配布する）									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	事後学修やアクティブラーニング（グループワーク）の提出物については、Teams上に保存し、受講者が相互参照できるようにする。さらにそこで教員によるフィードバックも行う。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
該当しない。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-08				
		●	●							
科目名	保育内容の指導法（表現）				単位認定者	田宮 希砂 芳賀 哲		試験 （レポート）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	豊かな感性や表現はどのようにして生まれるのか、授業で様々な表現活動を体験しながら、子どもの心に思いを馳せ、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。具体的には様々な子どもにまつわる文化的表現活動を見て、体験して、自分のものとし、その状況等に適した応用の仕方などを学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の生活と領域「表現」の関係について理解する。</li> <li>・ 幼児の様々な表現活動を幼児の立場から見つめ理解し、発達の観点から捉えることができる。</li> <li>・ 幼児一人ひとりの興味や発達に応じた表現活動の援助を構想することができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	子ども心に返り、十分に楽しむと共に、子どものようにどんどん発想を広げ、具体的な形として表現してほしい。また、他者発表から学び、自分の実践に取り入れてほしい。模擬保育等のグループワークでは、活発な意見交換が望まれる。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	領域「表現」について 声と動きの表現活動（実技）				事前学修：幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」に関するところを目を通す 事後学修：保育のネタ帳を作成する		30	30	田宮 希砂	
2	教材研究① 自由な表現としてZ画を学ぶ				事前学修：Z画(展開画)のアイディアを考えてくる 事後学修：構想を練る		60	30	芳賀 哲	
3	教材研究② オリジナルのZ画を作る				事前学修：構想をまとめる 事後学修：作品を完成		30	60	芳賀 哲	
4	教材研究③ Z画を他者にプレゼンテーションする				事前学修：他者の前でどのように表現するかを練習してくる 事後学修：デッサン		60	30	芳賀 哲	
5	教材研究④ 自分の表現と他者の表現を組み合わせ、Z画紙芝居を作る。				事前学修：他者の作品をデッサンしてくる 事後学修：作品を完成		60	60	芳賀 哲	
6	教材研究⑤ 「卵の中から」を製作し、中に入れるものを考え、作る。				事前学修：卵の中身を考えてくる 事後学修：作品を完成しておく。		30	30	芳賀 哲	
7	教材研究⑥ 「卵の中から」を他者に発表する。				事前学修：他者の前でどのように表現するかを練習してくる 事後学修：指摘された点について振り返る。		30	30	芳賀 哲	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	教材研究⑦ 幼児の前で演じるポシェットを作る。	事前学修：ポシェットに入れる作品を考えてくる 事後学修：作品を完成させる。	30	30	芳賀 哲
9	歌唱教材研究① わらべうた・唱歌・童謡・子どものうた（実技）	事前学修：保育実践で歌いたい楽曲を選んでくる 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
10	歌唱教材研究② あそびうた・世界のうた（実技）	事前学修：選んだ楽曲の教材研究を行う 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
11	身体を使った音楽表現 リトミック・リズム遊び（実技・グループワーク）	事前学修：ダルクローズのリトミックについて事前配布資料に目を通してくる 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
12	身近な物を使った音楽表現（実技・グループワーク）	事前学修：身近にある音が出るものを集める 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
13	歌唱活動の実践① 指導計画の立案（ディスカッション グループワーク）	事前学修：指導計画立案の基本を復習してくる 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
14	歌唱活動の実践④ 模擬保育（グループワーク・実技）	事前学修：模擬保育に向けて準備をしてくる 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
15	模擬保育の省察と領域「表現」のまとめ（ディスカッション・グループワーク）	事前学修：模擬保育の振り返りをしまとめておく 事後学修：保育のネタ帳を作成する	30	30	田宮 希砂
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技 グループワーク ディスカッション プレゼンテーション）				
<b>教科書</b>	『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林 『続こどものうた200』小林美実編、チャイルド本社				
<b>参考文献</b>	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館				
<b>備考</b>	課題に対しては次の授業時にコメントし、返却する。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(田宮) 幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、子どもの感性や創造性を育む表現の指導法を実践的に指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-17				
	●	●	●							
科目名	特別支援教育演習Ⅱ				単位認定者	菅原 弘		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	障害児保育の理念や歴史に触れ、理解を深める。個々の特性を理解し、その特性に応じた援助について学ぶ。個別の保育計画を作成し、保育実践について理解を深める。さらに、家庭への支援や、関係機関との連携により、支える仕組みについて学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を必要とする子どもの特性に応じた具体的な支援方法を工夫できる。</li> <li>合理的配慮と障害特性等を踏まえた具体的な支援を考慮した保育計画及び教材作成ができる。</li> <li>個別の指導計画等の作成及び合意形成の流れを理解し説明できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	教科書や資料に事前に目を通し、質問等を整理して授業に臨み、グループワーク等でも積極的に伝え合うようにすること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	障害による教育的ニーズ（障害種別の特性と支援） 知的障害・発達障害・情緒障害等				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：知的・発達障害支援の整理			30	30	
2	障害による教育的ニーズ（障害種別の特性と支援） 聴覚障害・視覚障害・病弱・重度重複障害				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：感覚・運動障害支援の整理			30	30	
3	いわゆる「気になる子」の理解と支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：発達障害への具体的支援の整理			30	30	
4	知的障害・重度重複障害の理解と支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：知的障害への具体的支援の整理			30	30	
5	言語障害・聴覚障害・重複障害の支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：言語・聴覚障害支援の具体的整理			30	30	
6	肢体不自由・重度重複障害の支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：肢体不自由支援の具体的整理			30	30	
7	自閉スペクトラム症・強度行動障害の支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：ASDと強度行動障害支援の整理			30	30	
8	視覚障害・（重度）重複障害の支援について考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：視覚障害への具体的支援の整理			30	30	
9	病弱児の支援について考える(グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：病弱児への具体的支援の整理			30	30	
10	個別の教育支援計画・個別の指導計画を立てる (グループワーク)				事前学修：個別の指導計画の例の参照 事後学修：計画作成における留意点の整理			30	30	
11	個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとにした 授業について考える(グループワーク)				事前学修：検討吟味用指導計画の準備 事後学修：指導計画作成上の留意点の整理			30	30	
12	個別の指導計画や合理的配慮を反映した指導案について 考える(グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：指導計画の作成共有			30	30	
13	家庭との相談と連携に際しての具体的な方法を考える (グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：家庭との連携について整理する			30	30	
14	障害によらない特別な教育的ニーズへの具体的対応 と機関連携について考える(グループワーク)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：相談や会議の進め方を整理する			30	30	
15	各障害の理解と支援等のまとめと特別な教育的ニーズ の把握と対応のまとめ				事前学修：学修内容の振り返り 事後学修：インクルーシブ保育についての整理			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』小林徹・栗山宣夫、みらい									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	グループワーク等による意見交換のほかTeams等での学生間の情報共有を用いる。 授業内課題等は授業内で知らせる。UNIPAでの提出物についてはコメントを記載してフィードバックする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターを長期的に担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる障害理解及び家庭支援を授業に活かします。  
 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-18				
		●	●							
科目名	乳児保育Ⅱ				単位認定者	鈴木 享之		試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態		演習		授業回数	30 時間
							15 回			
授業の概要	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。さらに、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実践について、具体的に理解する。これらを基に乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。									
到達目標	①乳児の発達特性と生活（睡眠・食事・排泄等）を踏まえ、乳児保育の基本原則（安全、愛着、生活づくり）を説明できる。 ②観察記録や事例をもとに、環境構成・援助・保護者支援の方法を具体的に計画し、保育現場で活用できる形で提案できる。 ③乳児保育における保育者の役割と専門性を理解し、個々の発達や家庭状況に応じた援助のあり方を考えることができる。									
学修者への期待等	演習科目であるため、主体的参加を希望します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	乳児保育の基本①子どもと保育士等との関係の重要性と個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
2	乳児保育の基本②子どもの主体性の尊重と自己の育ちと子どもの体験と学びの芽生え				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
3	子どもの1日の生活の流れと保育の環境と子どもの生活や遊びを支える環境の構成				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技①(だっこ、おんぶ、衣服の着脱)				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技②(授乳、沐浴)				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技③(離乳食、排泄-トイレトレーニング、衛生管理、かみつき、ひっかきへの対応)				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践と実技(わらべうた、ふれあい遊び、絵本、玩具)				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
8	乳児保育の実践⑦7カ月未満児の保育の留意点				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
9	乳児保育の実践⑧8カ月から1歳6か月の保育の留意点				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
10	乳児保育の実践⑨1歳6か月から3歳の保育の留意点				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
11	子ども同士の関わりとその援助の実践と集団での生活における配慮の実践と実技				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
12	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮(安全管理)と環境の変化や移行に対する配慮				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
14	個別的な指導計画と集団の指導計画				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる				60	30
15	乳児保育の展望と課題について (グループワーク)				事前学修：教科書の該当箇所を読み、重要だと思った点を3つメモする。 事後学修：授業で学んだ「乳児保育の展望」と「課題」をそれぞれ簡単にまとめる。				60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (グループワーク)									
教科書	『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子他著、同文書院									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館									
備考	最終授業で全体に対するフィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-11				
			●		●					
科目名	教育相談				単位認定者	早坂 正年		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>児童・生徒の問題行動への対応が急がれるなか、子どもたちの健康的な学習活動を支えるための手法として教育相談が重要視されている。教育相談では、カウンセリング技術を中心とした個別支援や治療的アプローチについて理解を深めると同時に、問題に対する予防的介入や集団に対する支援のあり方についても学習する。また、教育者として円滑な教育相談を提供していくために必要な知識である子どもの発達段階や生じやすい問題（障害）について理解を深める。さらに、教員として相談活動を展開する際に必要とされるカウンセリングマインドを涵養するとともに、教育相談体制の構築法や相談室の運営方法、保護者やスクールカウンセラーをはじめとするその他の専門家（機関）との協働のあり方についても理解を深める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の理論と役割を説明できるようになる。</li> <li>2. 獲得した基礎的知識を用いて、教育場面において円滑に相談活動が展開できるようになる。</li> <li>3. 家庭との連携に留まらず、専門家（機関）との連携の重要性を理解し、具体的に展開できるようになる。</li> </ol>									
学修者への期待等	<p>講義による理論の学修を行うと同時に、実践的演習を計画しているため、欠席等が極力生じないように注意すること。また、限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、参考書等を利用して積極的に予習し、授業へ参加すること。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	教育相談の歴史の変遷と現代社会における教育相談の役割について				事前学修：教科書P1～6の教育相談の概要について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	
2	学校教育相談の基礎（生徒指導、教育相談体制、校務分掌、スクールカウンセリング等の概要）				事前学修：教科書P 7～20の生徒指導の概要について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	
3	人間の生涯発達と人間関係の諸理論－就学前から学生まで教育相談が提供される意義について				事前学修：教科書P21～42の発達と人間関係の理論について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	
4	学校内の支援体制のあり方と保護者・専門家（機関）との連携、チーム学校について				事前学修：教科書P43～58の校内支援体制について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	
5	予防・開発的アプローチ－心理教育の意義と方法				事前学修：教科書P59～82の心理教育について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	
6	心理アセスメントの意義と方法・アセスメント実技				事前学修：教科書P83～102の心理アセスメントについて読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	カウンセリングに関する基礎理論Ⅰ－精神分析的アプローチ、人間性心理学的アプローチの概要	事前学修：教科書P103～107のカウンセリングの基礎について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
8	カウンセリングに関する基礎理論Ⅱ－行動論的アプローチ、その他遊戯療法、表現療法等の概要	事前学修：教科書P108～118のカウンセリングの方法について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
9	カウンセリングの基礎的技法－カウンセリングロールプレイング・カウンセリング実技（基本的な応答訓練）	事前学修：第7・8回の授業内容を復習し、習得したカウンセリングの知識を整理する。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
10	不登校（園）・いじめの理解と支援	事前学修：教科書P119～146の不登校といじめについて読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
11	反社会的行動・虐待の理解と支援	事前学修：教科書P147～174の反社会的行動と虐待について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
12	発達障害・精神疾患の理解と支援	事前学修：教科書P175～204の発達障害と精神疾患について読む。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
13	事件事故・災害時等における危機介入	事前学修：メディア等を活用し、非常事態時の諸問題や対策について理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
14	教育環境としての教師の存在－健康的な教育活動のための教師のメンタルヘルスとキャリア発達	事前学修：メディア等を活用し、教師の教師の職業的課題について理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
15	教育相談活動、カウンセリング技術の向上のための方法（コンサルテーション、事例研究会等）	事前学修：教科書・参考文献等を活用し、専門性向上の方法について理解を深める。 事後学修：授業で使用した配布資料を整理し、学修内容を振り返る。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ロールプレイング・実技）			
<b>教科書</b>	『事例から学ぶ 児童・生徒への指導と援助』庄司一子監修、ナカニシヤ出版			
<b>参考文献</b>	『学校心理学』石隈利紀著、誠信書房 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	授業内課題は内容を確認した後にコメントを加えてフィードバックする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

科目ナンバリング
CS-1-CRE-12

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目名	教育方法論				単位 認定者	堀之内 敏恵		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

**授業の概要**  
本講義では、前半は学習理論や教授方法、教室でのコミュニケーションなど、教師の行動のありようを実践事例を通して学んでいく。後半は教育メディアをめぐる現状について理解を深め、それらの有効な活用方法について考える。教育の方法、技術に関する基礎的な理論を学び、それらを実践で活用するための基礎力を培うことを目指す。

**到達目標**

- ・教育方法に関する基礎的な理論と考え方を理解できる。
- ・教育の目的に応じた指導方法や技術を整理・説明できる。
- ・幼児教育における情報通信機器の活用について理解し、グループで指導案を作成することができる。

**学修者への期待等**  
講義形式を基本とするが、グループワーク（指導案の作成）、意見交換等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	授業ガイダンスと教育方法論への導入 「教育方法」とは（ディスカッション）	事前学修：これまで受けてきた授業の中で印象に残っている授業について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
2	教えるという行為①変容	事前学修：「教える」という行為と「変容」との関係について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
3	教えるという行為②効果（ディスカッション）	事前学修：「教える」という行為の「効果」について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
4	教えるという行為③伝達	事前学修：「教える」という行為の「伝達」の側面について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
5	教えることと学ぶこと 発達の最近接領域	事前学修：「発達の最近接領域」という概念について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
6	学習方法 一斉学習、グループ学習、個別学習（グループワーク）	事前学修：1年次に学んだ教育の思想、歴史について復習しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
7	学習理論 経験学習、系統学習	事前学修：1年次に学んだ教育の思想、歴史について復習しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	コミュニケーション技法	事前学修：自分の癖など、身体が発するメッセージについて思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
9	教育メディアをめぐる子どもの現状	事前学修：教育実践における教育メディアの活用について自分の考えをまとめておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
10	幼児教育における教育メディアの活用① 保育者	事前学修：実習先での事務作業等での情報機器の活用状況について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
11	幼児教育における教育メディアの活用② 子ども	事前学修：実習先での保育活動での情報機器の活用状況について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
12	教育メディアを活用した指導案① 検討（グループワーク）	事前学修：指導案作成のための準備をしておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
13	教育メディアを活用した指導案② 作成（グループワーク）	事前学修：指導案作成のための準備をしておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
14	教育メディアを活用した指導案③ 評価（グループワーク）	事前学修：他のグループの指導案を確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
15	まとめ 「教育方法論」を通しての学びを振り返る	事前学修：15回の授業内容について復習してくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
<b>教科書</b>	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。			
<b>参考文献</b>	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
<b>備考</b>	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。第12回～14回は2クラスに分けて実施する。			

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

該当しない。

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-CRE-13

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●		●					
科目名	社会的養護Ⅱ				単位認定者	田中 公一		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	社会的養護の基礎的な内容の理解を踏まえ、施設養護及び家庭養護の実践について理解する。また、計画・記録・自己評価の実際を把握し、相談援助の方法・技術について理解する。加えて、虐待の防止と家庭支援について理解し、今後の動向と課題について考察する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個々の子どもの状況に応じた高度な支援計画を立て、実践できるようになる。</li> <li>2. 多職種チームと協働しながら、長期的な支援や家庭復帰・自立支援に関わることができるようになる。</li> <li>3. 社会的養護の現場で起こる複雑なケースに対し、倫理的判断をしながら適切に対応できるようになる。</li> </ol>									
学修者への期待等	この科目は社会的養護Ⅰの内容を理解した上で臨むこと。また、社会的養護に関する情報に興味・関心を持ち、関連する諸問題を身近なものとして捉えて日々の学修に取り組んでほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	社会的養護の理解Ⅰ（現代における社会的養護）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
2	社会的養護の理解Ⅱ（このとりのゆりかご）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
3	アドミッションケア（子どもの保護・自立支援計画）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
4	インケア（日常生活支援・治療的支援）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
5	リービングケア（社会への巣立ち・生い立ちの理解）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
6	アフターケア（家庭復帰・就職と進学）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30
7	ソーシャルワークⅠ（ソーシャルワークの理解）				事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	ソーシャルワークⅡ（家庭支援・里親支援）	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
9	記録と評価（記録の必要性・第三者評価・自己評価）	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
10	演習ケース発表①（具体的内容の検討）：ペアワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	演習ケース発表②（事例内容考察）：ペアワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	演習ケース発表③（プレ発表）：グループワーク	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	演習ケース発表④（全体発表）：発表	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	演習ケース発表⑤（質疑応答）：討論	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	社会的養護の発展と課題	事前学修：テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク・グループワーク・発表・討論）			
<b>教科書</b>	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』杉山宗尚 原田旬哉（編集），萌文書林			
<b>参考文献</b>	適宜、講義内で提示する。			
<b>備考</b>	適宜、Teams・Formsを通してレポート課題の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。なお、提出されたレポート課題は、全体をまとめつつ修正意見を付してTeams上に投稿するので、内容確認の上、準備学修や試験対策に役立てること。			

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-20				
	●	●								
科目名	子どもの健康と安全				単位認定者	田中 希代子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について等、具体的に理解する。さらに、子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に乳児に焦点を当て、発育の時期に応じた育児に必要な知識や具体的な技術を習得する。</li> <li>子どもの健康増進のための基本的知識や援助ができる。</li> <li>緊急時の応急処置を理解し、演習にて習得する。</li> </ul>									
学修者への期待等	授業で扱う教材等は丁寧に扱うこと。模擬演習が主体なので動きやすい服装で望むこと。沐浴時はエプロン、バスタオル、調乳時はマグカップを各自持参してください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	乳児の抱っこおんぶの仕方を学ぶ(実技)				事前学修：乳児の身体の特徴を復習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			60	30	
2	排泄 排泄の仕組みと観察の要点 おむつ交換を学ぶ(実技)				事前学修：第3章 第5節「排泄」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
3	衣服 衣服の選び方 着脱の方法(実技)				事前学修：第3章 第7節「衣生活」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
4	清潔 沐浴① 沐浴演習(実技)				事前学修：第3章 第6節「身体の清潔」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
5	清潔 沐浴② レポート作成(幼児視野体験)				事前学修：第3章 第6節「身体の清潔」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
6	応急手当① 外傷 骨折 捻挫の手当て 包帯法(実技)				事前学修：第6章 第4節「応急手当」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
7	応急手当② 火傷 溺水 熱中症 誤飲 窒息の対処法				事前学修：第6章 第4節「応急手当」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
8	蘇生法① 事故防止 心肺蘇生法を学ぶ(実技)				事前学修：第6章 第5節「救命手当てと危機管理」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
9	蘇生法② 事故防止 レポート作成(保健日より)				事前学修：第6章 第5節「救命手当てと危機管理」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
10	調乳① ミルクの作り方 調乳器具の消毒方法(実技)				事前学修：第3章 第2節「子どもの栄養と食事」について予習しておくこと 事後学修：調乳の手順の復習			30	30	
11	調乳② レポート作成(母乳の特徴とミルクの特徴 ミルクの種類)				事前学修：第3章 第2節「子どもの栄養と食事」について予習しておくこと 事後学修：調乳の手順の復習			30	30	
12	身体測定				事前学修：第2章 第4節「子どもの成長発達の評価」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
13	症状の対応① 発熱 痙攣 腹痛 嘔吐 下痢 便秘				事前学修：第4章 第2節「一般的な症状に対する看護」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
14	症状の対応② 薬の与え方 電法 エピペンとは				事前学修：第4章 第2節「一般的な症状に対する看護」と第6章 第5節「救命手当と危機管理」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			30	30	
15	感染予防 手洗いの仕方				事前学修：第5章「感染の予防」について予習しておくこと 事後学修：本日の内容の復習			60	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(実技)									
教科書	『子どもの保健・実習—すこやかな育ちをサポートするために』兼松百合子他編著、同文書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントします。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

助産師、東北大学病院INCU勤務を経て、仙台市新生児訪問指導員、養育支援指導員で20年以上の実務経験を活かし、より具体的な演習を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-21				
			●		●					
科目名	家庭支援論				単位認定者	菅原 弘		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題等	30 %	
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	受講態度	30 %
							授業回数	15 回		
授業の概要	子育て家庭の現状を理解し、ニーズに応じた支援の必要性を学ぶ。保育士として求められる支援について理解を深める。さらに、自治体や専門機関など地域の資源の活用と連携した支援体制についても学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て家庭を取り巻く現状を理解し説明できる。</li> <li>虐待等の今日的な社会問題に関心を持ち保育者としての基本姿勢を考え説明できる。</li> <li>多様な子どもとその家族を想定した具体的な支援を考えることができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	日々の社会情勢に関心を持ち、それらと子育て家庭とのつながりを考え、問題意識を持って授業に臨むこと。ディスカッションやTeams等を介した情報交換等にも意欲的に取り組むこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	子どもが育つ場としての「家庭」について考え、家庭支援の必要性を理解する (Teamsによる情報共有)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容を整理する				30	30
2	子育て家庭を取り巻く社会環境の変化について学ぶ				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (社会変化) 整理				30	30
3	子どもや子育てに関する意識の変化を知る				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (子育て意識) の整理				30	30
4	子育てに関する負担感や不安感について理解を深める Teamsによる意見交換 (ディスカッション)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (子育ての負担) 整理				30	30
5	男女の働き方と子育てについて考える				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (働き方) の整理				30	30
6	親になるということについて考える				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (親になる過程) の整理				30	30
7	諸外国の子育て支援について学ぶ				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (子育て支援のを整理)				30	30
8	子育て家庭を支援する制度について学ぶ Teamsによる意見交換 (ディスカッション)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (支援制度) の整理				30	30
9	子育て支援の在り方について理解を深める				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (支援事例) の検索等				30	30
10	子育て支援の実際を知る Teamsによる意見交換 (ディスカッション)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (支援事例) の整理				30	30
11	DVが子どもに与える影響について学ぶ (Teamsによる情報共有)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (DVの影響) の整理				30	30
12	虐待が起きる要因と保育士の支援について学ぶ				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (虐待の影響) の整理				30	30
13	障害をもつ子どもの理解を深め、受容についての方策を探る (Teamsによる情報共有)				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (障害受容) の整理				30	30
14	障害をもつ子どもの母親の心理過程を知るとともに支援について考える				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容 (事例) の整理検索等				30	30
15	保育士ができる子育て支援についてまとめ、保育者の役割について考える				事前学修：事前提示資料の熟読 事後学修：授業内容を整理する				30	30
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( ディスカッション )									
教科書	『子ども家庭支援論－保育を基礎とした子ども家庭支援－』 太田光洋他著、同文書院									
参考文献	『実践子ども家庭支援論』松本園子他著、ななみ書房 『ともにそだつ』そだてびとへの手紙 - 振り返りから道を探す一つの方法 - 菅原弘著、金港堂									
備考	Teams等での提出物の相互参照や情報交換 (遠隔での意見交換) を行う。 UNIPAで提出を求めた授業課題等は、課題に応じて学生間で共有あるいはフィードバックする。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

教諭として30年以上、特別支援学校と小学校で学級経営、特別支援教育、ICT活用教育等に従事してきました。現場経験に基づき、家庭支援における基本的姿勢と児童理解を授業に活かします。  
 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-22				
	●	●								
科目名	子どもの食と栄養				単位認定者	遠藤 浩子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	
						授業回数	30 回			
授業の概要	<p>「子どもの食と栄養」では、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、そして子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。さらに食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で捉え、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。加えて、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「発育・発達段階」に応じた食事の必要性を理解できるようになる。</li> <li>味覚・食習慣の形成期に適する食事内容と提供の方法が分かるようになる。</li> <li>望ましい食生活の基礎作りの支援方法を具体的に考えられるようになる。</li> </ol>									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>栄養や調理の基礎知識を自分自身の食生活に活用、実践することで、知識の定着を目的とします。</li> <li>子どもの身体発育、発達に食生活が重要であることを理解し保育現場で役立てるよう期待します。</li> <li>積極的な取り組みと課題の提出に期待します。</li> </ol>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	子どもの健康と食生活の意義 子どもの特徴				事前学修：子どもの発達段階を振り返っておく。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
2	栄養に関する基本的知識				事前学修：5大栄養素を調べておく。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
3	栄養素の種類と働き 体内における水の働き				事前学修：5大栄養素の働きをしらべておく。 事後学修：本日の授業内容の復習。				30	30
4	食べ物と体の関係・日本人の食事摂取基準について				事前学修：昨日の食事を記録してくる 事後学修：記録からバランス良く食べる工夫をする。				30	30
5	栄養に関する制度				事前学修：食品表示を調べてくる。 事後学修：食品表示をみて購入するようになる。				30	30
6	食中毒と衛生管理				事前学修：食中毒を調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。				30	30
7	基礎食品群と食品構成 間食について				事前学修：3色食品群について調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
8	妊娠期と授乳期の食生活				事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
9	乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活				事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
10	離乳期の栄養・離乳の意義 与え方と進め方初期・中期				事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習				30	30
11	離乳期の栄養 与え方と進め方 後期・完了期				事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。				30	30
12	ベビーフードについて（市販のベビーフードの試食体験）				事前学修：市販のベビーフードの種類などを調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。				30	30
13	離乳食の復習とまとめ～離乳食の進め方を振り返る～				事前学修：離乳食の進め方を復習してくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
14	幼児期の発育・発達と食生活～正しい食生活のあり方を理解する～	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習	30	30
15	お弁当と衛生管理～バランスの摂れた幼児のお弁当の献立をたてる～	事前学修：年長児のお弁当の献立を考えてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習	30	30
16	学童期・思春期の発育・発達と食生活	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
17	幼児期の食事のマナー・生活習慣病について	事前学修：生活習慣病について調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
18	生涯発達と食生活 メタボリックシンドロームとは	事前学修：メタボリックシンドロームについて調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
19	脂質異常症予防の食事について	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
20	高血圧・糖尿病予防の食事について	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
21	高齢期の特徴と食生活の要点	事前学修：高齢期の特徴について調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習	30	30
22	食育の基本と内容	事前学修：食育について調べてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習	30	30
23	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
24	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
25	保育所における給食の進め方と保護者との連携	事前学修：実習での保育園給食を振り返って記録する。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
26	障害のある子どもへの対応	事前学修：教科書の該当箇所を読む。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
27	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	事前学修：鶏卵アレルギーのおやつを考えてくる。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
28	重要ポイント復習①～栄養の知識・離乳食について～	事前学修：これまでの資料を読み返す。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
29	重要ポイント復習②～幼児食・食育・食物アレルギー・保育所給食について～	事前学修：これまでの資料を読み返す。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
30	総括～これまでの重要なポイントを振り返る～	事前学修：これまでの資料を読み返す。 事後学修：本日の授業内容の復習。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 体験 ）			
<b>教科書</b>	『子どもと食の栄養 ～保育現場で活かせる食の基本』太田百合子、堤ちはる著 羊土社			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	授業内課題については、次回以降の授業でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

管理栄養士資格を有し保育園給食やクリニックでの栄養指導、特定保健指導を30年経験し分かりやすい授業を実践しています。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
			●		●

<b>科目ナンバリング</b>
CS-1-CRE-23

<b>科目名</b>	子育て支援				<b>単位認定者</b>	鈴木 享之 鈴木 純子		<b>評価の方法</b>	試験 (レポート)	60 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	こども学科	選択	2年	<b>開講時期</b>	後期	<b>単位数</b>	1 単位		授業内課題等	20 %
						<b>授業時間数</b>	30 時間		受講態度	20 %
	<b>授業形態</b>	演習	<b>授業回数</b>	15 回						
<b>授業の概要</b>	保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。さらに、保育士が行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。									
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を説明できるようになる。</li> <li>2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、具体的に示すことができるようになる。</li> <li>3. 保護者や家庭の状況を踏まえ、子どもと家庭を取り巻く課題を整理し、適切な支援の視点（アセスメントの観点）を説明できる。</li> <li>4. 保育士による子育て支援において、関係機関・地域資源との連携の意義を理解し、連携を踏まえた支援の基本的な進め方を考えることができる。</li> </ol>									
<b>学修者への期待等</b>	事前に教科書等を熟読し、主体的に授業に授業に臨んでください。									
<b>回</b>	<b>授業計画・学修の主題</b>				<b>準備学修</b>		<b>事前学修時間(分)</b>	<b>事後学修時間(分)</b>	<b>担当教員</b>	
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
2	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
4	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
5	子ども及び保護者の状況・状態の把握				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
6	支援の計画と環境の構成				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
7	支援の実践・記録・評価・カンファレンス				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	
8	職員間の連携・協働と社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働				事前学修：教科書該当箇所を読む 事後学修：授業内容をまとめる		30	30	鈴木 享之	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	保育所等における支援の実際	事前学修：保育所保育指針第4章を読んでおく 事後学修：授業プリントを復習する	30	30	鈴木 純子
10	障害のある子ども及びその家庭に対する支援	事前学修：実習時の体験をまとめて授業に臨むこと 事後学修：保護者を支える保育者の姿勢について確認する	30	30	鈴木 純子
11	地域の子育て家庭に対する支援 事例を基にグループワークを行う	事前学修：保育所保育指針解説p339～344を読んで予習する 事後学修：グループワークを振り返る	30	30	鈴木 純子
12	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 事例を基にグループワークを行う	事前学修：保育所保育指針解説p329～338を読んで予習する 事後学修：事例について振り返る	30	30	鈴木 純子
13	子ども虐待の予防と対応について事例を基にグループワークを行う	事前学修：保育機関の役割について確認する 事後学修：事例のまとめを振り返る	30	30	鈴木 純子
14	要保護児童等の家庭に対する支援 事例を基にグループワークを行う	事前学修：要保護児童について確認しておく 事後学修：事例のまとめを行う	60	60	鈴木 純子
15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭について考える	事前学修：多様な支援について確認する 事後学修：これまでの授業について振り返りまとめる	30	60	鈴木 純子
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
<b>教科書</b>	『実践に活かす子育て支援』ミネルヴァ書房 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館				
<b>参考文献</b>	『幼保連携型認定こども園教育保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館				
<b>備考</b>	・授業内課題については確認後授業の中でフィードバックします。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(鈴木純子) 幼稚園に21年勤務し、クラス担任及び主任教諭としておこなってきた保育・教育および保護者支援について、事例を踏まえ具体的な対応について授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-CLE-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			単位認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 中曾根裕 平田修三		評価の方法	授業内課題等	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数		2 単位	受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業時間数		30 時間		
						授業回数		15 回		
授業の概要	必修科目及び選択必修科目の履修履歴のカルテを基盤に、大学で学んだ学習知と、実習等で得られた領域等の指導力に関する実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力（保育実践力）を有する保育士・幼稚園教諭として必要な知識技能の修得、資質の構築とその確認を行う。具体的には、指導案を作成したり、模擬保育を試みたりして資質能力の確認を行う。また、保育にかかわる課題の中から一つ以上のものである分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、子どもや保護者を援助するための技術、方法等について学習する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員として必要な資質能力について理解する。</li> <li>・指導計画を作成する力量を高め、実践的指導力を身につける。</li> <li>・よりよい保育について、自身の意見を他者に伝えられる。</li> </ul>									
学修者への期待等	授業は、積み上げ式になっているので、毎回配布される資料などはきちんと保管し予習を行ってほしい。また、グループワークやディスカッションの場では、現場に立つための練習として積極的に参加し発言してほしい。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	ガイダンス（講義の進め方、諸注意、教科の目的と意義）			事前学修：授業内容を確認する 事後学修：自己課題についてまとめる		30	30	小野瀬 剛志		
2	自己評価表の作成			事前学修：履修カルテの内容などから自己課題を整理する 事後学修：指定された課題の提出状況を各自確認する		30	30	小野瀬 剛志 早坂 正年		
3	学習カウンセリング			事前学修：自己の苦手分野をまとめる 事後学修：苦手分野の克服方法についてまとめる		30	30	各グループ 担当		
4	学習課題の設定			事前学修：学修課題を検討する 事後学修：学修課題に沿った授業計画を立てる		30	30	各グループ 担当		
5	指導案作成①（ねらいの設定、環境構成）			事前学修：ねらいの設定、環境構成の仕方についてまとめる 事後学修：各自の計画に沿った「ねらい」「環境構成」を検討する		30	30	各グループ 担当		
6	指導案作成②（子どもの様子、援助の方法）			事前学修：「子どもの様子」、「援助の方法」についてまとめる 事後学修：各自の計画に沿った「子どもの様子」、「援助の方法」を検討する		30	30	各グループ 担当		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	グループ・ディスカッション①（ねらいの設定）	事前学修：他者の指導案を見ておく 事後学修：他者の意見をまとめる	30	30	各グループ 担当
8	グループ・ディスカッション②（環境構成）	事前学修：他者の指導案を見ておく 事後学修：他者の意見をまとめる	30	30	各グループ 担当
9	グループ・ディスカッション③（子どもの様子）	事前学修：他者の指導案を見ておく 事後学修：他者の意見をまとめる	30	30	各グループ 担当
10	グループ・ディスカッション④（援助の方法）	事前学修：他者の指導案を見ておく 事後学修：他者の意見をまとめる	30	30	各グループ 担当
11	教師論（教師と生涯学習：教師のキャリア形成）	事前学修：教職論第13回、14回の授業内容を復習しておく 事後学修：授業内課題に取り組みむ	30	30	堀之内 敏恵
12	キャリア形成論①（新任保育者に求められるもの）	事前学修：就職後のキャリアイメージをまとめておく 事後学修：授業内課題に取り組みむ	30	30	神戸 典子 堀之内 敏恵
13	キャリア形成論②（ミドルリーダーの役割）	事前学修：就職後3～7年程度のキャリアイメージをまとめておく 事後学修：授業内課題に取り組みむ	30	30	大宮 麻智子 堀之内 敏恵
14	キャリア形成論③（地域や家庭を見据えた保育）	事前学修：就職後の地域や家庭との連携を考えてくる 事後学修：授業内課題に取り組みむ	30	30	神戸 典子 堀之内 敏恵
15	総括（学習のふり返し、自己評価）	事前学修：2年間の学びを整理する 事後学修：指定された課題の提出状況を各自確認する	30	30	各グループ 担当
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループ・ディスカッション）				
<b>教科書</b>	とくになし				
<b>参考文献</b>	『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林				
<b>備考</b>	授業内課題は、授業内でコメントをつけて返却する。各グループ担当回は、単位認定者全員が担当する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

（菅原）教諭として特別支援学校と小学校で合わせて30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等を担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる授業デザインや児童理解を授業に活かします。  
 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				単位認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
							授業時間数		80 時間
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」では、大学で学んだ保育理論や保育方法等の原理原則を、保育現場において観察、参加、保育等によって実証的、実践的に研究し、将来実践の場で柔軟に対応できる保育実践力の基礎を学ぶ。その過程において、保育所の役割と機能、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を学び、指導計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等とのかかわりにおいて環境構成のあり様を学ぶ。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。								
到達目標	1. 子どもの生活や活動の様子を観察し、保育の流れや保育士の役割を理解できるようになる。 2. 保育士の援助を補助しながら、子どもとの関わり方や環境づくりの基本を体験的に学べるようになる。 3. 実習を振り返り、自分の気づきや学んだことを整理し、今後の課題を明確にできるようになる。								
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者と関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。								
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
①実習期間：9月中旬から9月下旬 ②実習の目標：保育所の実際に接して、子どもと保育の全体について知ることと保育所の役割と概略を理解する。また、子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達と保育の意義について理解する。 ③実習内容： ・実習施設について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画・指導計画について学修する。 ・生活や遊びの一部分を担当し、保育技術について理解を深める。 ・職員間の役割分担とチームワークについて学修する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭・地域社会を理解する。					事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認 事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究等			60	60
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。								

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(田宮) 保育現場における15年以上の実践および実習生指導経験を踏まえ、子どもの発達理解と基本的な援助技術の習得を支援する。担任および主任保育者としての経験を活かし、保育者として求められる態度や専門性の基礎形成を指導する。  
[資格等] 幼稚園教諭専修免許、保育士資格

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-02			
	●	●	●	●	●				
科目名	保育実習Ⅰ（施設）				単位認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	80 時間		
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	「保育実習Ⅰ（施設）」では、大学で学んだ保育理論や保育方法等の原理原則を、保育現場において観察、参加、保育等によって実証的、実践的に研究し、将来実践の場で柔軟に対応できる保育実践力の基礎を学ぶ。その過程において、施設の役割と機能、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を学び、支援計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等とのかかわりにおいて環境構成のあり様を学ぶ。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。								
到達目標	1. 施設の役割や機能を理解し、そこで暮らす子どもや利用者への支援を実践できるようになる。 2. 日常生活支援や活動への参加を通して、利用者一人ひとりの特性に応じた関わりができるようになる。 3. 実習での経験を振り返り、自分の気づきや課題を整理し、今後の保育や支援に生かせるようになる。								
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者に関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。								
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
①実習期間：5月下旬から6月上旬 ②実習の目標：実習施設の概要を理解する。 ・実習施設の概要や役割機能を把握し、理解を深める。 ・保育士をはじめとした支援職員の職務内容を理解すると共に、他職種間との連携内容について学ぶ。 ・子ども/利用者一人ひとりに即した支援内容や、その方法について学ぶ。 ③実習内容：保育士や職員の補助的立場で養護活動に直接参加し、体験的に学修する。 ・施設の種別、目的、沿革を理解する。 ・施設職員の専門性を理解する。 ・施設利用者の概況を理解する。 ・施設の方針・特色を理解する。 ・施設を取り巻く社会資源を理解する。 ・実習中に取り組む課題の設定（実習に向けての目標・抱負の作成）					事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認 事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究等			60	60
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。								

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(菅原) 教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる児童理解と障害理解を授業に活かします。  
[資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	●

<b>科目ナンバリング</b>
CS-2-TPR-03

科目名	保育実習指導 I				単位 認定者	鈴木享之 平田修三	田中公一 平山淑希	評価の 方法	実習報告書	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	50	%
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間	
							授業回数	15 回			
授業の概要	<p>事前指導では、実習の意義や目的、観察参加実習の意義、指導案の意義や役割、指導案の形式と要素を理解する。また、観察参加における記録の取り方（実習ノートの整理）、観察参加実習の心得を学ぶ。これらのことを踏まえて指導案を作成し、教材を作成する。観察記録の取り方を確認した上で、模擬保育をチーム・ティーチングまたは単独で実施する。観察参加の記録を取り、それを基に模擬保育を振り返る。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習に必要な基礎的な知識や心構えを理解し、実習に向けた準備ができるようになる。</li> <li>2. 子どもと関わる上での基本的な援助の方法を学び、実習で活かせる視点を身につける。</li> <li>3. 自分の学びや気づきを振り返り、今後の課題や実習に向けた改善点を明確にすることができる。</li> </ol>										
学修者への期待等	事前準備については、実習先での自分の姿を想像して、積極的に課題に取り組むこと。実習後の振り返りでは、自分の課題と正面から向き合い、よりよい保育実践について理解を深めること。										
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	保育実習 I (施設実習・保育所実習)の全体的な流れの理解					事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
2	施設の社会的役割や業務内容についての理解					事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
3	施設実習における実習の意義・心構えについての確認					事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
4	【グループワーク】 施設実習における目標の設定					事前学修：施設実習の目標を書き出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
5	施設実習における文書について					事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
6	施設実習に関する全体的指導					事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
7	【グループワーク】 施設実習に関する個別的指導					事前学修：施設実習の確認事項を書き出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	施設実習の振り返り：全体的課題について	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
9	【グループワーク】 施設実習の振り返り：個別的課題について	事前学修：施設実習の振り返りを書き出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
10	保育所の社会的役割や業務内容についての理解	事前学修：保育所についての学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
11	【グループワーク】 保育所実習における目標の設定	事前学修：各自の目標の設定しておく。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
12	保育所実習における文書について	事前学修：実習日誌に関する学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
13	保育所実習における指導案について	事前学修：指導案を立案する。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	30
14	保育所実習に関する実践的指導	事前学修：実践できる教材を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	30
15	【グループワーク】 保育所実習の振り返り	事前学修：保育所での実習内容を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
<b>教科書</b>	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』 開仁志編著、北大路書房			
<b>参考文献</b>	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、随時配布する。			
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出されたレポートは確認後授業内で返却する。実習時の参考資料として活用すること。</li> <li>授業内課題等については、実習関係書類、腸内細菌検査、レポート等の提出状況や取り組み状況等で総合的に評価する。</li> <li>毎時間、単位認定者全員が指導を行うが、個別指導では他の専任教員も指導を実施する。</li> </ul>			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(平山) 保育・教育現場で5年以上の勤務経験あり。保育施設における保育者の子どもへの援助のあり方、子ども理解に関する指導に活かしている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	保育実習Ⅱ				単位認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三	堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」での学びを踏まえて、保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を様々な実践を通して総合的に学び、指導計画の理解や様々な指導案作成、記録に基づく省察等のかかわりにおいてより良い環境構成のあり様を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。								
到達目標	1. 保育の意図やねらいをもって活動を計画し、子どもの姿に合わせて実践できるようになる。 2. 保育者として求められる専門的な態度や関わり方を理解し、保育現場で適切に行動できるようになる。 3. 実践を振り返り、保育の成果や課題を分析して次の改善につなげられるようになる。								
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者に関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。								
授業計画						準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
①実習期間：10月上旬～10月中旬 ②実習目標：保育所の保育を実践し、保育士として適切な保育を行うための必要な資質・能力・技術を習得する。子どもをもつ家庭の福祉に対する理解を深め、子育てを支援するための能力を養う。 ③実習内容： ・保育実習Ⅰ（保育所）での経験を踏まえ、指導計画を立てて実践する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士としての倫理を具体的に学修する。 ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。						事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認 事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究、指導案作成等		60	60
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
（田宮）保育現場での15年以上の実務経験と主任保育者としてのマネジメント経験を基盤に、より主体的・専門的な実践力の育成を目指して指導する。実習Ⅰでの学びを発展させ、計画性・協働性・省察力を備えた保育実践へと高める支援を行う。 [資格等] 幼稚園教諭専修免許、保育士資格

<b>科目ナンバリング</b>
CS-2-TPR-05

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

<b>科目名</b>	保育実習指導Ⅱ				<b>単位 認定者</b>	鈴木亨之 平田修三	田中公一 平山淑希	<b>評価の 方法</b>	実習報告書	50 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	こども学科	選択	2年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	1 単位		授業内課題等	50 %
				<b>授業形態</b>	演習	<b>授業時間数</b>	30 時間			
						<b>授業回数</b>	15 回			

**授業の概要**

「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形式と要素を確認する。これらのことを踏まえて指導案を作成し、教材を作成する。模擬保育をティーム・ティーチングまたは単独で試みる。観察参加の記録を取り、それを基に模擬保育を振り返り、再度指導案を作成し、保育実践力の基盤をより確かなものにする。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。保育をめぐるの自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。

**到達目標**

1. 実習に必要な知識や技術を事前に整理し、見通しをもって実習に取り組めるようになる。
2. 実習後の振り返りから、自分の成果と課題を理解し、保育の改善点を説明できるようになる。
3. 多くの事例の検討を通して、自分の保育観をつくるための基礎を身につける。

**学修者への期待等**

保育実習Ⅱは、指導案の作成や部分・全日実習など実践に近い実習となるので、様々な事態を想定した学修の場にするよう心がけること。振り返りや反省を通し、真摯に自分の課題と向き合うこと。

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)
1	保育実習Ⅱの全体像について	事前学修：『保育実習の手引き』の理解を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
2	実習の意義・内容の理解	事前学修：保育指針の再確認と実習先についての学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
3	指導案についての理解	事前学修：指導案についての学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
4	実習の実践的指導①部分実習	事前学修：実践する事柄を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
5	実習の実践的指導②全日実習	事前学修：実践する事柄を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
6	実習の全体的課題	事前学修：実習の内容を検討する。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
7	【グループワーク】 実習の個別的課題について	事前学修：実習の内容を検討する。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	【グループワーク】 実習に関する事後指導：実習成果の確認	事前学修：全日実習等を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
9	【グループワーク】 実習に関する事後指導：相互による検討	事前学修：全日実習等を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
10	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：理論的側面の検討	事前学修：各自の課題を見出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
11	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：実践的側面の検討	事前学修：各自の課題を見出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
12	実習についての全体的総括：理論的側面	事前学修：これまで行った実習全体を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
13	実習についての全体的討議：理論的側面	事前学修：実習に関する課題を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
14	実習についての全体的総括：実践的側面	事前学修：これまで行った実習全体を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
15	実習についての全体的討議：実践的側面	事前学修：実習に関する課題を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
<b>教科書</b>	『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房			
<b>参考文献</b>	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、随時配布する。			
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に関わる重要な授業であるため、毎回真剣に取り組むこと。</li> <li>・実習関係書類、腸内細菌検査、レポート等の提出状況や取り組み状況等で総合的に評価する。</li> <li>・毎時間、単位認定者全員が指導を行うが、個別指導では他の専任教員も指導を実施する。</li> <li>・提出された課題は確認後授業内で返却する。実習時の参考資料として活用すること。</li> </ul>			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(平山) 保育・教育現場で5年以上の勤務経験あり。実務経験を指導計画の立案や活動の準備等の指導に活かしている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-06			
	●	●	●	●	●				
科目名	保育実習Ⅲ				単位認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	「保育実習Ⅰ（施設）」を踏まえ、保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について、実践を通して理解を深めつつ、児童福祉施設等（保育所以外）における様々な支援、つまり個別支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応等を実践と結びつけて習得する。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。								
到達目標	1. 子どもの発達や集団の状況を踏まえて、保育内容を自分で計画し、主体的に実践できるようになる。 2. 日々の実践を振り返り、保育の意図・成果・改善点を論理的に整理し、次の実践に生かせるようになる。 3. 保育者としての専門的な判断力や責任感を身につけ、現場で求められる高度な実践力を発揮できるようになる。								
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者に関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。								
授業計画						準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
①実習期間：12月上旬～12月中旬 ②実習目標：施設の保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、家庭と地域の生活状況を把握し、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。 ③実習内容 ・保育実習Ⅰ（施設）での経験を踏まえ、指導計画を立てて実践する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士としての倫理を具体的に学修する。 ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。						事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認 事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究等		60	60
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
<p>(菅原) 教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる児童理解と障害理解及び家庭支援を授業に活かします。 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許</p>

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-07					
	●	●	●	●	●						
科目名	保育実習指導Ⅲ				単位認定者	鈴木 享之 田中 公一		実習報告書	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50	%
							授業時間数		30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	<p>「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅲ」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形式と要素を確認する。これらのことを踏まえて指導案を作成し、教材を作成する。模擬保育をティーム・ティーチングまたは単独で試みる。観察参加の記録を取り、それを基に模擬保育を振り返り、再度指導案を作成し、保育実践力の基盤をより確かなものにする。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。保育をめぐるの自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習での学びや経験をもとに、自分の保育実践を客観的に分析し、課題や改善点を明確にできるようになる。</li> <li>2. 指導計画や活動内容を論理的に振り返り、より質の高い保育につなげられるようになる。</li> <li>3. 保育者としての専門性や責任を自覚し、将来の保育実践に生かせる応用的な力を身に付ける。</li> </ol>										
学修者への期待等	<p>保育実習Ⅲは、指導案の作成や部分・全日実習など実践に近い実習となるので、様々な事態を想定した学習の場にするよう心がけること。振り返りや反省を通し、真摯に自分の課題と向き合うこと。</p>										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	保育実習Ⅲの全体像について				事前学修：『保育実習の手引き』の理解を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
2	実習の意義・内容の理解				事前学修：保育指針の再確認と実習先についての学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
3	指導案についての理解				事前学修：指導案についての学修を進める。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
4	実習の実践的指導①部分実習				事前学修：実践する事柄を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
5	実習の実践的指導②全日実習				事前学修：実践する事柄を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
6	実習の全体的課題について				事前学修：実習の内容を検討する。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	
7	【グループワーク】 実習の個別的課題について				事前学修：実習の内容を検討する。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。				60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	【グループワーク】 実習に関する事後指導：実習成果の確認	事前学修：全日実習等を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
9	【グループワーク】 実習に関する事後指導：相互による検討	事前学修：全日実習等を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
10	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：理論的側面の検討	事前学修：各自の課題を見出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
11	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：実践的側面の検討	事前学修：各自の課題を見出す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
12	実習についての全体的総括：理論的側面	事前学修：これまで行った実習全体を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
13	実習についての全体的討議：理論的側面	事前学修：実習に関する課題を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
14	実習についての全体的総括：実践的側面	事前学修：これまで行った実習全体を振り返る。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
15	実習についての全体的討議：実践的側面	事前学修：実習に関する課題を考える。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	60	60
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
<b>教科書</b>	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房			
<b>参考文献</b>	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、随時配布する。			
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に関わる重要な授業であるため、毎回真剣に取り組むこと。</li> <li>・提出されたレポートは確認後授業内で返却する。実習時の参考資料として活用すること。</li> <li>・授業内課題等については、実習関係書類、腸内細菌検査、レポート等の提出状況や取り組み状況等で総合的に評価する。</li> <li>・個別指導では他の専任教員も指導を行う。</li> </ul>			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-10			
	●	●	●	●	●				
科目名	教育実習Ⅱ				単位認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三	堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	将来実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を志向し、教育実習を行う。幼稚園教諭としての職務を理解し、教育現場での実践を通じて教員としての資質能力、実践的指導力を体得する参加実習を行う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教諭として求められる基本的な指導力を身につけ、活動を主体的に進行できるようになる。</li> <li>子どもの実際の姿を踏まえて保育内容を考え、適切な関わりや支援ができるようになる。</li> <li>実践を振り返り、自分の課題や改善点を明確にして、今後の保育に生かせるようになる。</li> </ol>								
学修者への期待等	理論と実践の具体的な相互関係を学び、教育者・保育者としてのあり方を学ぶ。日々、実習を振り返りながら、実習の内容を実習日誌に記し、それを基に次の日の準備を行う。								
授業計画						準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
<p>①実習期間： ・6月中旬～7月上旬</p> <p>②実習の目的・目標： ・大学で学んだ知識や技能を基盤に、幼稚園教諭としての服務を理解する。 ・教育や保育を試み、幼稚園教諭としての資質能力の基礎を体得する。</p> <p>③実習内容： ・配属クラスにおいて教育や保育を行う。 ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる。 ・教育や保育を振り返り、教材観や幼児観や指導観を形成する。</p>						<p>事前学修： ・実習日誌の最終確認 ・持参するものの確認 ・実習の手引きの確認</p> <p>事後学修： ・実習日誌の記入 ・教材研究、指導案作成等</p>		60	60
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、配布資料等								
備考	<p>実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習登録手続きに関する状況</li> <li>②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況</li> <li>③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む）</li> <li>④実習への出席状況</li> <li>⑤実習先からの実習評価</li> <li>⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況</li> <li>⑦実習日誌の記録内容</li> </ol> <p>実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。</p>								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
(田宮) 幼稚園において15年以上勤務し、担任および主任教諭として教育実践と後進育成に携わってきた実務経験を基に指導を行う。実習における計画立案、保育実践、記録・省察の過程を重視し、幼児理解と指導力の深化を支援する。 [資格等] 幼稚園教諭専修免許、保育士資格

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	教育実習指導Ⅱ				単位認定者	菅原弘 田宮希砂	田中公一 平山淑希	実習報告書	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	教育実習Ⅱの事前・事後指導を行う。事前指導では教育実習Ⅰを踏まえ、2回目の幼稚園での実習に臨むにあたり、必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、教育者・保育者として必要となる事柄の習得のための学びを深める。									
到達目標	1. 実習に向けて必要な知識・態度・技能を整理し、目的意識をもって準備できるようになる。 2. 模擬授業や演習を通して、指導計画の立て方や子どもへの関わり方を具体的に考えられるようになる。 3. 自分の実践を振り返って課題を明確にし、改善点を次の学びや実習に生かせるようになる。									
学修者への期待等	実習に向けて、自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	教育実習Ⅱについての理解・教育実習Ⅰの振り返り				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理			30	30	
2	指導案の意義や内容・作成方法				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（指導案作成）			30	30	
3	指導案の作成・教材の理解				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材検討）			30	30	
4	実習に関する実践的指導① 部分実習				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（部分実習案）			30	30	
5	実習に関する実践的指導② 全日実習				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（全日実習案）			30	30	
6	小グループ活動による保育計画の作成(1) - 活動のねらい -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（保育計画）			30	30	
7	小グループ活動による保育計画の作成(2) - 活動の展開 -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（活動の展開）			60	60	
8	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(1) - 教材と発達 -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材作成等）			60	60	
9	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(2) - 保育者の援助 -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材作成等）			60	60	
10	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(3) - 一人一人へ -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材作成等）			60	60	
11	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(4) - クラス全体へ -				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材作成等）			60	60	
12	【グループワーク】 保育における環境構成・保育者としての専門性				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理（教材作成等）			60	60	
13	実習に関する事後指導：全般的な反省				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理			30	30	
14	【グループワーク】 実習に関する事後指導：個別の課題に関する反省				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理			30	30	
15	教育実習全体のまとめ				事前学修：事前資料の熟読 事後学修：授業内容の整理			60	60	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼児保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房									
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、随時配布する。									
備考	実習に関わる重要な授業です。授業には、毎回真剣に取り組む必要があります。 提出されたレポートは確認後授業内で返却します。実習時の参考資料として活用してください。 個別指導では他の専任教員も指導を行います。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(菅原) 教諭として特別支援学校と小学校教諭で合わせて30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験を具体的なイメージが持てる実習指導に活かします。  
[資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	小野瀬 剛志		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と人間（社会）のかかわりを理解する。</li> <li>・子どもたちに対する環境教育の重要性を理解し、実践する力を身につける。</li> <li>・周囲と協力して、学びを深めることができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入				事前学修：授業概要を確認する 事後学修：環境教育に関する各自の興味関心をまとめる			30	30	
2	体験学習①（春の自然環境）				事前学修：春の自然について調べる 事後学修：春の自然を活かした保育を考える			30	30	
3	自然と社会の理解①（人間と自然のかかわり）				事前学修：自分の経験から人間と自然の関わりをまとめる 事後学修：現代における人間と自然の関わりの課題をまとめる			30	30	
4	自然と社会の理解②（社会と自然のかかわり）				事前学修：自分の経験から社会と自然の関わりをまとめる 事後学修：現代における社会と自然の関わりの課題をまとめる			30	30	
5	自然と社会の理解③（社会運動と教育）				事前学修：環境保護などの社会運動と教育の関係について考える 事後学修：社会運動と教育の関係についての課題をまとめる			30	30	
6	自然と社会の理解④（グループディスカッション）				事前学修：これまでの授業内容を復習する 事後学修：グループで出した意見を振り返る			30	30	
7	環境教育の実践①（遊びの体験）				事前学修：環境教育に関する遊びを考える 事後学修：様々な遊びの例をまとめる			30	30	
8	環境教育の実践②（指導計画の作成）				事前学修：指導計画を考える 事後学修：他の計画から自分の計画を再検討する			30	30	
9	環境教育の実践③（実践）				事前学修：実践の流れを確認する 事後学修：実践後の課題についてまとめる			30	30	
10	環境教育の実践④（反省と評価）				事前学修：自身の課題を明確にする 事後学修：他者の評価をふまえて、自身の課題を再検討する			30	30	
11	環境教育の実践⑤（グループディスカッション）				事前学修：ディスカッションの内容を考える 事後学修：他者の意見についてまとめる			30	30	
12	体験学習②（夏の自然環境）				事前学修：夏の自然について調べる 事後学修：夏の自然を活かした保育を考える			30	30	
13	中間まとめ①（人間・社会と自然の関係について）				事前学修：人間・社会と自然の関係について前期の学修内容を振り返る 事後学修：後期にやってみたい活動をまとめる			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
14	中間まとめ②（遊びを通した環境教育）	事前学修：遊びを通した環境教育について前期の学修内容をふり返る 事後学修：後期にやってみたい活動をまとめる	30	30
15	前期のふり返りと後期への展望	事前学修：前期の活動の課題をまとめる 事後学修：後期の活動計画を立てる	30	30
16	アクティブ・ラーニング①（企画）	事前学修：実施したい保育企画を考える 事後学修：活動を行ううえで必要な教材を考える	30	30
17	アクティブ・ラーニング②（教材作成）	事前学修：必要な材料などを揃える 事後学修：教材準備について再確認する	30	30
18	アクティブ・ラーニング③（模擬実践）	事前学修：活動の「ねらい」を再確認する 事後学修：「ねらい」にそった活動であったかを検証する	30	30
19	アクティブ・ラーニング④（企画の見直し）	事前学修：見直すべき事項について検討する 事後学修：事前の検討に過不足がなかったか検討する	30	30
20	アクティブ・ラーニング⑤（最終確認・事前準備）	事前学修：確認すべき事項についてまとめる 事後学修：準備状況について確認する	30	30
21	アクティブ・ラーニング⑥（実践）	事前学修：実践上の注意を再確認する 事後学修：計画と実践の差異についてまとめる	30	30
22	報告書の作成（実践）①（実践のふり返り）	事前学修：評価、改善点についてまとめる 事後学修：事前学習の妥当性について各自検証する	30	30
23	報告書の作成（実践）②（今後の課題）	事前学修：話し合う内容を考える 事後学修：グループ・ディスカッションの内容をまとめる	30	30
24	発表用レジュメと報告書の提出	事前学修：発表用レジュメと報告書を完成させる。 事後学修：発表用レジュメと報告書の修正を行う。	30	30
25	発表準備	事前学修：自分が発表する箇所のリハーサルを行っておく。 事後学修：自分が発表する箇所の修正を行う。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	事前学修：第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第1グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	事前学修：第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第2グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	事前学修：第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第3グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	事前学修：第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第4グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：1年間の取り組みを自己評価する。 事後学修：今後の自分の課題を明確にする。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	□該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループ・ディスカッション アクティブ・ラーニング）			
<b>教科書</b>	なし（適宜、資料を配布する）			
<b>参考文献</b>	なし（適宜、資料を配布する）			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

<b>科目ナンバリング</b>
CS-2-SEM-02

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
			●	●	

<b>科目名</b>	基礎演習Ⅱ				<b>単位認定者</b>	堀之内 敏恵		<b>評価の方法</b>	授業内課題	70 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	こども学科	必修	2年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	2 単位		受講態度	30 %
				<b>授業形態</b>	演習	<b>授業時間数</b>	60 時間			
						<b>授業回数</b>	30 回			

**授業の概要**  
各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。

**到達目標**  

- 子どもをとりまく諸課題について、論理的に考察することができる。
- 日本と海外（主として韓国）の教育・保育・子育て支援を比較教育学の視点から理解し、説明することができる。
- ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自らの考えを適切に発信し、他者と共有することができる。

**学修者への期待等**  
異文化への関心をもち、主体的に学ぶ姿勢を求める。共同性と責任感をもって文献講読や活動に取り組むことを期待する。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入	事前学修：これまで学んできた日本の教育・保育・子育て支援の現状を整理して くる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
2	比較教育学とは	事前学修：資料を熟読し疑問点や課題を 考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30
3	講読文献検討	事前学修：担当する文献を選定してく る。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30
4	講読・発表①学校制度（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジメを用意して くる。発表者以外は資料の当該部分を読 み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30
5	講読・発表②幼稚園（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジメを用意して くる。発表者以外は資料の当該部分を読 み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30
6	講読・発表③保育所（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジメを用意して くる。発表者以外は資料の当該部分を読 み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30
7	講読・発表④学童保育（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジメを用意して くる。発表者以外は資料の当該部分を読 み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容を まとめる。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	講読・発表⑤オルタナティブスクール（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
9	講読・発表⑥子育て支援（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
10	講読・発表⑦若者支援（ディスカッション）	事前学修：発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
11	講読を通しての全体討議（ディスカッション）	事前学修：講読を通して学んできた子どもをとりまく諸課題について整理してくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
12	映像視聴①児童文化	事前学修：資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
13	映像視聴②家族	事前学修：資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
14	映像視聴を通しての全体討議（ディスカッション）	事前学修：映像視聴を通して学んできた子どもをとりまく諸課題について整理してくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
15	前期のまとめと後期のテーマ設定（ディスカッション）	事前学修：後期のテーマを設定する準備をしてくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
16	後期ガイダンスと活動内容・方法の検討	事前学修：前期に設定した後期のテーマについて吟味してくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
17	課題解決へのアプローチ① 企画（グループワーク）	事前学修：学生同士が事前に話し合をもちながら企画の準備をする。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
18	課題解決へのアプローチ② 資料収集（グループワーク）	事前学修：学生同士が事前に話し合をもちながら資料収集の準備をする。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
19	課題解決へのアプローチ③ 事例研究①幼稚園・保育所	事前学修：ゲストスピーカーへの質問事項を準備してくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30
20	課題解決へのアプローチ④ 事例研究②学童保育・子育て支援	事前学修：ゲストスピーカーへの質問事項を準備してくる。 事後学修：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
21	発表資料作成① 発表内容・方法の検討(グループワーク)	事前学修：前期のレジユメをすべて見返してくる。 事後学修：自分のレジユメを再検討する。	30	30
22	発表資料作成② 発表資料の作成・個人分担	事前学修：各自の担当箇所について、発表資料をまとめる。 事後学修：発表資料の修正を行う。	30	30
23	発表資料作成③ 発表資料の作成・全体	事前学修：発表資料をまとめる。 事後学修：発表資料の修正を行う。	30	30
24	発表資料作成④ 発表リハーサル(プレゼンテーション)	事前学修：各自の発表箇所を練習してくる。 事後学修：各自の発表箇所を練習する。	30	30
25	発表資料作成⑤ 発表資料の完成、提出	事前学修：発表資料をまとめる。 事後学修：発表資料の修正を行う。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告(プレゼンテーション)	事前学修：第1グループのレジユメを読み、質問事項を考えてくる。 事後学修：第1グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告(プレゼンテーション)	事前学修：第2グループのレジユメを読み、質問事項を考えてくる。 事後学修：第2グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告(プレゼンテーション)	事前学修：第3グループのレジユメを読み、質問事項を考えてくる。 事後学修：第3グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告(プレゼンテーション)	事前学修：第4グループのレジユメを読み、質問事項を考えてくる。 事後学修：第4グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：1年間の学びと活動を振り返り、自己の到達度を評価をする。 事後学修：自己評価の結果を踏まえ、今後取り組むべき課題を整理する。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション)			
<b>教科書</b>	指定しない。資料を配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。			
<b>参考文献</b>	授業時に適宜紹介する。			
<b>備考</b>	授業内課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。第19、20回は南銀伊氏に講話をしていただく。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	菅原 弘		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		60 時間	
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育者の役割について理解する。 2. 協力して取り組んだことを整理し、他者へ伝えられるようにする。 3. それぞれの保育観を明確にする。									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入				事前学修：追求課題の整理 事後学修：計画素案立案				30	30
2	購読①：特別支援教育・保育について（キャップハンディ体験）				事前学修：課題設定の理由の検討 事後学修：方法の吟味				30	30
3	購読②：特別な支援を要する子どもたちについて（キャップハンディ体験）				事前学修：具体的方法の検討 事後学修：授業内容の整理				30	30
4	購読③：特別な支援を要する子どもたちと家族（ディスカッション）				事前学修：各自の課題に沿った授業準備 事後学修：計画と方法の決定				30	30
5	購読④：支援の実際（教材作成・ディスカッション）				事前学修：教材作成準備 事後学修：教材工夫				30	30
6	購読⑤：支援者として（教材作成・ディスカッション）				事前学修：教材作成準備 事後学修：教材工夫				30	30
7	調査の準備①：問題意識の整理（グループワーク）				事前学修：計画修正 事後学修：教材工夫				30	30
8	調査の準備②：調査対象者の選定（ディスカッション）				事前学修：授業準備（調査等の概要） 事後学修：調査票等の作成				30	30
9	調査の準備③：質問事項の精査、作成（ディスカッション）				事前学修：授業準備（調査等の概要） 事後学修：調査票等の作成				30	30
10	調査の準備④：シミュレーション				事前学修：授業準備（仮調査） 事後学修：仮集計等				30	30
11	調査①：施設見学（フィールドワーク）				事前学修：事前調査 事後学修：見学のまとめ				30	30
12	調査②：インタビュー（フィールドワーク）				事前学修：事前調査 事後学修：インタビュー等のまとめ				30	30
13	報告書の作成①：調査の結果をまとめる				事前学修：まとめ案作成 事後学修：まとめの吟味				30	30
14	報告書の作成②：調査の結果を分析する				事前学修：調査分析 事後学修：調査分析結果の吟味				30	30
15	前期のまとめ：進捗状況の報告と後期の方針				事前学修：取組の整理 事後学修：発表資料の素案作成				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
16	報告書の作成③：調査の結果を考察する (ディスカッション)	事前学修：ゼミ内発表準備 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
17	報告書の作成④：課題を明確にする (ディスカッション)	事前学修：ゼミ内発表準備 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
18	ゼミ内発表資料作成 (グループワーク)	事前学修：ゼミ内発表資料準備 事後学修：ゼミ内発表資料修正	30	30
19	ゼミ内発表練習	事前学修：ゼミ内発表資料準備 事後学修：ゼミ内発表練習	30	30
20	ゼミ内発表①：第1グループの発表	事前学修：ゼミ内発表シミュレーション 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
21	ゼミ内発表②：第2グループの発表	事前学修：ゼミ内発表シミュレーション 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
22	学科内発表原稿の作成	事前学修：学科内発表原稿素案作成 事後学修：学科内発表原稿修正	30	30
23	学科内発表原稿の作成と発表練習	事前学修：学科内発表練習 事後学修：学科内発表資料完成	30	30
24	学科内発表用レジュメの作成と提出 (グループワーク)	事前学修：学科内発表シミュレーション 事後学修：学科内発表修正	30	30
25	学科内発表準備	事前学修：学科内発表シミュレーション 事後学修：学科内発表修正	30	30
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
29	学科内研究発表会④第4グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：学修の振り返り 事後学修：学びの整理	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( ディスカッション グループワーク フィールドワーク 体験)			
<b>教科書</b>	適宜資料を配布する			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる研究的視点や児童理解を授業に活かします。  
 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	早坂 正年		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育者に必要とされる問題の分析力・解決力を修得する。 2. 蓄積した知識および情報を効果的に発信できるようになる。 3. 保育実践において、心理臨床学的知見を活用した支援が提供できるようになる。									
学修者への期待等	学生自身で課題を発見し、役割分担と事前計画のもとで授業を進めていくので、遅刻・欠席等が生じないように責任を持つこと。また、既修の心理学関連科目・相談支援関連科目について十分な復習を行っておくこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入				事前学修：既習の関連科目のノート等を活用し、復習を行っておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
2	課題探求の方法①（心理学の基礎研究と臨床研究について）				事前学修：心理学関連科目のノート等を活用し、復習を行っておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
3	課題探求の方法②（研究における倫理）				事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
4	課題探求の方法③（文献検索の方法等）				事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
5	講読演習①（文献の内容理解と論点の整理）				事前学修：入手した文献を熟読しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
6	講読演習②（論点の整理と資料の作成）				事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
7	講読演習③ 個人別発表と討論（教育心理学領域） プレゼンテーションおよびディスカッション				事前学修：事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	
8	講読演習④ 個人別発表と討論（臨床心理学領域） プレゼンテーションおよびディスカッション				事前学修：事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	講読演習⑤ 個人別発表と討論（小児保健領域） プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
10	講読演習⑥ 個人別発表と討論（病児支援領域） プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
11	研究課題の選定および研究計画の立案	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
12	研究方法論① フィールドワーク（施設見学等）／ 文献検索的研究	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
13	研究方法論② 実験法／質問紙法（ICTを活用した アンケート調査の実施方法）／事例研究法	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
14	経過報告書の作成と報告会	事前学修：学生同士で話し合いを行い、報告する内容をまとめておく 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
15	前期のまとめと今後の計画	事前学修：配布資料等を整理し、前期の学修内容を確認する。 事後学修：前期まとめの結果を基に、今後の計画を検討する。	30	30
16	後期ガイダンスと報告書作成への導入	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
17	研究の実践① データ・文献等の収集	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
18	研究の実践② データ処理・文献の整理	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
19	研究の実践③ 結果の分析	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30
20	研究の実践④ 結果の考察	事前学修：事前に配布された資料の内容を確認しておく。 事後学修：資料等を基に授業内容を振り返り、知識を整理しておく。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
21	研究の実践⑤ 課題の明確化と今後の展望をまとめる	事前学修：配布資料等を整理し、前期の学修内容を確認する。 事後学修：まとめの結果を基に、今後の計画を検討する。	30	30
22	報告書の作成① 報告書執筆	事前学修：配布資料等を確認し、報告書執筆の要領を確認しておく。 事後学修：作成中の報告書に目を通し修正点を把握しておく。	30	30
23	報告書の作成② 指導後の加筆・修正	事前学修：学生同士で報告書の内容確認を行う。 事後学修：学生同士で修正点等を共有し、修正案を検討しておく。	30	30
24	発表用レジュメの作成と提出	事前学修：報告書を基に発表用レジュメの基本レイアウトを検討しておく。 事後学修：学生同士で修正点等を共有し、修正案を検討しておく。	30	30
25	発表準備	事前学修：発表用レジュメを基にして発表内容を具体的に考えておく。 事後学修：学生同士でアイデアを共有し、発表内容を改善しておく。	30	30
26	学科内研究発表会① 第1グループの研究成果報告プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に発表用資料を確認し、質問内容等を考えておく。 事後学修：発表用資料を確認し、学修内容を整理する。	30	30
27	学科内研究発表会② 第2グループの研究成果報告プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に発表用資料を確認し、質問内容等を考えておく。 事後学修：発表用資料を確認し、学修内容を整理する。	30	30
28	学科内研究発表会③ 第3グループの研究成果報告プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に発表用資料を確認し、質問内容等を考えておく。 事後学修：発表用資料を確認し、学修内容を整理する。	30	30
29	学科内研究発表会④ 第4グループの研究成果報告プレゼンテーションおよびディスカッション	事前学修：事前に発表用資料を確認し、質問内容等を考えておく。 事後学修：発表用資料を確認し、学修内容を整理する。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：これまでの授業回を振り返り、既習内容を整理しておく。 事後学修：学修目標の到達度を自己評価し、今後の課題を明らかにする。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（立案、プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワーク）			
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する。			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	鈴木 享之		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の理論と児童文化の基礎知識を習得する。</li> <li>2. 保育現場で活用可能な実践力を身につける。</li> <li>3. 創造的な保育活動を企画・実践する能力を養う。</li> <li>4. 保育士としての自己表現力とコミュニケーション力を向上させる。</li> <li>5. 保育と文化を融合させた新たな教育の可能性を探求する。</li> </ol>									
学修者への期待等	主体的に学びに取り組む姿勢を期待します。保育学と児童文化を結びつける新たな視点を探求し、理論と実践を通じて学びを深めてください。グループワークや発表では、多様な意見を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ることが求められます。また、課題を発見し、解決に向けたアイデアを提案する力を育むことを目指します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ゼミの目的と進め方の説明				事前学修：シラバスを読み、受講目的と不安点を各1つメモする。 事後学修：授業で確認した進め方・評価方法を要点だけ整理する。				30	30
2	保育学の基礎：保育士に求められる役割と保育の基本				事前学修：教科書の保育の基本・保育士の役割の該当箇所を読む。 事後学修：保育士の役割を3点にまとめ、自分の課題を1点書く。				30	30
3	児童文化の基礎：絵本・遊び・伝承文化の意義				事前学修：児童文化（絵本・遊び等）の意義の該当箇所を読む。 事後学修：児童文化が子どもに与える影響を2点に整理する。				30	30
4	子どもの発達と文化の関係				事前学修：子どもの発達段階と文化活動の関係を教科書で確認する。 事後学修：発達に応じた関わりの工夫を2例挙げる。				30	30
5	保育現場での児童文化の活用法				事前学修：保育現場での活用例を教科書・配布資料で確認する。 事後学修：自分が実践したい活用案を1つ、ねらい付きで書く。				30	30
6	絵本の選び方と読み聞かせのポイント				事前学修：好きな絵本を1冊選び、対象年齢とねらいをメモする。 事後学修：読み聞かせのポイントを3つに整理し、改善点を1つ書く。				30	30
7	遊びの理論と実践：子どもを引きつける遊び方				事前学修：遊びの意義（主体性・社会性）について該当箇所を読む。 事後学修：子どもを引きつける援助の工夫を2点まとめる。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	行事と文化：季節の行事の意義と実践	事前学修：季節行事を1つ選び、意味・ねらいを簡単に調べる。 事後学修：行事を保育に生かす留意点を2点に整理する。	30	30
9	創造力を引き出す活動：工作・音楽・劇遊び	事前学修：活動案（材料・手順・ねらい）を簡単に下書きする。 事後学修：授業で得た改善点を反映し、活動案を修正する。	30	30
10	現場での安全管理とリスクアセスメント	事前学修：事故・ヒヤリハットの例を1つ調べ、原因をメモする。 事後学修：リスク低減の具体策を3点に整理する。	30	30
11	保育計画の立案と評価	事前学修：保育計画（ねらい・内容・評価）の基本を確認する。 事後学修：簡単な保育計画（ねらい・援助）を1案作成する。	30	30
12	地域文化と保育：地域行事との連携	事前学修：季節行事を1つ選び、意味・ねらいを簡単に調べる。 事後学修：行事を保育に生かす留意点を2点に整理する。	30	30
13	発表準備①：活動案のブラッシュアップ	事前学修：自分の発表テーマと構成（導入・本論・まとめ）を下書きする。 事後学修：フィードバックをもとにスライド/原稿を修正する。	30	30
14	発表準備②：プレゼンテーション練習	事前学修：自分の発表テーマと構成（導入・本論・まとめ）を下書きする。 事後学修：フィードバックをもとにスライド/原稿を修正する。	30	30
15	中間発表会：保育計画と児童文化の融合案	事前学修：保育計画（ねらい・内容・評価）の基本を確認する。 事後学修：簡単な保育計画（ねらい・援助）を1案作成する。	30	30
16	中間振り返りと改善点の整理	事前学修：これまでのメモを見返し、できた点・課題を各1つ書く。 事後学修：改善点を1つ選び、次回までの具体行動を決める。	30	30
17	伝承文化の保育現場での活用	事前学修：保育現場での活用例を教科書・配布資料で確認する。 事後学修：自分が実践したい活用案を1つ、ねらい付きで書く。	30	30
18	異文化と保育：多様性を尊重した保育活動	事前学修：多様性配慮が必要な場面を1つ想像し、困りごとをメモする。 事後学修：配慮の視点（言葉・環境・関係づくり）を整理する。	30	30
19	子どもの感性を育てる音楽・リズム遊び	事前学修：活動案（材料・手順・ねらい）を簡単に下書きする。 事後学修：授業で得た改善点を反映し、活動案を修正する。	30	30
20	餅つき・季節行事の実践的学び	事前学修：季節行事を1つ選び、意味・ねらいを簡単に調べる。 事後学修：行事を保育に生かす留意点を2点に整理する。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
21	子どもの創造力を育む工作活動	事前学修：活動案（材料・手順・ねらい）を簡単に下書きする。 事後学修：授業で得た改善点を反映し、活動案を修正する。	30	30
22	子どもと楽しむ劇遊びの企画と実践	事前学修：活動案（材料・手順・ねらい）を簡単に下書きする。 事後学修：授業で得た改善点を反映し、活動案を修正する。	30	30
23	保育現場でのICT活用：利点と課題	事前学修：保育現場での活用例を教科書・配布資料で確認する。 事後学修：自分が実践したい活用案を1つ、ねらい付きで書く。	30	30
24	保育士としての自己表現力を高める方法	事前学修：自分の強み（伝える/見せる）を1つ、弱みを1つ書く。 事後学修：自己表現を高める工夫を3点に整理し実行案を1つ立てる。	30	30
25	最終発表準備：成果物の仕上げ	事前学修：自分の発表テーマと構成（導入・本論・まとめ）を下書きする。 事後学修：フィードバックをもとにスライド/原稿を修正する。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	事前学修：発表資料を見直し、想定質問を3つ書いておく。 事後学修：受けた質問・助言を整理し、次回までの改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	事前学修：発表資料を見直し、想定質問を3つ書いておく。 事後学修：受けた質問・助言を整理し、次回までの改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	事前学修：発表資料を見直し、想定質問を3つ書いておく。 事後学修：受けた質問・助言を整理し、次回までの改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	事前学修：発表資料を見直し、想定質問を3つ書いておく。 事後学修：受けた質問・助言を整理し、次回までの改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：これまでの提出物を確認し、学びを3つメモする。 事後学修：学びと今後の課題を各3点に整理し、次に活かす。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（発表 立案 プレゼンテーション）			
<b>教科書</b>	適宜配布します。			
<b>参考文献</b>	適宜配布します。			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	平田 修三		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		60 時間	
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 現代社会における多様な家族や養育のあり方について理解し、子どもや家族に寄り添うことができる。 2. グループディスカッションを通して、他者の意見や気持ちを尊重しながら、自らの意見を適切に発信できる。 3. ゼミで取り組むテーマについて、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。									
学修者への期待等	自ら課題を発見して主体的に学ぶこと、そして、ゼミで定めた役割分担やスケジュールを守りながら、ゼミメンバー全員の学びに貢献できるようなふるまいを心がけること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	コミュニケーションと課題探求への導入				事前学修：「自分自身の強みと課題」を 考えておく。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
2	生涯発達心理学の基本的視座				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
3	「多様化する家族」論の検討				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
4	「動物としてのヒト」という見方				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
5	「現代社会、虐待、障害、差別」等に関する時事テーマ				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。			30	30	
6	講読・映像視聴①：生涯発達心理学（グループ討議）				事前学修：指定されたテーマについてレジュメをまとめる。 事後学修：グループ討議した内容をレジュメに加筆する。			30	30	
7	講読・映像視聴②：多様化する家族（グループ討議）				事前学修：指定されたテーマについてレジュメをまとめる。 事後学修：グループ討議した内容をレジュメに加筆する。			30	30	
8	講読・映像視聴③：動物としてのヒト（グループ討議）				事前学修：指定されたテーマについてレジュメをまとめる。 事後学修：グループ討議した内容をレジュメに加筆する。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	講読・映像視聴④：現代社会（グループ討議）	事前学修：指定されたテーマについてレジュメをまとめる。 事後学修：グループ討議した内容をレジュメに加筆する。	30	30
10	講読・映像視聴⑤：虐待，障害，差別（グループ討議）	事前学修：指定されたテーマについてレジュメをまとめる。 事後学修：グループ討議した内容をレジュメに加筆する。	30	30
11	調査研究実習①：文献研究	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：調査内容をノートにまとめる。	30	30
12	調査研究実習②：インタビュー調査	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：調査内容をノートにまとめる。	30	30
13	調査研究実習③：観察調査	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：調査内容をノートにまとめる。	30	30
14	調査研究実習④：質問紙調査	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：調査内容をノートにまとめる。	30	30
15	前期のふり返りと後期への展望	事前学修：前期に学修したことをミニレポートにまとめる。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
16	コミュニケーションと探求課題の確認	事前学修：「後期に向けた目標」を考えておく。 事後学修：学修内容をノートにまとめる。	30	30
17	発表資料作成①：研究テーマの確認・再設定（グループ討議）	事前学修：研究テーマを考えておく。 事後学修：役割分担に基づいて発表資料をまとめる。	30	30
18	発表資料作成②：資料・データの収集（文献研究）	事前学修：文献研究に向けた視点を整理する。 事後学修：役割分担に基づいて発表資料をまとめる。	30	30
19	発表資料作成③：資料・データの収集（施設見学等）	事前学修：施設見学に向けた視点を整理する。 事後学修：役割分担に基づいて発表資料をまとめる。	30	30
20	発表資料作成④：資料・データの整理（グループ討議）	事前学修：役割分担に基づいて発表資料をまとめる。 事後学修：発表資料の修正を行う。	30	30
21	発表資料作成⑤：報告書執筆	事前学修：役割分担に基づいて報告書をまとめる。 事後学修：報告書の修正を行う。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
22	発表リハーサル①：プレゼンテーション	事前学修：発表資料・報告書をまとめる。 事後学修：発表資料・報告書の修正を行う。	30	30
23	発表リハーサル②：ふり返りと指導後の修正	事前学修：発表資料・報告書をまとめる。 事後学修：発表資料・報告書の修正を行う。	30	30
24	発表用レジュメと報告書の提出	事前学修：発表用レジュメと報告書を完成させる。 事後学修：発表用レジュメと報告書の修正を行う。	30	30
25	発表準備	事前学修：自分が発表する箇所のリハーサルを行っておく。 事後学修：自分が発表する箇所の修正を行う。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	事前学修：第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第1グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	事前学修：第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第2グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	事前学修：第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第3グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	事前学修：第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第4グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：1年間の取り組みを自己評価する。 事後学修：今後の自分の課題を明確にする。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループ討議，インタビュー，プレゼンテーション，発表）			
<b>教科書</b>	なし（適宜，資料を配布する）			
<b>参考文献</b>	なし（適宜，資料を配布する）			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	中曽根 裕		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の健康や遊びに関する課題を発見し、調査・探究することができる。</li> <li>・ 調査・探究した内容を整理し、他者に分かりやすく伝えることができる。</li> <li>・ 発見した課題や探究内容を活用し保育実践することができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	実技の時間は運動のできる服装を用意すること。グループ学修によって進められるので、積極的な姿勢で授業に臨むことを希望する。また、ゼミで出される課題について協力して活動に取り組むこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	課題探究への導入（自己紹介、講義の進め方、学生への希望などについて）（グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
2	課題について調査・報告・議論の仕方を学ぶ（グループワーク）				事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
3	テーマ①（幼児期における運動遊び）の資料収集				事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
4	テーマ①（幼児期における運動遊び）各自考察を深める（グループワーク）				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
5	テーマ①（幼児期における運動遊び）：ディスカッション				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
6	テーマ①（幼児期における運動遊びの実際）体験学習				事前学修：体験学習の準備 事後学修：体験学習の考察と振り返り			30	30	
7	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）の資料収集				事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
8	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）各自考察を深める（グループワーク）				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
9	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）：ディスカッション				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
10	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）資料をまとめる				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：テーマの考察と振り返り			30	30	
11	テーマ③（幼児期における集団遊び）の資料収集				事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
12	テーマ③（幼児期における集団遊び）各自考察を深める（グループワーク）				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	
13	テーマ③（幼児期における集団遊び）：ディスカッション				事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
14	テーマ③（幼児期における集団遊びの実際）体験学習	事前学修：体験学習の準備 事後学修：体験学習の考察と振り返り	30	30
15	テーマ④（親子体操）の資料収集	事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
16	テーマ④（親子体操）各自考察を深める（グループワーク）	事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
17	テーマ④（親子体操）：ディスカッション	事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
18	テーマ④（親子体操の実際）体験学習	事前学修：体験学習の準備 事後学修：体験学習の考察と振り返り	30	30
19	テーマ①～④までのまとめ（グループワーク）	事前学修：テーマの考察と発表準備。 事後学修：テーマの考察と振り返り	30	30
20	プレゼンテーションの基礎知識（グループワーク）	事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
21	プレゼンテーションに必要な技術の修得（グループワーク）	事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
22	レジュメの作成方法について	事前学修：事前に資料を検索する。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
23	発表の役割分担について（グループワーク）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
24	発表用レジュメの作成と提出（グループワーク）	事前学修：レジュメ発表の成果をまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
25	発表準備（グループワーク）	事前学修：レジュメ発表の成果をまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	事前学修：研究成果報告のをまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	事前学修：研究成果報告のをまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	事前学修：研究成果報告のをまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④第4グループの研究成果報告	事前学修：研究成果報告のをまとめる 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題（グループワーク）	事前学修：事前配布する資料に目を通す。 事後学修：授業内容を整理しまとめる。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）			
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考文献</b>	適宜、指示する			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	田中 公一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>多くの体験や人々との触れ合いを通して、適切なコミュニケーションスキルを体得する。</li> <li>「社会福祉援助技術」を獲得して保育現場や養護施設での活動に活かすことができる。</li> <li>自己覚知や他者理解の方法を学び、様々な活動に主体的に取り組めるようになる。</li> </ol>									
学修者への期待等	日頃から社会問題に関心を持って欲しい。主体性・協調性・積極性を持って主体的に取り組む姿勢に期待する。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	授業ガイダンス, 自己覚知と他者理解				事前学修: 自分自身の性格を説明できるようにしておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
2	【グループワーク】 文献講読①: 社会福祉とは何か				事前学修: 配布資料(社会福祉について)を熟読しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
3	【グループワーク】 文献講読②: 社会福祉の範囲				事前学修: 配布資料(社会福祉の対象)を熟読しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
4	【グループワーク】 文献講読③: 社会福祉施設				事前学修: 配布資料(社会福祉施設)を熟読しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
5	【グループワーク】 文献講読④: ボランティア活動の意義				事前学修: 配布資料(ボランティア活動の意義)を熟読しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
6	【グループワーク】 社会福祉援助技術の基礎				事前学修: 社会福祉援助技術の方法について理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
7	【グループワーク】 社会福祉援助技術の応用				事前学修: 社会福祉援助技術の留意点について理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
8	【グループワーク】 研究調査準備①: 調査対象の把握				事前学修: 調査対象分野についての概要をまとめること。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	【グループワーク】 研究調査準備②：アンケート・質問項目の準備	事前学修：アンケート・質問項目を考えてくること。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
10	【フィールドワーク】 調査研究①：施設の理解	事前学修：アンケート・質問項目を確認しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	【フィールドワーク】 調査研究②：利用者の理解	事前学修：アンケート・質問項目を確認しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	【フィールドワーク】 調査研究③：職員の理解	事前学修：アンケート・質問項目を確認しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	【グループワーク】 報告書の作成①：調査結果の分析	事前学修：主体的な話し合いができるように調査内容を読み込んでくること。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	【グループワーク】 報告書の作成②：調査結果の分析に関する考察	事前学修：主体的な話し合いができるように調査内容を読み込んでくること。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	これまでの進捗状況の確認と今後の方針	事前学修：自分たちの取り組み内容を整理しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
16	【グループワーク】 報告書の作成③：調査の結果を考察する	事前学修：主体的な話し合いができるように調査結果を読み込んでくること。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
17	【グループワーク】 報告書の作成④：課題を明確にす	事前学修：報告書を完成させておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
18	【フィールドワーク】 調査研究④：コミュニケーションの学び	事前学修：コミュニケーションの手法を考えておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
19	【フィールドワーク】 調査研究⑤：グループダイナミクスの学び	事前学修：コミュニケーションの手法を考えておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
20	【発表・ディスカッション】 ゼミ内発表①：体験・調査結果報告（Aグループ）	事前学修：担当箇所をまとめておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
21	【発表・ディスカッション】 ゼミ内発表②：体験・調査結果報告（Bグループ）	事前学修：担当箇所をまとめておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
22	【グループワーク】 学科内発表原稿の整理	事前学修：担当箇所をまとめておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
23	【グループワーク】 学科内発表原稿の作成	事前学修：担当箇所をまとめておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
24	【グループワーク】 学科内発表用レジユメの発表練習	事前学修：担当箇所をまとめておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
25	発表準備	事前学修：自分が発表する箇所のリハーサルを行っておく。 事後学修：自分が発表する箇所の修正を行う。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	事前学修：第1グループのレジユメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第1グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	事前学修：第2グループのレジユメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第2グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	事前学修：第3グループのレジユメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第3グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	事前学修：第4グループのレジユメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第4グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：1年間の取り組みを自己評価する。 事後学修：今後の自分の課題を明確にする。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク・フィールドワーク・発表・ディスカッション）			
教科書	特に指定しない。			
参考文献	随時、講義の中で紹介する。			
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	田宮 希砂		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的視点を軸に、造形や身体表現、環境など多様な表現を横断的に捉え、保育における表現の在り方を主体的に探究する。</li> <li>・実践や子どもの姿をもとに課題設定し、文献調査やディスカッションを通して問題を整理することができる。</li> <li>・子どもの姿や保育の場面に応じた簡単な編曲や作曲、創作等を行うことができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	自ら課題を見つけ主体的に取り組む姿勢を期待する。実際に音を出し積極的に自ら表現し実践することを通して学びを深めてほしい。また、課題等に学生同士で協力して取り組む姿勢が求められる。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業ガイダンスと課題探求への導入 (グループワーク)				事前学修：保育現場の音楽について考える 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
2	音楽資料の探し方・学びの方法について				事前学修：保育現場の音楽について自身の興味関心がある分野を考えてくる。 事後学修：自身の選択した課題についての資料を探す				30	30
3	乳幼児期の音楽表現① 人と音楽の関わり (ディスカッション・グループワーク)				事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
4	乳幼児期の音楽表現② 保育における音楽の役割 (ディスカッション・グループワーク)				事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
5	様々な音楽表現① 行事と音の関係 (実技・グループワーク)				事前学修：行事の由来と音楽について調べる 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
6	様々な音楽表現② 音を軸にした表現活動 (実技・グループワーク)				事前学修：作品制作の構想を考える 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
7	様々な音楽表現③ 表現活動における音の試行と調整 (実技・グループワーク)				事前学修：作品制作に必要なものを準備する 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
8	様々な音楽表現④ 横断的表現活動 (実技・グループワーク・フィールドワーク)				事前学修：作品制作発表にむけてゼミ生同士相談して準備を進める 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
9	保育の音楽表現活動① わらべうた・手遊び・あそび歌 (発表・グループワーク)				事前学修：発表内容をまとめ、準備する 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
10	保育の音楽表現活動② 楽器あそび (発表・グループワーク)				事前学修：発表内容をまとめ、準備する 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
11	保育の音楽表現活動③ 身体表現 (発表・グループワーク)				事前学修：発表内容をまとめ、準備する 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
12	保育の音楽表現活動④ ICTと音楽 (発表・グループワーク)				事前学修：発表内容をまとめ、準備する 事後学修：学習内容をまとめる				30	30
13	音楽の三要素の基礎 あそび歌創作の構想 (グループワーク・実技)				事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：学習内容をまとめる				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
14	音楽の三要素の理解 あそび歌創作 (グループワーク・実技)	事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：各自構想したあそび歌を完成させる	30	30
15	音楽の三要素の応用 あそび歌創作のまとめ (実技)	事前学修：創作したあそび歌の発表準備をする 事後学修：学習内容をまとめる	30	30
16	音楽創作① 作品テーマの構想 (ディスカッション・実技)	事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：学習内容をまとめる	30	30
17	音楽創作② 既成曲のアレンジ法について (実技)	事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：楽曲アレンジについて復習する	30	30
18	音楽創作③ 作曲技法の基礎 (実技)	事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：作曲技法について復習する	30	30
19	音楽創作④ 創作活動 (実践・グループワーク)	事前学修：事前配布資料に目を通しておく 事後学修：創作した作品の修正を行う	30	30
20	音楽創作⑤ 発表準備 (実技・グループワーク)	事前学修：発表に必要なものを用意しておく 事後学修：発表に向けて作品の修正を行う	30	30
21	音楽創作⑥ 作品発表会 (実技・グループワーク)	事前学修：発表のリハーサルを行っておく 事後学修：発表の振り返りを行う	30	30
22	学科内研究発表の構成 (グループワーク)	事前学修：ゼミ活動の内容を振り返っておく。 事後学修：発表担当箇所の修正を行う。	30	30
23	学科内研究発表資料の作成 (グループワーク)	事前学修：発表担当資料を作成する。 事後学修：発表担当箇所の修正を行う。	30	30
24	学科内研究発表準備 (グループワーク)	事前学修：発表担当資料を作成する。 事後学修：発表担当箇所の修正を行う。	30	30
25	学科内研究発表リハーサル (グループワーク)	事前学修：発表担当箇所のリハーサルを行っておく。 事後学修：発表担当箇所の修正を行う。	30	30
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	事前学修：第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第1グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	事前学修：第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第2グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	事前学修：第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第3グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	事前学修：第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える。 事後学修：第4グループの発表の良かった点・改善点をまとめる。	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：取り組みに対する自己評価をする。 事後学修：今後の自分の課題設定をする。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技 グループワーク ディスカッション フィールドワーク 実践）			
<b>教科書</b>	特に指定しない			
<b>参考文献</b>	随時配布する			
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

幼稚園教諭として15年以上の実務経験と幼稚園教諭専修免許・保育士資格を有する教員が、保育における音楽表現をテーマとした探究的指導を行う。

## こども学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務教員を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

こども学科のナンバリングの見方

【例】CS-1-○○○-01

CS	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

こども学科：CS

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門教育分野：1

展開科目：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
幼児教育の基礎	BSN	Basic Subjects about Nurture
基礎技能	STC	Skill Training Course for Nurture
教育及び保育の本質	PEN	Principles of Education and Nurture
教育及び保育の制度	SEN	Systems of Education and Nurture
教育及び保育の対象理解	SSE	Study on Subjects of Education and Nurture
教育及び保育の計画と方法	CRE	Curriculum Research for Education and Nurture
統括科目	CLE	Composite Learning
実習	TPR	Teaching Practice
ゼミナール	SEM	Seminar

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化	英語 I	CO-0-HCU-02
		英語 II	CS-0-HCU-01
		日本語表現法	CO-0-HCU-01
	人間と社会	日本国憲法	CS-0-HSO-02
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
	人間と科学	体育基礎	CS-0-HSC-01
		体育実技	CS-0-HSC-02
		情報処理 I	CO-0-HSC-01
		情報処理 II	CS-0-HSC-03
		レクリエーション論	CS-0-HSC-04
		数理リテラシー	CO-0-HSC-02
専門教育分野	幼児教育の基礎	幼児と環境	CS-1-BSN-01
		幼児と健康	CS-1-BSN-02
		幼児と表現	CS-1-BSN-03
		幼児と人間関係	CS-1-BSN-04
	基礎技能	音楽表現 I	CS-1-STC-01
		音楽表現 II	CS-1-STC-02
		音楽表現 III	CS-1-STC-03

	造形表現	CS-1-STC-04
	総合表現演習Ⅰ	CS-1-STC-07
	総合表現演習Ⅱ	CS-1-STC-08
教育及び保育の本質	教職論	CS-1-PEN-01
	保育原理	CS-1-PEN-02
	教育原理	CS-1-PEN-07
	社会福祉	CS-1-PEN-03
教育及び保育の制度	教育制度論	CS-1-SEN-01
	子ども家庭福祉	CS-1-SEN-02
	社会的養護Ⅰ	CS-1-SEN-03
教育及び保育の対象理解	子ども理解の理論と方法	CS-1-SSE-01
	生涯発達心理学Ⅰ	CS-1-SSE-02
	生涯発達心理学Ⅱ	CS-1-SSE-03
	乳児保育Ⅰ	CS-1-SSE-04
教育及び保育の計画と方法	カリキュラム論	CS-1-CRE-01
	保育内容の指導法（総論）	CS-1-CRE-03
	保育内容の指導法（健康）	CS-1-CRE-04
	保育内容の指導法（人間関係）	CS-1-CRE-05
	保育内容の指導法（環境）	CS-1-CRE-06
	保育内容の指導法（言葉）	CS-1-CRE-07
	保育内容の指導法（表現）	CS-1-CRE-08
	特別支援教育演習Ⅰ	CS-1-CRE-16
	特別支援教育演習Ⅱ	CS-1-CRE-17
	乳児保育Ⅱ	CS-1-CRE-18
	教育相談	CS-1-CRE-11
	教育方法論	CS-1-CRE-12
	社会的養護Ⅱ	CS-1-CRE-13
	子どもの保健	CS-1-CRE-19

	子どもの健康と安全	CS-1-CRE-20
	家庭支援論	CS-1-CRE-21
	子どもの食と栄養	CS-1-CRE-22
	子育て支援	CS-1-CRE-23
統括科目	保育・教職実践演習 (幼稚園)	CS-2-CLE-01
実習	保育実習Ⅰ(保育所)	CS-2-TPR-01
	保育実習Ⅰ(施設)	CS-2-TPR-02
	保育実習指導Ⅰ	CS-2-TPR-03
	保育実習Ⅱ	CS-2-TPR-04
	保育実習指導Ⅱ	CS-2-TPR-05
	保育実習Ⅲ	CS-2-TPR-06
	保育実習指導Ⅲ	CS-2-TPR-07
	教育実習Ⅰ	CS-2-TPR-08
	教育実習指導Ⅰ	CS-2-TPR-09
	教育実習Ⅱ	CS-2-TPR-10
	教育実習指導Ⅱ	CS-2-TPR-11
ゼミナール	基礎演習Ⅰ	CS-2-SEM-01
	基礎演習Ⅱ	CS-2-SEM-02

こども学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	おのせ たけし 小野瀬 剛志	t_onose@seyogakuin.ac.jp
2	教授 (副学科長)	ほりのうち としえ 堀之内 敏恵	t_horinouchi@seyogakuin.ac.jp
3	教授	すがわら ひろし 菅原 弘	h_sugawara@seyogakuin.ac.jp
4	准教授	はやさか まさとし 早坂 正年	m_hayasaka@seyogakuin.ac.jp
5	准教授	すずき たかゆき 鈴木 享之	tk_suzuki@seyogakuin.ac.jp
6	准教授	ひらた しゅうぞう 平田 修三	s_hirata@seyogakuin.ac.jp
7	准教授	なかそね ゆたか 中曾根 裕	y_nakasone@seyogakuin.ac.jp
8	准教授	たなか こういち 田中 公一	k_tanaka@seyogakuin.ac.jp
9	講師	たみや きさ 田宮 希砂	k_tamiya@seyogakuin.ac.jp
10	助教	ひらやま よしき 平山 淑希	y_hirayama@seyogakuin.ac.jp

こども学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
数値リテラシー	1	中島 拓	業務経験:システム開発業務での生成AIツールを利用経験3年、社内ISMS委員長としてセキュリティ管理経験7年、自社および顧客サーバー管理経験20年、システム開発業務25年 資格:ソフトウェア開発技術者(IPA) 関連性:情報セキュリティ知識と管理・運用経験、生成AIの基本的な仕組みの理解と利用経験、ITシステムとサービスに対する知識と開発・運用経験からの内部理解
幼児と表現	2	芳賀 哲	造形表現に関する書籍を11冊出版。幼稚園教諭・保育士等研修会において、幼児の表現に関する講演活動を年間7～8回程度行っている。また、児童館・こども園等において、ペープサート・ハンドパペット・手作り工作を使ったパフォーマンスを毎月10回程度行っている。
音楽表現 I	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、保育現場における音楽表現について、具体的な実践を通して指導する。
音楽表現 II	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、子どもと音楽との関りについて、具体的な実践を通して指導する。
造形表現	1	芳賀 哲	造形表現に関する書籍を11冊出版している。幼稚園、保育士等の造形表現の研修を年5～6回担当。児童館、こども園、幼稚園等で工作の指導を毎月行っている。
総合表現演習 I	1	鈴木 純子	幼稚園教諭として21年間幼稚園に勤務し、クラス担任及び主任教諭として保育教材を活用し子どもたちと表現を楽しんで過ごした経験を基に、実践的な授業を行います。
子ども理解の理論と方法	1	菅原 弘	教諭として30年以上、特別支援学校と小学校で学級経営、特別支援教育、ICT活用教育等に従事してきました。現場経験に基づき、教育実践で求められる基本的姿勢と児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭1種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
保育内容の指導法(総論)	1	鈴木 純子	幼稚園教諭として21年間幼稚園に勤務し、クラス担任及び主任教諭としてのクラス運営を基に、保育内容の指導法について理論と実践を繋いで授業を行います。
特別支援教育演習 I	1	菅原 弘	特別支援学校と小学校教諭で合わせて30年以上勤務し、主に特別支援教育に従事してきました。現場経験に基づき、教育実践で求められる授業デザインや児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
子どもの保健	2	田中 希代子	助産師、東北大学病院INCU、仙台市新生児訪問指導員、養育支援指導員で20年以上の実務経験より、現場で必要な知識の習得や適切な対応を深める授業を行います。
教育実習 I	1	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる研究的視点や児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
教育実習指導 I	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上勤務する中で、実習生の受け入れおよび実習指導を行ってきた実務経験を基に、幼稚園教育実習に臨む学生に対し、事前・事後指導を通して実践的な学びを支援する。 [資格等]幼稚園教諭専修免許、保育士資格

科目名	単位	実務教員	実務の概要
基礎演習Ⅰ	2	菅原 弘	教諭として特別支援学校、小学校に30年以上勤務し、特別支援学級及び通常の学級での担任経験を有する。その間、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任として、児童理解及び保護者や校内の連携を担ってきた。現場経験に基づいた児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭1種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
音楽表現Ⅲ	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、保育現場に即した音楽表現の在り方について、具体的な実践を通して指導する。
総合表現演習Ⅱ	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許/保育士資格を有しており、保育者に求められる総合的な表現力や指導力を実践的に指導する。
乳児保育Ⅰ	2	奥山 栄子	保育分野で10年以上の実務経験と幼稚園教諭・保育士資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。
保育内容の指導法(表現)	1	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と、幼稚園教諭専修免許、保育士資格を有している教員が、子どもの感性や創造性を育む表現の指導法を実践的に指導する。
特別支援教育演習Ⅱ	1	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターを長期的に担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる障害理解及び家庭支援を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
子どもの健康と安全	1	田中 希代子	助産師、東北大学病院INCU勤務を経て、仙台市新生児訪問指導員、養育支援指導員で20年以上の実務経験を活かし、より具体的な演習を行います。
家庭支援論	2	菅原 弘	教諭として30年以上、特別支援学校と小学校で学級経営、特別支援教育、ICT活用教育等に従事してきました。現場経験に基づき、家庭支援における基本的姿勢と児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
子どもの食と栄養	2	遠藤 浩子	管理栄養士資格を有し保育園給食やクリニックでの栄養指導、特定保健指導を30年経験し分かりやすい授業を実践しています。
子育て支援	1	鈴木 純子	幼稚園に21年勤務し、クラス担任及び主任教諭としておこなってきた保育・教育および保護者支援について、事例を踏まえ具体的な対応について授業を行います。
保育・教職実践演習(幼稚園)	2	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校で合わせて30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等を担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる授業デザインや児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
保育実習Ⅰ(保育所)	2	田宮 希砂	保育現場における15年以上の実践および実習生指導経験を踏まえ、子どもの発達理解と基本的な援助技術の習得を支援する。担任および主任保育者としての経験を活かし、保育者として求められる態度や専門性の基礎形成を指導する。 [資格等]幼稚園教諭専修免許、保育士資格
保育実習Ⅰ(施設)	2	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる児童理解と障害理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許

科目名	単位	実務教員	実務の概要
保育実習指導Ⅰ	2	平山 淑希	保育・教育現場で5年以上の勤務経験あり。保育施設における保育者の子どもへの援助のあり方、子ども理解に関する指導に活かしている。
保育実習Ⅱ	2	田宮 希砂	保育現場での15年以上の実務経験と主任保育者としてのマネジメント経験を基盤に、より主体的・専門的な実践力の育成を目指して指導する。実習Ⅰでの学びを発展させ、計画性・協働性・省察力を備えた保育実践へと高める支援を行う。 [資格等]幼稚園教諭専修免許、保育士資格
保育実習指導Ⅱ	1	平山 淑希	保育・教育現場で5年以上の勤務経験あり。実務経験を指導計画の立案や活動の準備等の指導に活かしている。
保育実習Ⅲ	2	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる児童理解と障害理解及び家庭支援を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
教育実習Ⅱ	3	田宮 希砂	幼稚園において15年以上勤務し、担任および主任教諭として教育実践と後進育成に携わってきた実務経験を基に指導を行う。実習における計画立案、保育実践、記録・省察の過程を重視し、幼児理解と指導力の深化を支援する。 [資格等]幼稚園教諭専修免許、保育士資格
教育実習指導Ⅱ	1	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校教諭で合わせて30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験を具体的なイメージが持てる実習指導に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
基礎演習Ⅱ	2	菅原 弘	教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる研究的視点や児童理解を授業に活かします。 [資格等]小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許
基礎演習Ⅱ	2	田宮 希砂	幼稚園教諭として15年以上の実務経験と幼稚園教諭専修免許・保育士資格を有する教員が、保育における音楽表現をテーマとした探究的指導を行う。
	49	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	

## 2026（令和8）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

### 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。